

保育学科通信教育課程

設置の趣旨等を記載した書類

学校法人小田原女子短期大学

## <目 次>

### 1 設置の趣旨及び必要性

- (1) 教育理念及び沿革
- (2) 設置の趣旨と必要性
- (3) 人材の養成及び教育研究上の目的
- (4) 中心的な学問分野

### 2. 学生確保の見通しと社会的な人材需要

- (1) 入学定員設定の考え方とその根拠となる学生確保の見通し
- (2) 卒業後の進路と養成する人材を受け入れる側の需要

### 3 学部，学科等の特色

### 4 学部，学科等の名称及び学位の名称

### 5 教育課程の編成の考え方及び特色

- (1) 教育課程の編成の基本方針
- (2) 教育課程の構成及び科目配分の特色

### 6 教員組織の編成の考え方及び特色

- (1) 教員の配置
- (2) 教員の構成

### 7 教育方法，履修指導方法及び卒業要件

- (1) 教育方法
- (2) 履修方法及び指導体制
- (3) 卒業要件
- (4) 履修登録制限

### 8 施設，設備等の整備計画

- (1) 校地・運動場の整備計画
- (2) 校舎等施設の整備計画
- (3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

## 9 入学者選抜の概要

- (1) アドミッション・ポリシー
- (2) 募集人員と選抜の方法

## 10 取得可能な資格

### 11 実習の具体的計画

- (1) 実習先の確保の状況
- (2) 実習先との契約内容
- (3) 実習水準の確保の方策
- (4) 実習先との連携体制
- (5) 実習前の準備状況
- (6) 事前・事後における指導計画
- (7) 教員の配置並びに巡回指導計画
- (8) 実習施設における指導者の配置計画
- (9) 成績評価体制及び単位認定方法
- (10) 実習先が遠隔地などの場合の巡回指導計画上の配慮

### 12 通信教育の実施方法

- (1) 教育・研究水準確保の方策
- (2) 授業の実施体制
- (3) スクーリング会場及び宿泊施設
- (4) 単位計算及び成績評価の方法
- (5) 添削指導の実施体制
- (6) 履修指導の方法及び体制
- (7) 学生指導の体制
- (8) 添削指導教材及び通信指導教材の保管，発送等
- (9) 教員の負担
- (10) 入学者選抜の概要
- (11) 使用教材及び教材作成の具体的な準備計画
- (12) 学費

### 13 管理運営

- (1) 教授会
- (2) 通信教育課程会

#### 1 4 自己点検・評価

- (1) 基本方針
- (2) 実施方法及び体制
- (3) 評価項目
- (4) 結果の活用及び公表

#### 1 5 情報の公表

- (1) 情報の公表の方針
- (2) 情報の公表方法

#### 1 6 授業内容・方法の改善を図るための組織的な取組

- (1) 基本方針
- (2) 実施方法及び体制
- (3) 主な取組内容

#### 1 7 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

## 1 設置の趣旨及び必要性

### (1) 教育理念及び沿革

学校法人小田原女子短期大学（以下、「本学」とする。）は昭和32年3月15日に女子の知性と情操を高め、健全なる心身を養い円満なる人格をつくるため家政に関する理論及び応用を考究教授し国家社会に有能な近代的女性を育成することを目的とし、学校法人小田原女子学院として設置認可を受けた。設立の背景、事情は次のようなものである。昭和30年代になると、戦後の混乱も収まり世の中の状況も落ち着きを取り戻してきた。教育関係の分野における社会的な背景としても、①女子の社会進出が進んできた。②女子の高等学校進学の普及が基盤となり、更なる高学歴志向、専門職志向が高まってきた。こういった社会的背景を受け、当西湘地区の中心地である小田原市においても、①西湘地区に是非とも短期大学を設立したい、という地元有識者の強い熱意と要望が興ってきた。②短期大学設立の中心となって運動したのは閑院宮ご夫妻であった。といった事情により短期大学の設立実現に向かった。設立にあたっては、閑院宮様に日本女子大学の教育理念を当地で開花させたいとの強い信念があったこともあり、その教育理念の実践者である井上秀氏を初代学長として迎えることとなった。井上秀は日本女子大学の学長もつとめた経験のある、当時の日本における家政学教育の第一人者であった。

このようにして、小田原女子学院短期大学家政学科を設立し家政分野で創設され、「女子を 人として教育する 女性として教育する 国民として教育する」という建学の精神を掲げて開学し、今日まで一貫してこれを引継ぎ教育にあたっている。

小田原女子短期大学は昭和32年4月に小田原女子学院短期大学として家政分野の教育を行う短期大学として創設された。昭和33年4月に栄養士養成施設として指定され、昭和35年11月に校名を小田原女子短期大学に改称した。のち昭和44年に保母養成校に指定された小田原女子短期大学附属保育専門学校（昭和54年小田原女子短期大学附属保育学院に改称、昭和62年に廃止）を設置し、翌45年に小田原女子短期大学幼児教育学科を設置する。昭和53年には法人名を学校法人小田原女子短期大学に改称した。平成17年には家政学科が栄養教諭二種免許状授与の課程認定を受け、平成18年に、家政学科を食物栄養学科へ、幼児教育学科を保育学科へそれぞれ変更を行った。

以来56年にわたり本学の教育は、戦後の新しい女性像を掲げ、今日までの日本の近代化の一翼に大きく貢献してきた。その精神の普遍性は今日でもなお生きており、崇高な理念を持ち続けている。「人として教育する」ということは、自主的な人格を持ち崇高な理念を基調とする自覚を持つ、ということである。また、「女性として教育する」ということは女子の有する天性の素質を尊重し、その能力を啓発し、家庭や社会の物事を科学的、審美的に理解し処理する能力を磨くことである。最後の「国民として教育する」

ということは女子が社会の一員としてその権利義務責任を全うし、社会に貢献するように教育するということである。

今日では、家政分野（栄養士）並びに幼児教育及び保育の分野において、めまぐるしく変化する社会に適応できる専門的な知識と技術を学び、実践的教養と職業的能力を身につけた、社会で活躍できる人材を育成している。

以上のように、本学では、時代とともに変化する社会ニーズに対応し、専門的知識・能力を有する人材の育成を通して、人間生活をとりまく諸問題を広い視野から学び、進路に応じた個性の伸長をはかることを、教育内容としてきた。

## （２）設置の趣旨と必要性

今日、急速な少子化の進行、急速なスピードで進む社会の情報化とグローバル化、経済不況など様々な要因に基づいた社会環境の変化に伴い、子どもが育つ環境が変化した。それは、近年の子育て不安や子育て中の家族の孤立、児童虐待などに現れているように、家庭や地域社会の養育機能及び教育力の低下もひきおこしている。そして、地域子育て支援への期待や幼児教育及び保育の需要の高まりという形で顕在化してきている。さらには、児童の学ぶ意欲や学力・体力の低下をはじめ、児童虐待、暴力、いじめ、不登校、引きこもりなど様々な課題も発生している。こうした諸問題の解決を図るためには、教育・子育て支援や幼児期の学校教育及び保育等の力を併せ持った人材を養成に対することが喫緊の課題といえる。

また、子ども・子育て関連3法により幼児期の学校教育・保育、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進していかななくてはならないなかで、改正認定こども園法に基づき、新たな幼保連携型認定こども園では、保育教諭を必置しなければならない状況である。保育教諭は、幼稚園教諭免許と保育士資格の併有が義務付けられており、今後ますます幼稚園教諭免許および保育士の両資格を併せ持った人材を養成することが求められる。そして、今後、新たな幼保連携型認定こども園の設置が進む中で、幼稚園教諭のみ、あるいは保育士のみを資格を取得している現任幼稚園教諭、保育士で両資格の取得を望む者の需要が増えることも課題となる。その対象者の多くは、幼稚園・保育所等の現勤務者であるため、様々なビジネススタイルに応じ、過度な負担にならないために、通信教育などでの履修による資格取得が要望されると想定できる。

そして、近年では、子育て支援施策が充実してきており、認定こども園、幼稚園、保育所をはじめとする多様な地域の幼児期の学校教育・保育・子育て支援の資源が蓄積されてきた。しかしその一方で、①幼稚園や保育所での延長保育、一時保育や幼児園での習い事などの保護者の子育て支援サービスへのニーズが高まると共に、幼稚園・保育所や地域における保護者への支援が求められていること、②教育基本法において幼児期の

教育の振興が盛り込まれ、就学前の教育の充実が課題になり、保育所においても幼児教育の充実が求められること、③ワーク・ライフ・バランスの実現が求められる中、保護者の状況にかかわらず、子どもの最善の利益を実現する幼児教育・保育への期待が高まっていること、などという現状がある。

このように、今日の日本は、子育てをめぐる、急速な少子化の進行（平成23年合計特殊出生率1.39）、結婚・出産・子育ての希望がかなわない、子ども・子育て支援が質・量ともに不足、子育ての孤立感と負担感の増加、深刻な待機児童問題、質の高い幼児期の学校教育の振興の重要性、地域の実情に応じた提供対策が不十分等の現状があり、①質の高い幼児期の学校教育、保育の総合的な提供、②保育の量的拡大・確保、教育・保育の質的改善（・待機児童の解消、・地域の保育を支援、・教育・保育の質的改善）③地域の子ども・子育て支援の充実が課題となっている。このような現状の中、我が国における幼児教育は新しい局面に立ち至り、その重要性はますます増大すると思われる。

本課程は、建学の精神のもと、教養教育の基礎の上に幼児教育・保育に関する現代社会人として必要な専門知識と幅広い教養を身に付けた人物を育成することを目的とする。また、子どもの人権を守り、暮らしの場面で子どもと向き合う人間性と専門性を備えた子どもの自立を支援する幼稚園教諭の養成を主たる目的とし、時代の要請に応えることのできる人材の養成に取り組んでいくものである。

さらに、**（資料1）**のとおり本課程設置に対する自治体及び各団体からの要望も多い。

については、このような様々なニーズに応え、広く学習意欲がある方々へ本学の通学課程と同様の教育を提供できる通信教育を実施し、本学で学んだ専門性の高い人材を現場に送り出すことができるよう、新たに通信教育課程を設置することとしたい。

### **（3）人材の養成及び教育研究上の目的**

保育学科通信教育課程（以下、「本課程」とする。）では、幼児教育・保育の在り方についての基本的な考え方を学ぶとともに、幅広い教養と確かな専門知識・技術を身につけ、自らの専門性を通して社会に貢献できる人材、大学で得た教養と知識・技能をさらに発展させ、自然と社会に対して問題意識を持ち、生涯にわたって学びつづけようという意志を持っている人材育成する。このことは社会に貢献し、（2）で示した課題に取り組むためにも価値があることであろうと考える。

また、神奈川県では大量退職・大量採用時代を迎える中で、経験豊かなベテラン教職員が大量に退職していくことから、優秀な人材を大量に採用するとともに、ベテラン教職員のもつ教育指導に関するノウハウを若い世代に継承し、学校全体の教育力を向上させていくことが課題となっている。神奈川県においては、平成19年8月に教育を推進する総合的な指針となる「かながわ教育ビジョン」が策定され、その基本理念・教育目

標の中で、かながわの教育の質を高め、県民の揺るぎない信頼を確立するため、優秀な人材を確保し、指導力の高い教職員の育成に取り組んでおり、教員に対する需要は質・量ともに高い。

神奈川県が目指すべき教員像として、①「人格的資質」情熱 教職員としての人格的資質・教職への情熱。②「課題解決力」子どもや社会の変化による課題の把握と解決。③「授業力」子どもが自ら取り組む、わかりやすい授業の実践。の3つの要素を踏まえ人材の確保と育成を進めるとしている。本学の教育理念と、それを実現するための教育課程・手法によって、このような、地域と時代の要請に応えることのできる教員人材の養成に取り組んでいくものである。

このような目的を達成するために、次のような技術や知識を身に付けることを目標とし、本課程のデュプロマ・ポリシーとする。

1. 子どもと家族を支援するために必要とされる基礎的な知識・技術と社会観、生活力、実践力を習得した人
2. 一人ひとりの子どもの心と育ちを様々な視点から理解し、家庭的な環境とかかわりを通じて教育・保育・福祉の実践ができる人
3. 事例研究を通じて教育・保育・福祉に関する課題を分析したり、考察したりする方法を習得した人

また、このたび設置を計画する本課程では、男女共学として設置する。近年、男性の幼児教育者の需要が増えつつあるが、社会的背景として昭和52年に男性の保母資格の受験が認められるようになったこと、また昭和60年の男女雇用機会均等法や平成11年の男女共同参画社会基本法の制定を契機として、徐々に男性保母の就労数も増えていったことがあげられる。また、平成11年4月1日の男女雇用機会均等法の大幅な改正に伴い、児童福祉法施行令が改正され保育士に改称されたことも契機となった。男性の有用性としては様々あるが、例えば、女性と男性のどちらの幼児教育者もいたほうが子どもの成長にプラスではないかといった考えが広まっていること、幼稚園・児童養護施設・児童福祉施設・保育所では体力が必要な男性の方が向いている仕事があること、体育指導や遊びにおいて、いっしょにサッカーやドッジボールをしたり、勢いよく向かってきた子どもを受け止めたり抱き上げたりダイナミックな活動ができること、また、一時預かり、延長・夜間保育の必要性も高まっていることなどから、男性の活躍は期待されている。

以上、本課程の主たる目的は、子どもの人権を守り、暮らしの場面で子どもと向き合う人間性と専門性を備えた子どもの自立を支援する幼稚園教諭の養成である。



#### (4) 中心的な学問分野

本課程では「幼児教育学・保育学」を中心的な学問分野として、その教育研究を推進する。既述の教育研究上の目的に見合うよう、本課程の学生には、幼児教育・保育の学びを通じて、幼児教育者・保育者に必要な知識・技術を習得させる。加えて、幼児教育者・保育者としての態度や生活力、実践力を身につけるための一般教養科目を開設する。専門科目では、幅広い教養と、一人ひとりの子どもの心と育ちを様々な視点から理解し、課程を視野に入れた幼児教育・保育・福祉が展開できる幼稚園教諭を育成するために、実践的な内容を重視しながら専門知識を習得することを目指す。

特に、教育学的、心理学的な研究成果を教育内容に反映させ、子どもの成長発達過程について教授する。また、子どもの人権擁護にかかわる意識の高い保育者を育成するために、福祉系科目に関する研究を進めている。さらには、子どもや保護者にどのように関わるのか、とりわけお互いがどのように協力して子どもたちをサポートしていくのか、などについて学び、保護者や地域との連携の企画者、運営者としての能力も身につける。このように、社会認識と専門的な知識・技能の修得を図りながら、家庭・学校・社会において子どもをめぐる問題・課題の解決に他者と協力して取組む人材を育成するよう「幼児教育・保育」を中心的な学問分野に据えながら、「福祉系」の学問を充実させ、ネットワークアプローチを視野に入れて、教育・研究を推進していく。

## 2 学生確保の見通しと社会的な人材需要

本課程の設置計画を実行に移すにあたり、学生確保及び社会的な人材需要についての事実認識が必要であったため、ニーズの調査を行った。学生確保の見通しとしては、本課程入学対象者に該当すると思われる、主に高校生及び専門学校生並びに社会人を対象に実施したアンケート調査に基づき説明する。また、社会的な人材需要としては、本課程学生の卒業後の進路として想定される幼稚園及び児童養護施設等を対象に実施したアンケート及び調査等に基づき以下のとおり説明する。

### (1) 入学定員設定の考え方とその根拠となる学生確保の見通し

本課程は、主に教育学（幼児教育）・保育学を中心的な学問分野としており、2年課程の修了で短期大学士（保育学）の学位及び幼稚園教諭二種免許状の取得を計画する。さらに2年課程を修了し、専攻科（1年課程）にて規定の学修を修了した者には保育士資格を取得できる計画である。

本課程の定員設定及び学生確保の見込みを説明するにあたり、はじめに既設の通学制保育学科の入学志願状況について説明する。既設の保育学科での過去5年間の入学志願者数及び入学者数は以下のとおりである。

○小田原女子短期大学保育学科

5年間の入学志願者数及び入学者数の推移 (単位：名)

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
入学志願者	126	122	137	152	150
入学者	119	114	134	138	143

推移を見ると5年間での入学者数は増加の状況にあるといえる。特に平成22年から、着実に毎年入学者を増やしている。

次に、本課程では定員設定を以下のとおり設定する。

○小田原女子短期大学保育学科通信教育課程の定員設定

	入学定員	編入学定員	収容定員
保育学科通信教育課程	170人	—	340人

本課程の入学の対象者について、対象地域については通信教育による学修のため通学とは異なり、近隣地域だけではなく全国幅広い地域が対象となる。対象者は幼稚園教諭や保育士資格の取得を計画していることから、資格取得ニーズのある高校生、専門学校生、短期大学・大学の卒業者や、保育士資格が取得可能であるが幼稚園教諭免許の取得ができない専門学校生、また教育者・保育者になりたい希望を持ちながら高校卒業後に就業し職業生活を送る者や、子育てをしながら幼児教育者・保育者になることを夢見ている主婦、片方の資格を取得している現任幼稚園教諭、保育士で両資格の取得を望む社会人などが主な対象として想定できる。

次に、入学者ニーズの状況にあたっては、主に高校生及び専門学校生並びに本学ホームページ来訪者を対象に実施したアンケート調査(資料2)に基づき説明する。本調査の目的は、本課程の新設構想に対して、本学を取り巻くステークホルダーからの評価の確認及び本課程設置構想に関するニーズを明らかにすることである。調査対象者は、①通信制高校の生徒(現高校3年生)、②本学への資料請求者(現高校3年生)、③専門学校在学学生(保育士指定養成施設在学者)、④本学ホームページ来訪者(一般・社会人等)とした。ここでは、「小田原女子短期大学で設置構想中の保育学科通信教育課程について、どの程度入学してみたいと思いますか」という設問から説明する。調査①～④の回答数2,850のうち、「入学をしてみたいと思う」に回答した者は177人、「入学を検討してもいいと思う」を含めると、974人であった。回答者全体の6.2%が入学してみたいと回答し、回答者全体の34.2%が入学の検討の意向を示したこととなる。実際の募集広報活動においてはそれらの範囲が増加することとなり、さらには、本調査の

18歳にあたる現高校3年生の「入学してみたいと思う」への回答は3.6%であった。文部科学省の学校基本調査資料では、平成26年の18歳人口は約118万人である。本調査の対象は18歳人口の一部であり、18歳人口の進学希望状況や資格取得のトレンドなど変化することも想定できるが、本調査の割合から勘案すると、本課程の構想もしくは通信教育による幼児教育の分野の学修または資格取得については、比較的高いニーズがあると考えられる。また、保育士取得ができる専門学校や社会人、特に幼稚園教諭または保育士の片方の資格のみ取得している者については、新たな幼保連携型認定こども園では、保育教諭を必置しなければならない状況であり、さらに保育教諭は、幼稚園教諭免許と保育士資格の併有が義務付けられており、こういった一方の資格保有者からの入学の意向は強くなっている。専門学校在籍生からは、「入学してみたいと思う」への回答は5.1%であった。さらに、本学に対して、幼稚園教諭免許や保育士資格の取得ができるかという資格保有者からの問い合わせが増えてきている状況でもある。

一方、日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センターに対し、学校法人基礎調査をもとに同分野の他大学通信教育の過去5年間の在籍者数の状況調査を依頼した。当該調査結果（資料3）からは、教育学分野の通信制大学は短期大学が5校、大学が9校あった。収容定員規模は1,000人未満の大学はなく全てが1,000人以上で、その内定員規模が2,000人以上の学校が7割以上を占めている。短期大学に限っては5校中3校が2,000人以上の定員規模であり、通信教育においては定員規模が多く設定している大学が多いことが分かる。さらに、当該校における平成24年度の収容定員充足率は、大学（9校）収容定員34,680人、在籍者数21,544人で62.1%であり、短期大学（5校）収容定員14,600人、在籍者数11,917人で81.6%となっており、短期大学における通信教育のニーズは割合から見ても高く、当該資料及び上記アンケート調査の結果を踏まえても本課程の収容定員340人については他大学と比較しても決して高い設定ではないと考える。また、当該分野の在籍者数は全体的にみても過去5年間で若干の変動はあるものの、平成24年度の在籍者数は増加しており、大きな減少もなく推移している。私立大学通信教育協会による「入学者調査（平成23年度による）※正規の課程のみ」では、短期大学の通信教育への入学の動機は、[大卒資格：25.6%][職業資格：45.8%][知識技術：7.5%][その大学：6.8%][それ以外：14.3%]となっており、通信制大学、特に短期大学では資格取得によるキャリアアップを目指す希望者が多いといえる。本課程では、幼稚園教諭二種免許や保育士資格を取得できること、さらには幼保連携に伴い、今後は保育士資格取得者が幼稚園教諭免許を取得するまたは幼稚園教諭免許取得者が保育士資格を取得することが想定でき、学位取得希望者だけではなく、資格・免許の取得を目指す人物も多いものと見込んでいる。

以上のことから、今回計画する本課程の設置は必要性が高いものであり、実際の募集

広報活動においてはそれらの範囲が増加することとなり、調査以上の人数を確保する見通しも勘案でき、十分な学生確保が可能であると思料する

## (2) 卒業後の進路と養成する人材を受け入れる側の需要

卒業後の進路については、本課程は短期大学通信制で主に幼稚園教諭二種免許状の取得を想定した課程であり、また、既設の通学課程においても平成24年度卒業生の進学率が「0%」という現状を鑑み、多くの入学者が就職を希望、もしくは資格取得を希望するものと想定し、ここでは主に想定就職先の需要について説明する。

人材受け入れの需要については、想定される就職先の採用担当者へのアンケート調査結果(資料2)に基づき説明する。本調査は、小田原近隣地区(神奈川県、東京都西部、山梨県東部、静岡県)の幼稚園及び児童養護施設等に対して採用動向の調査を行った。人材需要の動向の根拠を示すうえで重要な要素を占める「Q7.本課程で学んだ学生を採用したいと思います」について、「採用したいと思う(11.7%)」、「採用を検討したいと思う(60.9%)」と回答全体の大半(72.6%)を示している。このうち、本課程の学生を「採用したいと思う」「採用を検討してみたい」園及び施設は350中254名と約7割以上となっている。また、「Q1.あなたの勤務先における今後の新規学卒者の採用計画について教えてください。」については、「積極的に採用を増やす計画である(12.3%)」、「いくらか採用を増やす計画である(24.9%)」を示しており、回答全体の(37.2%)が採用を増やす計画となっており、今後の採用の増加を示している。また、採用動向では、本学保育学科での幼児教育・保育関連の求人についても、以下のとおり平成22年度からの求人数は連続して増加している。上述したとおり近年待機児童の解消のため幼児教育・保育関連施設は増加の傾向であり、今後も幼稚園教諭等の需要増加が見込まれ、卒業後の進路においても求人が確保できるものと考えられる。

### ○通学課程での幼児教育・保育関係の求人件数(のべ件数)

平成21年度	平成22年度	平成23年	平成24年度
398	452	468	533

一方、人材需要の動向として、待機児童の状況から必要性がうかがえる。以下のデータに示されているとおり、神奈川県全体や、小田原市の状況からは、政策等によりあずかり先の整備や定員の拡充などにより、年々減少しているが、全国的には、平成23年10月、厚生労働省発表の認可保育所入所待機児童数は46,620人、同年4月の待機児童数25,556人から21,064人の増加(1.8倍)であり、全国各自治体でも認可保育所を増やしてはいるものの、長引く不況の折、共働きの世帯は増え、働きたいが預ける保育所がない、または、やむなく無認可保育所に預けているという待機児童数はまだまだ増加している。

○待機児童数

- ・全国の待機児童数の状況

(厚生労働省 保育所関連状況とりまとめ 平成24年4月1日より)

(単位：名)

	4月	10月
平成21年	25,384	46,058
平成22年	26,275	48,356
平成23年	25,556	46,620
平成24年	24,825	—

- ・神奈川県保育所入所待機児童数の状況

(神奈川県 保育所入所待機児童数の状況についてより 平成24年6月8日発表)

(単位：名)

(各年4月1日現在)	神奈川県	うち小田原市
平成21年	3,245	40
平成22年	4,117	15
平成23年	3,095	19
平成24年	2,039	27

子育て支援サービスへのニーズが高まるなかで、認可保育所は年々施設数を増加しており、平成24年の時点で、認可保育所は23,711か所、全体の定員数は224,178人となり、10年前と比較し、施設数で約1,500カ所、定員数で約27万人以上増加している。それでもなお、子どもが生まれたあとも働き続ける家庭が増えたことや、保育所の施設数や定員数が拡大したため、「自分たちも利用できるだろう」と考える家庭が増えたことにより、待機児童が減らない状況となっている。そのような状況から、国や自治体は多様な保育サービスを充実させるため預け先＝認可保育園だけでなく、幼稚園でのあずかり保育や、認定こども園を普及させること、「家庭的保育」（自治体から認定を受けた家庭的保育者が自宅などで少数の子どもを保育するサービス）や「グループ型小規模保育事業」（複数の保育ママが同じ場所でグループを組んで保育をするサービス）を広めること、病院や一般企業に設けられる事業所内あずかり施設を強化すること、認可保育所の株式会社参入の促進など、様々な子育て支援サービスも拡大してきている。

さらには、子ども・子育て関連3法により幼児期の学校教育・保育、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進していかななくてはならないなかで、改正認定こども園法に基づき、新たな幼保連携型認定こども園では、保育教諭を必置しなければならない状況で

ある。保育教諭は、幼稚園教諭免許と保育士資格の併有が義務付けられており、今後、新たな幼保連携型認定こども園の設置が進む中で、幼稚園教諭のみ、あるいは保育士のための資格を取得している現任幼稚園教諭、保育士で両資格の取得を望む者の需要が増えることも課題となる。その対象者の多くは、幼稚園・保育所等の現勤務者であるため、様々なビジネススタイルに応じ、過度な負担にならないために、通信教育などでの履修による資格取得が要望されると想定でき、今後ますます幼稚園教諭免許および保育士の両資格を併せ持った人材を養成することが求められる。このように、子育て支援のニーズは年々高まっており、乳幼児や子育てに関する質の高い知識や技術を持つ幼稚園教諭及び保育士の養成や、幼稚園教諭と保育士の両資格を持つ、より専門性の高い人材を養成し現場に送り出すことが必要と考えられる。

また（資料1）の要望書にもあるとおり自治体及び教育委員会並びに各種関係機関より本課程の設置を要望されており、地域的な人材需要があることが見込まれる。

以上のことから、今回計画する本課程の設置は必要性が高いものであり、卒業後の進路として本課程が養成する人材を受け入れる側の需要は十分あるものとする。

### 3 学部、学科等の特色

本課程は、子どもの人権を守り、暮らしの場面で子どもと向き合う人間性と専門性を備えた子どもの自立を支援する幼児園教諭の養成を主たる目的としている。

これは、教員養成に対する理念に通じるものである。すなわち「確かな教育技術を獲得し、子ども観や社会観などを身につけ、一人ひとりの子どもの心と育ちを様々な視点から理解し、家庭を視野に入れた教育が展開することができる」教員養成こそが本課程の教員養成の理念である。

#### <教育目標>

##### 1. 自他共に敬い愛する人として教育する

自らをかけがえのない存在として自覚し、常に向上心を持ち、他を思いやる  
ことができる人として教育する

##### 2. 豊かな知性と感性溢れる人として教育する

広い視野から物事を見つめ、その理を極める姿勢を養うとともに個性を伸ばし、  
女性の賦性を磨くよう教育する

##### 3. 健やかな家庭、社会を担う人として教育する

専門的知識および実務的能力を養い自らの幸福を求めるとともに、社会の一員としてその権利義務責任を全うするよう教育する。

中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」（2005（平成17）年）1月28日において示された「新時代における高等教育機関の在り方」に照らし、中央教育審議会答申に示された短期大学の課程の機能として「教養と実務が結合した専門的職業教育」及び「より豊かな社会生活の実現を視野に入れた教養や行動な資格取得のための教育」並びに「地域社会の必要に根ざしながら社会人や高齢者などを含む幅広いライフサイクルに対応した多様な生涯学習機会の提供等」の機能があるが、本課程においては、幼稚園教諭の資格取得（専攻科での保育士資格の取得も予定）が可能な学科であり、その重点は幼児教育・保育領域に限定される。このため、本課程は幼児教育・保育領域における「専門的職業教育・資格取得のための教育」の機能を担うことを特色としている。

また、近年では、短期大学における地域社会連携の必要性や地域からの要望により、地域の中での子育て支援・保護者支援にも力を入れている。さらに計画中的本課程においては、通信教育での学習により社会人や高齢者などに対応できる生涯学習機会の提供が可能となり、「地域社会の必要に根ざしながら社会人や高齢者などを含む幅広いライフサイクルに対応した多様な生涯学習機会の提供等」の機能についても充実の状況にあると考えられる。

具体的に本課程の特色として次のような特色が挙げられる。

#### ①教養と生活力の醸成

本課程では、教養科目を通じて、幼児教育者・保育者としての教養、生活力の基礎を培う。具体的には、1年次に基礎学力演習を置き、幼児教育者・保育者としての態度や生活力、基礎学力、日本語力を身につけさせる。また、2年間を通して総合文化という独自科目を置き、日本の古典芸能、芸術鑑賞、読書を通じて自己を見つめ、人としての生き方・学び方を考える機会を用意する。また、通信生についても学校近隣地区でのボランティア活動の参加を案内し、希望者には積極的に参加を促し、地域社会での活動経験、多様な能力の育成、社会性の涵養ならびに実践による知識技術の習得などを目指し、幼児教育者・保育者としての社会観、教養の基礎づくりをしていく。

実習指導においては、チューター制によるきめ細かい指導を通じて、幼児教育者・保育者としての資質を育てる。チューター制では、実習前に面接を行い、幼児教育者・保育者としての自覚を高め、実習中には実習先を訪問して指導を重ね、実習後には実習先の評価を得て、教員が担当の学生とともにより高い資質を持つ幼児教育者・保育者を育成すべく研鑽に努める。同じ地域に実習に行き、就職も考えている学生を集めた実習チュータークラス会も企画しており、この中では学生同士の情報交換や認め合いを通じて、自ら振り返り、気づくことができる資質を育てていく。

実習指導にかかわる授業科目内ではSST（ソーシャルスキルトレーニング）の手法を使い、生活の多様な場面で幼児教育者・保育者として子どもや保護者に柔軟に対応できるように、面接授業では個人ワーク、グループワーク、全体でのセッションを繰り返して行っていく。また、実習準備のため、体力づくりと生活力の醸成を兼ねて、体育館で雑巾がけ、ほうきを使用した掃除などを行い、日常生活においても自ら生活を整える契機とするよう働きかけている。

## ②地域の中で保護者支援、人間性と保育の実践力を育成

小田原市のマロニエ子育て支援センター（鴨宮）の運営を受託し、学生はボランティア活動や卒業論文調査などを支援センターで行うことができる。本学学内では、「子育て支援ひろばおだっこ～おだたんひろば」に学科事業として取り組み、ゼミ活動の一環として学生が保育計画を立て、活動し、省察をする。

また、卒業研究（ゼミナール）では、小田原市の児童委員が運営する陽だまりサロン（子育てひろば）に参加し、地域の保護者と子どものかかわりを経験し、地域の方々と交流する中で人間性を陶冶している。

さらに毎年5月末に小田原市で行われる子育て支援フェスティバルでは、本学教員が実行委員長を務めていて、その実行委員会において地域の子育てに関するサポートをおこなっている各団体と力を合わせることで地域の保護者支援の一役を担っている。学生は当日幼児教育者・保育者として本学で学んだ運動遊びや音楽遊び、工作を工夫して会場内で参加した親子に提供し、交流を深め、保育者としての実践力を伸ばすことができる。同フェスティバルでは毎年のべ3,000人以上の地域の人々の参加がある。

このように、本学は地域に根差す短期大学として、地域の資源を活用しながら、学生が実体験する場を多く地域に持ち、保護者支援に取り組む力を養い、人間性を涵養するとともに、保育の実践力を伸ばしていく。

## 4 学部、学科等の名称及び学位の名称

既設の通学課程の保育学科における教育・研究及び人材育成のノウハウをもとに、保育学科の教育課程の編成の考え方及び特色を活かし、通信教育にて幼児教育・保育の現場で活躍できる人材を養成することを目的とし、「保育学科通信教育課程」とする。また、本学の卒業生には「短期大学士（保育学）」の学位を授与する計画である。

また、学科・課程の英語名称は以下の通りとする。

学科名称： 保育学科



英訳) Earlychildhood Care and Education

課程名称： 通信教育課程

英訳) Correspondence Course

学位名称： 短期大学士 (保育学)

英訳) Associate Degree (Earlychildhood Care and Education)

## 5 教育課程の編成の考え方及び特色

### (1) 教育課程の編成の基本方針

本課程は、子どもの人権を守り、暮らしの場面で子どもと向き合う人間性と専門性を備えた子どもの自立を支援する幼児園教諭の養成を主たる目的としている。

本課程においては、教育研究上の目的である、幼児教育・保育の在り方についての基本的な考え方を学ぶとともに、幅広い教養と確かな専門知識・技術を身につけ、自らの専門性を通して社会に貢献できる人材、大学で得た教養と知識・技能をさらに発展させ、自然と社会に対して問題意識を持ち、生涯にわたって学びつづけようという意志を持っている人材育成を実現するため、教育課程を「教養科目」「専門科目」に区分し、それぞれの教育が有機的に連携し、体系的に学習できるよう、次のように編成する。

#### ①教養科目

保育者に必要な態度や生活力、実践力を身につけるため、学科独自の教養科目群を編成する。

#### ②専門科目

一人ひとりの子どもの心と育ちを様々な視点から理解し、家庭を視野に入れた保育・幼児教育・福祉が展開できる保育者・幼児教育者を育成するために、実践的な内容を重視した専門科目を編成する。

#### ③カリキュラム編成

保育者・幼児教育者としての子ども観や社会観などを身につけ、基礎的な知識・技術を段階的に習得できるような保育学科全体のカリキュラム編成とする。

以上を本課程の教育課程の編成の基本方針、すなわちカリキュラム・ポリシーとする。

また、「人材の養成及び教育研究上の目的」において上述した、デュプロマ・ポリシーと教育課程の編成の関連性については、カリキュラムマップ及び概念図（資料4）にて説明する。

## （2）教育課程の構成及び科目配分の特徴

本学では、教育理念・教育目標にあるとおり、人間性を高める教育に重点を置き、実践的教養と職業的能力を身につけた人材の育成を目指している。

本課程における教育目的として、人間教育と専門教育を通して、短期大学士にふさわしい豊かな教養と専門性を身につけ、幼児教育者・保育者として子どもや保護者を支援するために必要な生活力・実践力を身に付けた幼児教育者・保育者養成を目的としている。

人間教育と専門教育を通して、幼児教育者・保育者としての専門性を身につけることが目的であるため、①教養科目においては専門科目の基礎となるよう専門科目と融合できるように教授すること。②専門科目においては、各教科の基礎は、「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」を基に教授することを重視し教育課程の構成を展開する。

また、①子どもの発達の特徴や障害児の特徴を理解し、よりよい教育・保育環境を構成し、子どもの主体的な学びを援助できる人材。②子どもの成長発達の基本的な理解と子育て支援の重要性を理解し、家庭や保護者への子育て支援に従事できる人材。③地域における子ども・子育て支援を理解し、地域と連携し家庭の状況に応じた子育て支援サービスを実践できる人材。④幼稚園と保育の機能を合わせ持った「認定こども園」などにおいて教育・保育・福祉を複合的に実践できる人材の養成を目的とした科目構成及び教育内容・方法とする。

### ①教養科目（25単位）

本課程の教育研究上の目的を達成するうえでも、一般的で広範かつ基礎的な教養を十分に身につけていることが求められる。そして、中央教育審議会「新しい時代における教養教育の在り方について（平成14年2月21日）」より、教養教育の重要性や意義が答申に示されたように、短期大学、すなわち本学の機能として専門的職業教育や、高度な資格取得のための教育が重要であるとともに、これらは教養教育の基礎の上に立ち、短期大学として他の教育機関等により提供される実務教育・職業教育とは異なる特徴があるものであり、自己の人間としての在り方・生き方にかかわる教育であると考えられる。したがって、教養科目では、一般的な教養として幼児教育や保育の専門職にとって不可欠な知識基盤としての科目であり、かつ教養と実務が結合する科目を中心に編成されている。

本学の教養科目は、以下のような目的と枠組みで構成されている。

- (1) 基礎的な学問的素養を身につけるための各学問分野の代表的な学問である自然科学分野（「生物学」）、人文科学（「心理学」）、社会科学（「経済学」）を配置する。教養科目はすべて幼児教育者・保育者としての基礎を形作るものとして内容を精査している。「生物学」は環境としての生き物とのかかわりを促進できるように基礎的教養を身につけ、「環境指導」の授業内容につながる内容である。「心理学」は「保育の心理学」との関係性を重要視した内容である。「経済学」は社会の仕組みを理解し、保護者支援や幼児教育者・保育者としての園の運営理解につなげることも意図している。「日本国憲法」は本学建学の精神にある「国民として」に関連して、日本という国の枠組みを理解する教科目である。
- (2) 語学やコミュニケーション能力を身につけるため日本語については、「文学」、「基礎学力演習」（漢字や敬語、手紙の書き方など）、外国語として「英語」、「英会話」を配置する。この科目では、自然と社会に対して問題意識を持ち生涯にわたって学び続けようという意欲の基礎となる学力や生活文化を身につける科目として位置付けている。「文学」では、小田原市にゆかりの文学や文人について学び、地方都市の文化遺産から生活に根付いた文化への理解深めるとともに、書物に生涯にわたって親しめるような生活習慣の基礎を作る。「基礎学力演習」では、日本語検定を目指して勉強し、保育日誌や保護者への手紙などにも困らない基礎学力と教養を身につける。「英語」で基礎的な学びを再確認し、「英会話」では、卒業後も国際的な視野を持てるよう、基礎知識の学びをもとに、ネイティブスピーカーから生きた英語の楽しさと、異文化について学ぶ。
- (3) 芸術や日本文化、海外の文化を学び、視野を広げるため「総合文化」（歌舞伎や文楽の鑑賞、美術館、博物館見学）、「海外文化事情」を配置し、特に「総合文化」は本学の特徴的科目である。入学時から卒業までを視野に入れ、双方向の学習と体験的学びを通じて、教育目標を念頭に置いて構成している。歌舞伎や文楽の鑑賞においては、ただ鑑賞するのではなく、文化としての意味や歴史を学び、芸術舞台鑑賞のマナーについても指導をし、幼児教育者・保育者として恥じない態度を育成する。美術館、博物館見学では、地元の美術館、博物館の作品展などに足を向けることにより、卒業後も美術・芸術に親しむとともに、幼児教育者・保育者として子どもに美術・芸術鑑賞の素晴らしさを伝えられることを期している。
- (4) 幼児教育・保育や地域での子育て支援サービスの在り方を身につけるため、「地域と福祉」「児童館の機能と運営」を配置する。この科目については、児童厚生員資格においても関連する科目である。「地域と福祉」では、子どもを取り巻く地域環境に

ついて知り、自らも環境を子どもにふさわしく改善する主体として意識できるように授業を展開する。地域にある子育て支援サービスの資源を使って子どもに対応するとともに、子どもや保護者自身が子育て支援サービスの資源を使いこなせるような支援も視野に入れて学んでいく。「児童館の機能と運営」では、児童館のみならず、公民館など地域にある子どもの学びにつながる施設について理解を深め、幼児教育者・保育者として活用できるように知識を深めていく。

(5) 就労意欲を高め、さらにそれを学習への意欲につなげるべく「職業と社会Ⅰ」「職業と社会Ⅱ」を配置する。「職業と社会Ⅰ」では、就労意欲を高め、自らの人生を物心ともに豊かにする職業生活についてイメージを広げるとともに、具体的な就職支援も行っていく。「職業と社会Ⅱ」では、就職試験を目指し、実際に希望した職業につながるように、個々の学びを現場の幼児教育者・保育者に落とし込んでいく。

(6) 大学で得たスポーツに関する教養と知識・技能を卒業後もさらに発展させ、生涯にわたってスポーツをつづけようという基礎的な価値観を身につけるため、「健康・スポーツ実技」「健康・スポーツ理論」を配置する。健康指導法、身体表現の内容に関係付けながら授業展開をする。幼児教育者・保育者として子どもの運動遊びを促進する基礎となる自らの健康やスポーツへの意識を高めていく。

## ②専門科目（72単位）

本課程の教育研究上の目的を達成するうえで、専門科目の内容充実を最重要視している。専門科目は幼児教育者・保育者としての免許・資格取得の核となる科目であり、すべての専門科目が実習に結びついている。実習以前に学ぶ教科目は最低限幼児教育者・保育者としての実践に必要な科目を配置している。実習前に学習する教科目は、保育に関するイメージが乏しい学生にも容易に理解できる具体的な内容とし、実習前には、5領域の指導法や保育系教科目の担当者が、実習指導案について各分野から学生指導を行っており。このような教科目の配置により、多様な実践に備えられる環境を整えている。実習で教育・保育の在り方、現状を観察し自ら実践してきた学生には抽象的な理論が不十分ながらも理解できるようになってきている。実習で気づいた自らの課題を克服すべく、実習後に配置された科目では、実習で出会った事例を当該教科目の理論で分析できるように組み立てている。最終的にすべての実習や学びを統合し、現場に対応できる幼児教育者・保育者を育成する目的で保育・教職実践演習を配置し、教養科目も含めた統合を目指して、卒業研究による卒業論文の指導を行っている。

したがって、専門科目においては、必要な科目を配置するのは当然のことながら、その内容の精査を繰り返している。

専門科目は、以下の考え方で編成している。

(1) 基礎的な知識は実習前に身につけるように早い時期に配置

- (2) すべての学生が確実に習得できるように、通年科目と半期科目を適切に配置
- (3) 具体から抽象へという流れ方向性で配置
- (4) 専門科目を実習や教養科目で学んだことと統合できるような科目を卒業前に配置

### 教科に関する科目

教育実習に備え、教科に関する科目の中心である必修科目は1年次に配置する。

1年次配当科目：「音楽表現Ⅰ（A・B）」「造形表現Ⅰ・Ⅱ」「身体表現Ⅰ・Ⅱ」  
「言語表現」

2年次配当科目：「音楽表現Ⅱ・Ⅲ」

### 教職に関する科目

#### ・教育の意義に関する科目

ここでは、教育観、保育観、価値観、社会間の基盤を形成するための教科目を1年次に配置し、それを活用して展開するための科目を2年次に配置する。

1年次配当科目：「保育者論」「児童家庭福祉」「社会福祉」「保育原理」

2年次配当科目：「相談援助」「社会的養護」

#### ・教育の基礎理論に関する科目

すべての学びの基礎となる原理、一人ひとりの子どもの心を理解するための心理学の基礎理論、子どもの心を様々な観点から理解するための心理学は2年次の学習にとって不可欠であるため1年次に配置し、教育の基礎理論を中心に学習する。

1年次配当科目：「教育原理」「保育の心理学Ⅰ・Ⅱ」「教育制度論」

#### ・教育課程及び指導法に関する科目

教育課程の編成に関する知見をもとに、一人ひとりのこどもの心と育ちを様々な観点から理解しながら教育・保育を実践できるよう配置する。

1年次配当科目：「健康指導法」「人間関係指導法」「環境指導法」「表現指導法」  
「言葉指導法」「保育課程論」

2年次配当科目：「保育内容総論Ⅰ・Ⅱ」「視聴覚教育」

#### ・生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目

人としての育ちと、全ての教科目の学びの総合と応用が求められるため2年次に配置する。

2年次配当科目：「幼児理解の理論と方法」「教育相談」

### ・教職実践演習

教科に関する科目、指導法に関する科目の総合的な応用が求められるため2年次に配置する。

2年次配当科目：「保育・教職実践演習」

### ・保育の内容・方法に関する科目等

保育士資格に関する科目については、養護（生命の維持と情緒の安定）に関わること、また、教科に関する科目の総合的な応用を通じ、子どもと家族への支援に必要とされる知識や技術を身に付けるため配置する。

1年次配当科目：「子どもの食と栄養」「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」「障害児保育Ⅰ・Ⅱ」

「社会的養護内容」「子どもの保健Ⅰ」

2年次配当科目：「家庭支援論」「表現総合演習」「子どもの保健Ⅱ」「保育相談支援」

### ・情報機器の操作

Windowsの基本的な操作、情報モラル（インターネット上で情報をやりとりする際に必要とされる適正なマナー等）の習得、セキュリティに関する知識、アプリケーションソフト（MS Word, Excel等）の基本的な操作を通じ、教育・保育現場で作成される文書・図・画像・表の作成等の実践的な操作及び応用事例と著作権等に対する知識や表現方法も含め、文書作成技術の習得をするとともに、おたより作成、Webページの運用、教育・保育記録の電子化、保護者との連絡、会計管理など教育者・保育者として必要な情報機器操作の知識・技術を学習し、情報を自分の目的に適合するように使用できる能力を養う。

1年次配当科目：「情報処理論」

### ・卒業研究

事例研究を通じ、教育・保育・福祉に関する課題を分析、考察する方法を修得する。

また、事例研究ができる幼児教育者・保育者養成を意図し、すべてのゼミナールにおいて事例研究を指導する。

2年次配当科目：「卒業研究（ゼミナール）」

## 6 教員組織の編成の考え方及び特色

### (1) 教員の配置

本課程は、短期大学通信教育設置基準第九条第二項の規定により、「昼間または夜間において授業を行う学科が通信教育を併せ行う場合」の基準により設置するものである。本課程における教員組織の編成については、幼児教育、保育分野に関する豊富な経験と実績があり、体系的に教育研究指導を行うことができる通学課程の専任教員を中心に配置していることから、それぞれの専門分野に適切な人数の専任教員を配置し、通学課程と本課程の両課程が連携し合い、教育研究機能を柔軟かつ活発にする。

本課程設置にあたっては、専任教員13名に加え、主に通信教育を担当する専任教員3名を含む3名を増員し、16名体制にして保育学科全体で体制を整える。

また、通信教育においても通学と変わらない幼児教育、保育の専門的な知識や技術の教授と実践良くの高い専門職養成を目指すため、通信教育の実績が豊富でこれらの分野で活躍している教員を兼任に迎え、学生の教育研究指導の充実を図る。

以上により、担当教員が通学課程と本課程の双方を兼務した場合やスクーリング実施の際など、学生への充実した教育研究指導が実施でき、かつ教員負担も考慮した教員組織を編成し、実績のある通学課程と同様の指導体制で教育を実施する。

## (2) 教員の構成

本課程設置時における専任教員、兼任教員、兼任教員の年齢及び男女構成はそれぞれ次のとおりである。また、定年に係る規程は(資料5)のとおりである。

### a 専任教員

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計
男性	0	1	0	1	0	2
女性	0	2	3	8	1	14
計	0	3	3	9	1	16

### b 兼任教員

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計
男性	0	0	0	0	1	1
女性	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	1	1

c 兼任教員

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計
男性	0	2	1	1	0	4
女性	0	0	6	2	1	9
計	0	2	7	3	1	13

d 合計

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計
男性	0	3	1	2	1	7
女性	0	2	9	10	2	23
計	0	5	10	12	2	30

## 7 教育方法，履修指導方法及び卒業要件

### (1) 教育方法

本課程で開設する全60科目のうち、31科目をテキスト履修科目（印刷教材による授業科目）、25科目をスクーリング履修科目（面接による授業科目）、教育実習含む4科目をテキスト履修科目及びスクーリング科目の併用科目に設定する。主に、「講義」の授業形態により実施する科目をテキスト履修科目に、「演習及び実験・実習」の授業形態により実施する科目をスクーリング履修科目とする。ただし、一部の演習科目については厚生労働省の「指定保育士養成施設通信教育部における面接授業等実施基準」に沿ってテキスト履修科目及びスクーリング履修科目を区分している。

演習科目の印刷教材での実施方法は、テキスト及び学習の手引きの使用やコミネットによるメディアを活用し、学生自らが自宅学習等で演習課題に取り組む方法により学習する。また、当該科目の課題においても、演習問題での設問や学生自らが演習を通して学習することで達成可能な課題方法により単位修得できるよう実施する。中間試験及び科目修得試験においても、レポートだけでの出題ではなく、演習問題の実施や自らが演習した結果を回答できる設題とする。

テキスト履修科目及びスクーリング履修科目の授業方法については、それぞれ次のとおり実施する。なお、それぞれの開講予定表は（資料6）のとおりとする。



### ①テキスト履修科目

本課程のテキスト履修科目では、学生はシラバス、指定教科書及び担当教員が執筆した「学習の手引き」等を用いて学習を進め、科目修得試験を受験する。

学習の進め方は、テキスト及び学習の手引きを用いて学習を進める。学習の手引きは、コミュニケーションシステム「コミネット」に科目ごとに設定された場所に科目ごとにアップロードし、学生はこれを閲覧やダウンロードをして使用する。また、学習の手引きのほか、様々なデータがアップロード可能であるため、学習を進めるうえでの補助資料をアップロードすることもできる。このほかに、科目ごとに設定された場所には、学生からの質問に答える、また、教員が学生に回答する、学習指導・助言をするコミュニケーションのツールとしても活用できる。このように、メディアを活用し学習効果を向上させることが可能となる。そのほかの学生と教員とのコミュニケーションの方法として「オフィスアワー（専任及び兼任教員に限る）」を週3時間程度設定し、学生が直接担当教員へ質疑応答を行える時間を設定する。なお、科目修得試験は、担当教員により作成された択一、穴埋、記述、レポート形式等の試験を課し行う。

### ②スクーリング履修科目

本課程のスクーリング履修科目では、完成年度には年9回のスクーリング日程を設け、集中講義による授業を実施する。授業内に実施される課題、科目修得試験、事前あるいは事後課題等により総合的に評価する。なお、各日程で開講されるスクーリング履修科目は、本学がこれを指定し、年1～2回の頻度で設定する。

## (2) 履修方法及び指導体制

本課程では、(1)で記した教育方法以外にも、本学コミュニケーションシステム「コミネット」の使用法、WEB履修申請、履修モデル（資料7）の提示、図書館等の施設利用、各種事務手続き等、通信教育特有の事項を学生が理解できるよう、次のような指導体制を敷く。また、学習の流れ（同上資料）を示すこととする。

### ①履修オリエンテーションの実施

入学後の週末を利用し、大学生活への理解を深め、履修計画をスムーズにたてることのできることを目的に、履修オリエンテーション及び個別相談を本学キャンパスで実施する。本学コミュニケーションシステム「コミネット」、学生便覧及び履修モデル等を用いながら、本課程の履修方法を指導することはもちろん、学生生活の全般的事項を説明する。

## ②学生便覧等の配布

学生便覧や、学生便覧に付属するコミネットの利用マニュアルを全入学生に配布する。また、コミネット内で、教育研究活動や事務手続き等に係る資料を閲覧できるようにし、通信教育であっても利便性が保てるよう環境を整える。

## ③コミュニケーションシステム「コミネット」

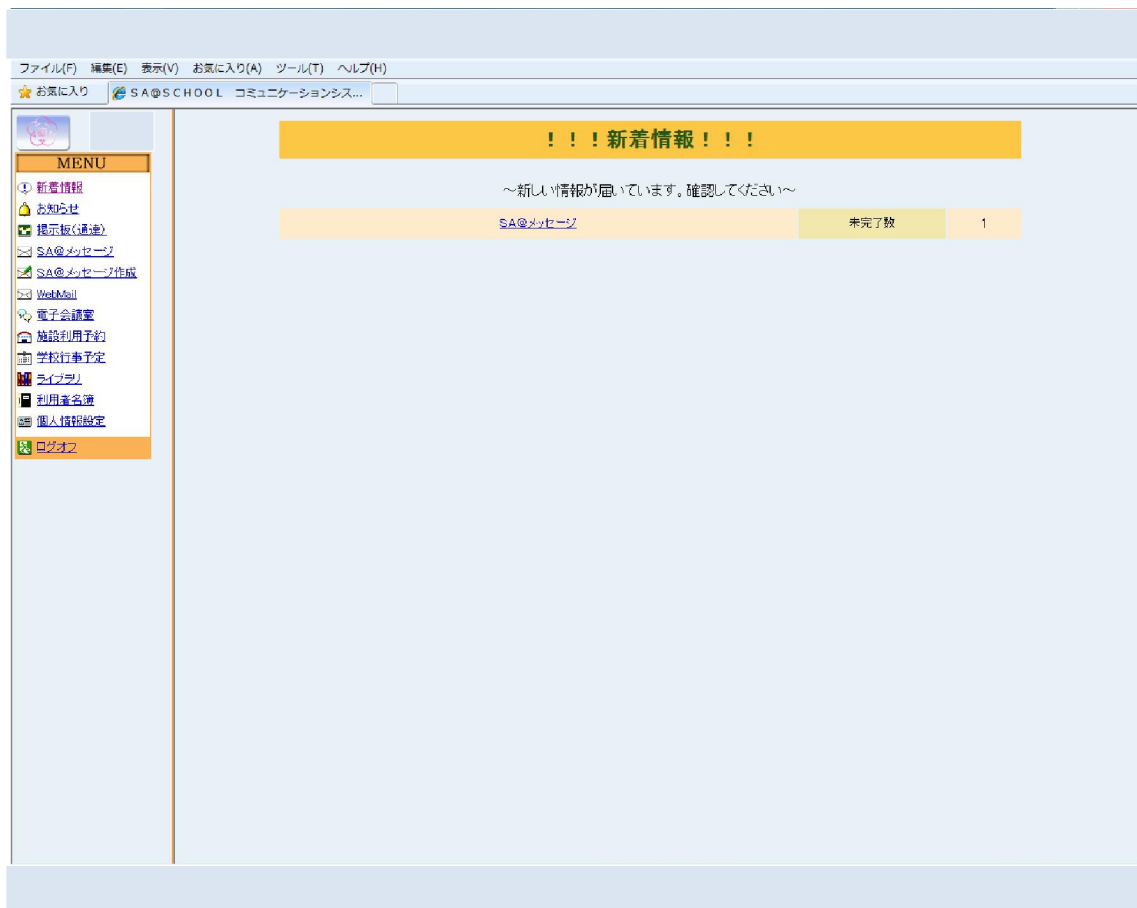
本学では、教職員が学生に対するお知らせや連絡、情報提供等、学内のコミュニケーションシステムを導入している。学生ひとり一人に ID・パスワード・メールアドレスを付与し、学校全体・学科全体の学生に情報発信が可能な掲示板のほか、選択した学生にまとめてメッセージを送るメッセージ機能、またメールが使用できる。

コミネットは、インターネットが使用可能な端末であれば、いつでもどこでも利用することが可能であるため、このコミネットを利用することにより通信生についても、履修登録期間やスクーリング実施日、科目修得試験日などのお知らせを全学生に連絡することができ、また、学生からの個別相談の受付、学生個々への連絡に対応することができるため、より細かな履修指導や学生支援の実施が可能となる。

The screenshot displays a web browser window with the following elements:

- Navigation Menu (MENU):** Includes links for '新着情報', 'お知らせ', '掲示板(通達)', 'SA@メール', 'SA@メッセージ作成', 'WebMail', '電子会議室', '施設利用予約', '学校行事予定', 'ライブドア', '利用者名簿', '個人情報設定', and 'ログオフ'.
- Header:** Shows '掲示板 (通達)' and '戻る' / '更新' buttons. The current view is '学生掲示板 保育学科'.
- Search and Filter:** A search bar and a filter dropdown set to '▼表示条件 全て表示'.
- Post List Table:**

No.	タイトル	名前	投稿日	参照数
21	保育学科1年生定期試験時間割	(教職員)	2013/01/15	60
20	卒業する2年生へ(20130401)	(教職員)	2012/12/05	71
19	保育学科2年 面談予約について	(教職員)	2012/10/23	46
18	10月24日について連絡	(教職員)	2012/10/22	62
16	8月18日の定例会について		2012/09/18	66
- Post Detail View (投稿表示):**
  - Buttons: '投稿を保存' / 'ダウンロード'
  - Category: '掲示板種類: 学生掲示板 保育学科'
  - Metadata: '投稿日: 2013/01/15 09:53 投稿者: (教職員) タイトル: 保育学科1年生定期試験時間割'
  - Content: '保育学科1年生定期試験時間割を掲示します 授業及び試験実施教室の確認をして下さい 学内掲示板にも掲示します'
  - Attachment: '添付ファイル: 24年度後期試験.xlsx (35339バイト)'



コミネットの管理体制（資料16）は、本学、情報システムネットワーク運営委員会が管理運営を行う。コミネットは具体的には、大きく「学務系システム」「グループウェア」「教育機関用のGoogle Apps（gmail）」を連携して使用し、サーバーは株式会社クレオネットワークスに委託し、クラウド型の運営によりデータセンターで管理を行う。データセンターでの委託内容は主に24時間365日サーバーを監視し、その他ウイルス対策運用、バックアップ運用等を委託する。データセンターはISO国際規格認証に基づく運営管理体制のうえ、地震など様々な災害対策及びセキュリティ対策が施された施設での管理としている。データセンターでの緊急時の対応として、24時間365日サーバーを監視し、サーバーのトラブルや機器等のトラブル時には、本学担当者及び学務システムベンダーの各担当者へリアルタイムにアラート配信及び電話連絡がされる仕組みとし、事前に取り決められた手順に従い、タイムリーに障害時の一次対応を実施する体制とする。また、データのバックアップ体制も二重体制を敷きデータ消失がないように対応している。そのほか「教育機関用のGoogle Apps」においても、平成25年において約80の大学・短期大学が導入しており、導入実績からも信頼できる環境であるといえる。

このような管理体制のもと、学生が安心して利用できるコミュニケーションシステム環境を整備し、円滑に学修を進められるサポート体制を構築する。

### (3) 卒業要件

本課程では、学生が本学を卒業する際、各学科等に求められる専門性を十分に学び、より柔軟で的確な対応力を持つ人材となるよう、卒業要件を設定する。本課程における卒業に必要な単位数は62単位以上（うちスクーリング履修科目は15単位以上）であり、その内容は次のとおりである。

科目区分	卒業要件単位		
	必修	選択	小計
教養科目			
	外国語科目	4	10 単位 以上
	体育科目		
0	39	52 単位 以上	
教科に関する科目			
教職に関する科目			
合計	13	43	62 単位

#### <備考>

1. 教養科目については、「総合文化」、外国語科目「英語」、体育科目「健康・スポーツ理論」「健康・スポーツ実技」を必修とする。
2. 専門科目については、教職に関する科目「保育者論」「教育原理」「保育の心理学Ⅰ」「保育の心理学Ⅱ」を必修とする。
3. 総計で、通信教育課程の卒業要件を62単位以上とする。
4. 卒業要件単位62単位のうち、15単位以上の面接授業（スクーリング）による修得を卒業要件単位数とする。

### (4) 履修登録制限

本課程の履修登録制限については、学生に計画的な学年進行及び履修を促すために、履修登録の上限を年間42単位とする。

## 8 施設、設備等の整備計画

本学では既に保育学科の通学課程を開設しているとともに、食物栄養学科も併設されていることから、既存の施設・設備等を共用して使用する。

また、科目修得試験及びスクーリングは原則的に、通学課程が休日となる土・日・祝日及び長期休暇時に実施する。必要に応じ、既存施設の演習室及び学生ホール並びに図書館を開放し、学生が自習可能な環境を整える。

## (1) 校地・運動場の整備計画

本学のキャンパスは、神奈川県小田原市城山4丁目5番1号に設置する。最寄りの小田原駅は神奈川県西部のターミナル駅となっており、JR東日本、JR東海新幹線、小田急電鉄、箱根登山鉄道、伊豆箱根鉄道と交通の利便性が高い。キャンパスは総面積12,180.60㎡の敷地に本館、手塚誠記念館（体育館・講堂）、南館、東館、別館（研究室）を配置している。本課程の学生においても、本学キャンパスがスクーリング等の学生生活の中心となる。当校舎には、学生ホール、食堂、図書館等が設置され、教育研究に必要な環境が整備されている。運動場は、近隣に総面積5,870.00㎡の敷地を設置している。

## (2) 校舎等施設の整備計画

本学のキャンパスでは、講義室12室、演習室8室、実験実習室7室、パソコン室4室、研究室24室等を整備している。講義室は、大講義室（収容人員170名×2室、285名×1室）3室、中講義室（収容人員120名）2室、小講義室（収容人員70名）7室を整備し、うち大講義室2室はパーティションにより、小講義室に変更も可能である。演習室（収容人員170名）は、保育演習室1室、ピアノレッスン室5室、リトミック室1室、その他演習授業に使用する教室として1室を整備している。実験実習室（収容人員430名）は、絵画工作室、調理実習室のほか、主に食物栄養学科が使用する、理科実験室、食品加工実習室、試食室、集団給食室の7室を整備している。また、学生が個人でピアノの練習ができるピアノ練習室を15室整備し、ピアノの台数はグランドピアノ8台及びアップライトピアノ28台を含め計36台を整備している。

その他、学生食堂は座席数182席あり、午前11時30分から午後1時まで営業されており、営業時間以外は学生の休憩場所として利用している。そして、学生食堂のほかに「学生が自由に集まれる談話ルーム」として、座席数48席、テレビ1台、パソコン2台、携帯電話充電器2台を整備している。学内には駐輪場、売店、シャワー室、飲料自動販売機等が設置されており、今後もキャンパス・アメニティの充実については、

学生満足度調査の結果を踏まえ、学生からの要望を取り入れるよう努める。

また、学生のメンタルヘルスケア体制として、月2回、非常勤カウンセラーが学内学生相談室にてカウンセリングを実施している。

### (3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

本学は、東館に487.26㎡の図書館を設置している。この図書館においては、すでに、図書67,381冊、学術雑誌63冊(資料8)、視聴覚資料6,177点を所蔵しており、本課程においてもこれを有効に活用し、また、順次充実を図っていくこととする。本学図書館は、本学の教育研究を推進するための学術情報基盤の中心的役割であり、学術情報の発信施設である。また、図書館設備として、114席の閲覧席、(図書検索システム)を整備している。

本課程の学生の図書館利用については、通学課程と同様の図書館カウンターでの利用のほか、インターネットを利用し本学図書館ホームページから本学図書館の蔵書検索、新聞記事や学術情報のデータベースを利用できる。また、遠隔地で通学が困難な学生に対し支障がないよう、郵送での貸出を行う。利用方法は、本学コミュニケーションシステムの「コミネット」を利用し借りたい図書を発注し、郵送する仕組みとする。郵送の場合は1回の利用につき、貸出の冊数は図書4冊、雑誌4冊まで、貸出期間は20日以内の返却とし、通信生であっても図書の利用に支障のないよう対応できる。

## 9 入学者選抜の概要

### (1) アドミッション・ポリシー

本学では本学の建学精神や教育目標を理解し、次のような姿勢や力がある人を本学学生として受け入れる。

1. 大学生活を通して社会で自立・活躍できる知識・技能を身につけようとする目的意識をもち、意欲的に学ぼうとする姿勢をもっている人。
2. 幅広く教養を身につけ、人間として成長したいという意欲をもっている人。
3. 社会の出来事や状況に関心がある人。
4. 自分の考えを文章や口頭で他者にわかりやすく伝えられる能力をもっている人。

したがって、本学の学生の選抜は、学習への高い意欲と、人とよく関わることのでき

るコミュニケーション能力に重点を置く。また、個性豊かな人間が協力し合って、お互いから学び合うこともかけがえのない学習であると考え、様々な個性・経験・技術を持った学生を幅広く受け入れる方針である。なお、本課程における具体的な学生の対象は、次のとおりである。

1. 子どもの発達や関わり方に興味・関心がある人。
2. 子どもや保護者などの支援をするために幼稚園教諭になりたいと考えている人。

## (2) 募集人員と選抜の方法

### ①募集人員

本課程の募集人員は、次のとおりとする。なお、入学時期は4月の年1回を設定し、入学時期ごとの定員は設けない。

種類	修業年限等	定員
正科生	2年	170名

### ②選抜の方法

本課程入学者の選抜方法及び入学資格等は、次のとおりとする。

種類	選抜の方法	入学資格等
正科生	小論文及び書類審査による総合的判断	①高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者。②通常の課程による12年の学校教育を修了した者。③外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で、文部科学大臣の指定したもの。④文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者。⑤文部科学大臣の指定した者。⑥高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）とする。⑦本

		学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達した者。
--	--	--

## 1.0 取得可能な資格

本課程において所定の科目を修得することにより、以下のとおり幼稚園教諭二種免許状の取得が可能となる（資料9）。なお、本課程と別に設置する専攻科において1年の年限（2年課程と通算して3年）で所定の科目を修得することにより保育士資格の取得が可能となる計画である。

資格の名称	資格種別	備考
幼稚園教諭二種免許状	国家資格	履修科目により選択
児童厚生二級指導員	民間資格	履修科目により選択

## 1.1 実習の具体的計画

### (1) 実習先の確保の状況

教育実習における実習先については、本学所在地である小田原市近隣を中心とし、神奈川県、静岡県、東京都などの首都圏を主な実習先として確保するほか、通信教育の性質上、全国から入学者の可能性もあることも鑑み、札幌市、仙台市、名古屋市、大阪市、広島市、福岡市の全国主要都市部での実習も可能となるよう実習先（資料10）を確保している。

また、本課程は通信教育であることから、居住地が小田原市から遠隔地となる学生の実習が想定できるが、本学卒業後の就職の可能性を高めるため、学生の就職希望先での実習についても意義があることから、実習先については、実習巡回指導や実習サポートが可能な範囲で入学した学生の状況にあわせて新たな実習受入先を確保できるよう検討する。

### (2) 実習先との契約内容



実習先から、教育実習に係る学生の受け入れ可能人数を含めた承諾（資料11）を得ている。

### （3）実習水準の確保の方策

教育実習は、印刷教材や面接授業で修得した教科全体の知識及び技能を基礎として、これらを総合的に実践する応用能力を養う場であり、幼児と直接触れ合うことにより、幼児教育や保育の理論と実践との関係について習熟することが目的である。そこで、教育実習をより有効な学習の場としていくために、全科目に渡って事前・事後の具体的な指導を取り入れる。また、学生が休暇等を利用し、ボランティアに参加するよう、本学に依頼があるボランティア参加への情報提供を積極的に実施していく。

### （4）実習先との連携体制

既設の通学課程で年1回実施している実習先との実習連絡会を本課程も併せて実施し、本課程の実習教育に関する基本的な方の説明や実習先からの意見を聴衆し、実習先の指導者と本学教員との関係作りに努める。この機会を通して、指導者からの疑問や要望等を学生に対する事前・事後指導内容に反映し、強化を図っていく。

また、通信教育の性質上、実習連絡会に出席できない実習先に対しては、実習担当者を派遣し、個別に上記同様の関係作りにあたっていく。

なお、実習先との具体的な連携内容は以下のとおりである。

1. 実習内容は各施設及び幼稚園の実習指導者と事前に協議した上で実習計画を立案する。
2. 実習巡回指導は実習期間中に各1回以上実施する
3. 実習巡回指導は原則専任教員が行い、訪問時には実習状況等について確認する。
4. 実習巡回指導の時間は実習指導者と事前に相談の上、十分に確保する。

### （5）実習前の準備状況

上述のとおり実習先の指導者と事前に協議した上、実習計画を立案し準備する。また、感染予防対策として事前に保菌検査、麻疹抗体検査の受検を必須とし、検査結果を踏まえて実習を開始する。あわせて、インフルエンザ予防接種を奨励し、学内においても、うがい手洗い及び消毒を奨励する。

## (6) 事前・事後における指導計画

事前・事後指導は以下のとおり実施する。

### ①事前指導

- ・教育実習内容の概要と目的の説明
- ・施設及び幼稚園の役割、幼児教育者・保育者の役割の理解
- ・部分実習指導案の作成
- ・実習日誌の書き方
- ・責任実習指導案の作成
- ・事前オリエンテーション、実習先との連絡方法

### ②事後指導

- ・実習体験報告会
- ・実習先からの評価に対する見直しと自己評価
- ・指導案の記述の見直し
- ・事前事後指導で学んだことを総括し、現場に出る際の課題を見つける
- ・グループディスカッションにより成果、課題を理解する

## (7) 教員の配置並びに巡回指導計画

実習計画（資料12）は専任の実習担当教員が作成し、原則として、本課程に属する専任教員がメンターとなり、全ての実習生を分担で担当し指導、巡回を行う。そのほか、通信教育の性質上、全国での実習受入先を確保していることから、実習指導補助者を置き、専任教員である実習担当者と連携し学生の指導及び実習先との連携にあたる。専任教員及び実習指導補助者の役割は以下のとおりである。

### ①専任教員

- ・実習の目的・目標を実習指導補助者に説明し、十分な理解を得られるように努める。また、実習水準の維持のために、実習施設との連絡調整を行う。
- ・実習の目的・目標に沿った実習が行われているかを確認する。
- ・学生の実習達成状況を確認する。また、実習指導補助者と連携を取り、実習指導者から提供される情報も合わせて検討の上、学生の実習評価を行う。
- ・実習指導補助者の指導内容を確認し、指導方法に関する助言及び指導を行う。
- ・専任教員間で各実習施設における実習状況を把握し、実習水準の維持及び改善向上に努める。
- ・必要に応じ、実習指導補助者と共に実習に係る学生や実習先の問題解決にあたる。

## ②実習指導補助者

- ・専任教員による指導のもと、学生に対する実習指導を行う。また、学生が抱える実習上の不安や悩みなどの早期発見に努める。
- ・専任教員及び実習施設との良好な関係を築き、実習を円滑に遂行できるよう配慮する。
- ・実習中に学生に関わる事故等が発生した場合は、速やかに専任教員に報告するとともに、一次対応として専任教員の指導のもと対応にあたる。
- ・必要に応じ、専任教員と共に実習に係る学生や実習先の問題解決にあたる。

教員は、巡回終了後に実習巡回者用指導要点（同上資料）を提出し、巡回時の詳細を記録として保管する。

また、巡回指導の内容は以下のとおりである。

- ・実習の進捗状況の確認
- ・実習指導者との面談
- ・学生の体調の確認

## （８）実習施設における指導者の配置計画

既設の通学課程における実習先は、長年にわたって実習先として協力いただいている園・施設であり、かつ社会的要請に応え、実績と信頼を重ねてきた園・施設が多数ある。したがって、実習指導経験豊富な指導者が複数配置されており、また本学の卒業生が長である園・施設や主任以上の役職で実習指導責任者として活躍する園・施設もあり、本学の教育研究を理解していただいている園・施設に多数実習先として協力をいただいている。

本課程においても、実習水準を確保できる園・施設において実習が可能となるよう実習先との関係を築き、実習先には、実習指導の統括は主任以上の指導者が担当できる体制にあるよう依頼をしいく。

なお、実習先の事情により、適切な実習指導体制が整わない場合は、実習の配属を中止するなど、実習水準の確保を優先する。

## （９）成績評価体制及び単位認定方法

実習に関する評価は、実習園による評価４０％、本学教員による日誌評価６０％としている。実習園による評価は、実習も目的にそって各項目の評価を頂いているが、４０点満点として平均値をとって加点している。本学教員による日誌評価は、実習でたてた指導計画、日誌における観察・分析内容、省察の深さなどについて評価し６０点満点と

している。評価体制について、評価者は実習担当者であるが、複数の教員が担当しているので、各担当学生を評価したのち、全体を責任者が確認し、教員による偏差がないように努めている。単位認定は実習期間に全日出勤したことを出勤簿で確認でき、実習園と話し合いの上で内容的にも実習成立と認められた学生について行う。その単位認定基準は上記合計点が60点以上としている。

### (10) 実習先が遠隔地などの場合の巡回指導計画上の配慮

遠隔地の実習については、実習巡回指導や実習水準確保の観点から、学生に対し本学近隣及び神奈川県、東京都、静岡県などの首都圏での実習を奨励する。

ただし、通信教育の性質上、学生の住居地が遠隔地である場合や、本学卒業後の就職の可能性を高めるために就職希望先または希望地域での実習に意義があることを勘案し、実習先を遠隔地で実施する場合も想定する。

実習が遠隔地などの場合の配慮として、実習指導補助者を置く。実習指導補助者は、遠隔地の実習生の人数等を考慮し、施設連携校に本学が採用した実習指導補助者を配置する。実習補助者の役割としては、①専任教員による指導のもと、学生に対する実習指導を行う。また、学生が抱える実習上の不安や悩みなどの早期発見に努める。②専任教員及び実習施設との良好な関係を築き、実習を円滑に遂行できるよう配慮する。③実習中に学生に関わる事故等が発生した場合は、速やかに専任教員に報告するとともに、一次対応として専任教員の指導のもと対応にあたる。④必要に応じ、専任教員と共に実習に係る学生や実習先の問題解決にあたる。とし、専任教員並びに学生及び実習先に対するサポートを行い、遠隔地であっても円滑な実習が遂行できるよう配慮する。

遠隔地での実習巡回指導は、本学近隣都県及び首都圏地区を除き、原則として、専任教員を中心とし巡回指導（資料12）を行う。ただし、遠隔地の実習巡回指導は、移動時間を要するため、場合によっては兼任教員または兼任教員が実習巡回指導のサポートを行う。

また、電話、FAX、電子メールなどの媒体を有効に利用し、実習先と実習の事前・事後の連携及び学生との連携を深め、実習水準を確保する。

## 1.2 通信教育の実施方法

短期集中の講義並びに自宅での学習及び休日等実施される科目修得試験により卒業要件を満たすことで学位を取得できるなど、時間や空間の制約が通学よりも少ない通信教育は、自分に合った方法で自分の求める知識を学べ、さらに情報社会や生涯学習が求

められる時代潮流のなかで、これからの社会を支える有意な人材を育成するための教育システムとして、ますますその重要性を高めている。そのため、通信教育は、さまざまな経歴や関心、学習歴、幅広い年齢層、ライフスタイルを持った方々が、キャリアを高めていくための最適な方法であると考ええる。

その中において、幼児教育・保育に係る人材養成を通信教育で行うことについても、本学の通学課程で積み重ねてきた長年の経験を生かし、通信教育での自宅学習であっても教育研究の質を維持できる通信教育教材を受講する学生に提供することや、社会的なインフラの整備の急速な発達により各家庭にもIT及びインターネット通信環境が整備されている昨今においては、遠隔地であっても密なコミュニケーションが可能となり、通信教育においても、インターネット等の利用により時間的・空間的制約が少なくなっており、印刷授業においてメディアを活用した授業サポート及び学生とのコミュニケーション、履修指導をコミュニケーションシステムの利用により充実させることで、学生の利便性を高め、より充実した教育効果を得られる専攻分野であると考ええる。

また、通信教育による教育分野・保育分野の養成をおこなっている大学・短期大学は現在14校あり、その実績からも通信教育による教育効果は高いものと考ええる。

なお、具体的な実施方法は以下に述べることとする。

## (1) 教育・研究水準確保の方策

本学には既設の通学課程において幼稚園教諭及び保育士の養成をおこなっている。既設の保育学科は、昭和47年の設置から41年の歴史があり、卒業生が園・施設長の職に就き活躍するなど、長年にわたり幼児教育者・保育者を養成し、地域に輩出してきた実績と信頼を重ねてきた。

したがって、これまでの実績と経験を生かし、通信教育による手法でも十分な教育研究の成果が得られると考えているが、教育研究の質を保証するため、以下のような方策をとる。

1. 通信教育の手法では、十分な学習効果を見込むことのできない演習・実験・実習授業科目等については、原則として面接授業により行う。ただし、一部科目については厚生労働省の「指定保育士養成施設通信教育部における面接授業等実施基準」に沿ってテキスト履修科目及びスクーリング履修科目を区分している。

印刷授業においても、オフィスアワーや本学コミュニケーションシステム「コミネット」、メール、電話等の手法を用いて、質疑応答やディスカッション等を実施可能とする。このように、通信教育においても、教育研究水準を維持できるよう、より学習効果の高い授業形式を選定するとともに、学習の双方向性を確保する。

2. 学生への基本的な教育指導は科目担当教員行い、科目担当教員は主に授業科目を通じ学生への教育研究指導を行うことを役割としている。また、教育研究水準を確保するため、学生に対し学生生活のサポートや履修指導、教育指導補助等の役割も必要とされる。科目担当者が学生生活のサポートや履修指導等を担当することにより、教員の負担が増え、教育研究指導にあてる時間の妨げとなることが考えられる。

そこで、授業科目及び教育研究指導以外の学生への対応については、教務事務及び履修方法並びに資格取得に関する履修指導に精通した事務職員がキャンパスアドバイザーとなり、学生に対し履修指導、教育指導補助などの役割を担うこととする。キャンパスアドバイザーは専任事務職員またはその他の事務職員が担当し、履修指導等の他に学生生活を全面的にサポートする役割も担う。

通信教育は、自分のライフスタイルに合わせ、自分のペースで履修ができることがメリットである反面、自分ひとりで学習することも多くなり、ときには孤独や不安を感じ、途中で学習意欲の減退や、わからないことをそのままにして時間が経過してしまい、学修が途切れてしまうこともある。このような中で、学生生活を全面的にサポートし、学生が円滑な学修を行うことができるようキャンパスアドバイザーを配置する。

キャンパスアドバイザーの役割は、学習計画についてのアドバイスや学業と生活の両立などについても相談できる環境を提供するとともに、具体的な事項としては次のとおりである。

- ①（入学時）履修オリエンテーションの運営
- ②履修相談に関する事項
- ③学習の進め方に関する事項
- ④試験の受験方法に関する事項
- ⑤コミネットの利用方法や学校施設の利用方法に関する事項
- ⑥学業、成績の確認に関する事項
- ⑦資格取得に関する履修科目のアドバイス
- ⑧学籍異動に関する相談・各種事務手続き
- ⑨科目担当教員へ学生の履修・学習進捗状況の報告
- ⑩就職、実習等の学生からの相談受付
- ⑪教員と学生との担当科目以外の連絡等に関する一次応答

さらに、科目担当教員とキャンパスアドバイザーが連携することにより、履修登録から学習の進捗状況に対するアドバイス、さらには先の履修計画までの指導をきめ細やかに行える学生へのサポート体制が整備できる。

このように、キャンパスアドバイザーを配置することにより、学生に対してきめ細かなサポートを行い、通信教育で学びのモチベーションを継続させ、学生の不安や疑問を解消する環境を整備するとともに、科目担当者の補助、教員との連携により教員の負担

を軽減する役割を担う。

## (2) 授業の実施体制

### ①印刷教材による実施体制

本課程の印刷教材の課題及びレポート等の受け渡しは原則として、郵送で行う。科目担当教員は通信の手段でも十分に学習効果が得られるような教材を選定し、さらに教材には、原則として学生の学習を補助する目的の学生の手引きを執筆し、科目全体の学習達成目標、解説、理解度テスト及び研究課題等を記す。課題及びレポートは提出後およそ2週間程度で科目担当教員が添削し、学生に返却する。

学習の手引きは、コミュニケーションシステム「コミネット」に科目ごとに設定された場所に科目ごとにアップロードし、学生はこれを閲覧やダウンロードをして使用する。また、学習の手引きのほか、様々なデータがアップロード可能であるため、学習を進めるうえでの補助資料をアップロードすることもできる。このほかに、科目ごとに設定された場所には、学生からの質問に答える、また、教員が学生に回答する、学習指導・助言をするコミュニケーションのツールとしても活用できる。このように、印刷授業においてもメディアを活用することで学習効果を向上させることが可能となる。そのほかの学生と教員とのコミュニケーションの方法として「オフィスアワー（専任及び兼任教員に限る）」を週3時間程度設定し、学生が直接担当教員へ質疑応答を行える時間を設定する。なお、科目修得試験は、担当教員により作成された択一、穴埋、記述、レポート形式等の試験を課し行う。

このように学生は、教材及び学習の手引きを主に利用し、履修を進め科目修得試験を受験する。本人確認方法については、科目修得試験実施時は、原則本学で実施し、大学が設定する試験会場にて、学生証での本人確認を行い、監視体制の中、筆記試験を実施する。

科目修得試験の会場は、本学キャンパスでの開講を中心とし、その他に専門教育機関である主に専修学校又は各種学校（認可校）の施設（以下、「施設連携校」とする。）を利用し、札幌市、仙台市、東京都、名古屋市、大阪市、広島市、福岡市の全国の主要都市部を中心に実施する。科目修得試験が全国主要都市部での実施が可能となることで、移動にともなう学生の経済的負担を減らし、さらには空間的、時間的メリットを得ることが可能となる。科目修得試験は科目ごと年1～2回の頻度で試験日を設け、通学課程及び施設連携校が休日となる土・日・祝日に実施する。**(資料13)**

### ②面接授業による実施体制

本課程のスクーリング履修科目は本学キャンパスでの開講を中心とし、施設連携校

を利用し、札幌市、東京都、大阪市、福岡市で開講する。科目修得試験同様にスクーリングが各拠点での実施が可能となることで、学生の経済的負担を減らし、空間的、時間的メリットを得ることが可能となる。開講は年10回（完成年度時）のスクーリング日程を設け、集中講義による授業を実施する。各日程で開講されるスクーリング履修科目は、本学がこれを指定し、年1～2回の頻度で設定する。

印刷教材と同様学習を進めていく中での質疑応答等は、Eメール及び本学コミュニケーションシステム「コミネット」を活用し、自宅学習を進めるための指導、助言等の補助的手段として活用する。また、「オフィスアワー（専任及び兼任教員に限る）」を週3時間程度設定し、学生が直接担当教員へ質疑応答を行える時間を設定する。本人確認方法については、スクーリング履修科目は、原則本学で実施し、大学が設定する試験会場にて、学生証での本人確認を行う。また、スクーリングは原則的に、通学課程が休日となる土・日・祝日及び通学課程の長期休暇時に実施する。授業内に実施される課題、科目修得試験、事前あるいは事後課題等により総合的に評価する。（資料

#### 14）スクーリング開催日程表

なお、遠方の学生の配慮として、学生会館及び宿泊施設の運営管理を行う株式会社共立メンテナンスと提携することにより、指定学生会館（学生寮）の短期利用を可能とする。1日4,000円程度の価格で提供し、1時間圏内の立地に複数所在している。

### ③実習科目の実施体制

本課程において実施する実習科目は、幼稚園教諭の資格取得に必要な科目である。1年前期に実習に必要なマナーや幼児教育者・保育者の資格、幼稚園等における実習についての全般的な知識付与をするとともに、実習先に送付する資料等を教職員の支援のもとで用意する。オリエンテーションについてのレクチャー、配属先の幼稚園についての下調べも行う。その後、後期になり、以下のような教育実習指導が本格的に始まる。

回数	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	教育実習ガイダンス	教育実習の概要と目的について
2	幼稚園理解①	幼稚園教諭の専門性
3	実習生の日 日誌の書き方①	一日の実習の流れ 教育実習での日誌の書き方①
4	日誌の書き方②	教育実習での日誌の書き方②
5	日誌の書き方③	教育実習での日誌の書き方③



6	省察と実習課題	保育における省察について／教育実習課題設定
7	日誌の書き方④	教育実習での日誌の書き方④
8	日誌の書き方⑤	教育実習での日誌の書き方⑤
9	部分実習指導案	部分実習指導案の作成
10	責任実習指導案①	責任実習指導案の作成①
11	責任実習指導案②	責任実習指導案の作成②
12	実習オリエンテーション	教育実習直前オリエンテーション
13	教育実習体験報告会	教育実習Ⅰ期の体験報告会
14	教育実習体験報告会	教育実習Ⅱ期の体験報告会
15	教育実習振り返り	教育実習振り返り／全体総括

実施体制等は上述の「11 実習の具体的計画」のとおりである。

### (3) スクーリング会場及び宿泊施設

本課程のスクーリング履修科目は本学キャンパスでの開講を中心として実施する。また、通信教育の性質上、全国の学生が入学する場合の経済的負担や時間的・空間的デメリットを鑑み、主に専門教育を行う専修学校又は各種学校（認可校）と施設連携を行い施設提携校として、スクーリングを実施する。具体的には、札幌市、東京都、大阪市、福岡市で専門教育を行う学校と施設提携をする。科目修得試験同様にスクーリングが各拠点での実施が可能となることで、学生の経済的負担を減らし、空間的、時間的メリットを得ることが可能となる。

遠隔地の学生の配慮として、学生会館及び宿泊施設の運営管理を行う株式会社共立メンテナンスと提携することにより、指定学生会館（学生寮）の短期利用を可能とする。

指定学生会館（学生寮）は、全国に所在し約245会館があり、学生の利便性を確保するとともに、1日4,000円程度の価格で学生に提供することから、学生の経済的負担も軽減できる。さらに指定学生会館は学生寮であるため、食事の提供もあり、スクーリング時における、食事に関する負担を軽減し、栄養面など体調管理の面での不安を軽減する。小田原市周辺にあたっては1時間圏内の立地に複数所在している。

### (4) 単位計算及び成績評価の方法

本課程の各授業科目の単位数は、1単位を45時間の学修を必要とする内容による構成を標準とする。

1. 印刷教材履修（以下、テキスト履修という。）については、45時間の学修を必要とするテキスト学習をもって1単位とする。
2. 面接履修（以下、スクーリング履修という。）の講義及び演習については、1時間のスクーリング履修に対し、2時間の準備のための学習を必要とするものとし、15時間のスクーリング履修をもって1単位とする。
3. スクーリング履修の実習については、45時間の範囲内で各授業科目別に定める。
4. スクーリング履修及びテキスト履修の併用授業については、各授業とも1単位15時間相当のスクーリング履修とテキスト履修により構成する。
5. 学外実地研修は、30時間の実習をもって1単位とする。

また、成績評価については、課題や試験等の結果を総合的に評価の上、優（100点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）、不可（60点未満）の4段階の評価をもって表し、可以上を合格とする。

#### （5）添削指導の実施体制

添削指導は原則として、当該授業科目の担当教員自身が添削指導を行う。なお、添削指導員を開設年次に3名、完成年度に5名配置し、担当教員の監修のもと添削指導にあたることとする。また、学生の履修者数に応じて、科目担当教員の負担が増える場合は添削指導員を適宜増員する。

添削指導は、具体的には学生より課題及びレポートの等の提出があった場合、通信教育課程の事務担当者が受付し科目担当教員に受け渡す。科目担当教員は速やかに課題レポートの添削を行い、事務担当者へ返却する。これらの作業期間は概ね2週間以内で対応できるように連携を取って実施する予定である。

学生が科目担当教員へ授業科目に関わる質問を行う場合は、主に週3時間程度設定する「オフィスアワー（専任及び兼任教員に限る）」と、コミュニケーションシステム「コミネット」を利用し直接質問する体制とする。学生からの事務手続き等に関する質問は遺漏なくスピーディーに対応する体制を作ることから学生からの連絡は事務側で一括受信をし、事務から科目担当教員へ連絡し、回答する体制を整える。本学での添削指導員の役割は、①科目担当教員の補助として、担当教員の指導・監修のもと科目担当者と共同で中間試験・科目修得試験等の添削を行う。②科目担当教員の指導・監修のもと、学生からの授業科目に関する質問への回答を行う。とし、添削指導員の資格要件については、本学非常勤教員採用の基準に定められた基準を満たす者、あるいは修士の学位以上を要件とする。

また、学生からの中間試験等の課題提出及び事務手続きに関する質問の回答については、コミュニケーションシステム「コミネット」や電話を利用し、キャンパスアドバイザーが回答する。「コミネット」からの質問については、24時間の受付とし回答までに要する時間は休日を除き24時間以内に回答する。ただし、内容により24時間以内に回答できない場合は24時間以内に一次応答をし、すみやかに回答する体制を整える。電話での質問については、休校日を除く9時00分から17時00分の間での受付とする。

なお、インターネットを利用できない環境にある学生に対しても環境を整え、電話のほか、FAX、郵送での質問を受け付けるよう学生便覧に記載し質問票を用意する。

## (6) 履修指導の方法及び体制

履修指導については、上述の履修方法及び指導体制のとおり、履修オリエンテーション、学生便覧、本学コミュニケーションシステム及びキャンパスアドバイザー等により指導を行う。また、履修モデル（資料6）等、通信教育特有の事項についても、きめ細かく対応する。

## (7) 学生指導の体制

学生指導の体制は科目担当教員及びキャンパスアドバイザーにより、以下のように実施していく。

### ①履修オリエンテーションによる履修指導の実施

年1回の履修オリエンテーションにより、学生の履修方法や学生生活に関する相談に応じ、指導を行う。また、随時、コミュニケーションシステムを活用し学生の履修相談を受け付ける他、学生が、将来の進路を含め、的確なアドバイスを得られるよう連絡・調整を行う。

### ②学生に関わる事務業務

キャンパスアドバイザーは、テキスト購入・各種証明書の発行・資格申請・奨学金制度・保健管理の事務手続きなど、学校生活において学生と直接関わる事務諸業務を行う。

### ③コミュニケーションシステム「コミネット」の活用による学生支援

本学コミュニケーションシステム「コミネット」を活用し、定期的に履修登録のお知らせ、スクーリング開講及び申込期日、科目修得試験日及び申込期日など、学生に

とって必須の情報を提供する。そのほか、図書館の蔵書の検索及び新着情報の提供並びに図書貸出についてもコミネットを利用して行うことができる。

また、学生全体へのお知らせだけでなく、個別の連絡に利用することもできる。このようにコミネットを利用し、学生に対する履修指導だけでなく、学生支援サービスのツールとしても大いに活用する。

#### ④WEBシラバスの公開

コミュニケーションシステム上に、本課程の全科目が検索・閲覧できるWEBシラバスを設置し、広く公開する。

### (8) 添削指導教材及び通信教育教材の保管、発送等

添削指導教材及び通信教育教材を管理・保管する施設として、41.40㎡の学内施設を通信教育事務専有の施設として使用する。ここでは教材等の保管・発送のほか、通信教育に係る事務及び添削指導を実施する場合の施設として使用する。また、学生及び部外者の入室ができないよう、通信教育担当の事務員が常駐し、情報の遺漏や紛失がないよう、担当者不在時には常に施錠し管理する。

### (9) 教員の負担

本課程設置にあたり、通学課程の専任教員が本課程の科目も併せ持って担当することになるが、専任教員の基準担当コマ数は通年平均で週当たり原則5コマとしている。

テキスト履修科目については、年度進行に合わせ添削指導員を配置するとともに、専任教員3名を増員することにより、教員の負担が重くならないよう配慮する。

また、本課程にキャンパスアドバイザーを配置し、専任教員とともに履修指導、学生支援にあたることにより、本課程設置にあたる教員負担の軽減を図る。その他、通学課程での教員負担を軽減するため、今まで専任教員中心に実施してきたオープンキャンパスの運営や学科行事を事務局に移管し、教員対して通学課程及び本課程における教育・研究にさらに注力する環境を整え、教員の負担が重くならないよう配慮する。

### (10) 入学者選抜の概要

本課程入学者の選抜方法及び入学資格等は、上述の「9 入学者選抜の概要」のとおりとする。

## (1 1) 使用教材及び教材作成の具体的な準備計画

### ①使用教材

本学では既設の通学課程を開設しており、通学課程では長年の経験を生かし教育研究水準の確保に努めている。したがって、通信教育を実施するにあたっては、これまでの通学課程での教育研究等の経験を生かし、使用教材の作成及び準備計画を実施する。

市販テキストは、科目担当教員が、通信教育の手段でも十分に学習効果が得られるような教材を選定する。さらに各市販テキストには、原則として科目担当教員が学習を補助する目的の「学習の手引き」を執筆し、学生が効率的な自己学習が行えるよう教材に関する補足説明や解説を行う。

また、「学習の手引き」には、科目全体の学習達成目標、各章の概説、理解度テスト及び研究課題等を記し、学生に対しスムーズな学習ができるよう配慮する。

オリジナルテキストは、科目担当教員が通信教育の学習者向けに執筆する印刷教材である。学習効果を高められるよう、読みやすく、学生が興味を持って取り組めるような内容とする。「学習の手引き」と同様に、科目全体の学習達成目標、各章の概説、理解度テスト及び研究課題等を記す。

### ②教材作成の具体的な準備計画

本課程開設の前年度は、主に市販テキストの選定及び学習の手引きの執筆作業を次の日程で計画する。なお、オリジナルテキストも使用し、年次進行に合わせて、順次オリジナルテキストの執筆及び発行を進める。

平成25年10月～	市販テキストを選定する
～平成25年11月下旬	科目間の重複の有無や適合性等を確認する 市販テキストを決定する
平成25年12月上旬～	学習の手引きの執筆を開始する 執筆に係る注意点等を科目担当教員へ説明する
～平成26年1月下旬	初稿原稿の締め切り
～平成26年2月下旬	専任及び兼任教員が相互に原稿を確認する 必要に応じて再校原稿を確認する 編集作業を終了する
～平成26年3月下旬	学生に配布する準備をおこなう

## (12) 学費

本課程の学費については、小田原女子短期大学保育学科通信教育課程に関する規程別表第5のとおりとする。

小田原女子短期大学保育学科通信教育課程に関する規程 別表第5より

費目	通信教育課程	専攻科
入学金	20,000円	20,000円
授業料	250,000円	130,000円
学習管理料	5,000円	5,000円

- ※1 授業料には、科目修得試験料・スクーリング履修料を含む。
- ※2 学習管理料は、通信教育システム利用料及び維持費として徴収する。
- ※3 通信教育課程正科生から引き続き専攻科に入学する場合、専攻科の入学金は不要とする。
- ※4 通信教育課程正科生から引き続き専攻科に入学する場合、専攻科の授業料は30,000円とする。
- ※5 その他、テキスト代、団体保険料及び付帯賠償責任保険料、同窓会費、卒業記念品費、資格・免許状等の申請料については別途徴収する。

本課程では、科目試験料及びスクーリング受講料は、科目修得や卒業に必要な費用であるとの考えから履修に必要な科目数及び単位数を鑑み授業料に含めているため、学生にとって授業料が明確であり、さらに多くの科目を履修する学生にとっては、科目試験料・スクーリング受講料を別に設定する場合と比べ経済的負担を減らせることになる。

なお、学費以外で学生負担のあるものとして、テキスト教材代（年間約50,000円）、団体保険料等（年間約200円）、同窓会費（10,000円）、卒業記念品費（5,000円）教員免許及び保育士申請料（約9,000円）であり、学費以外に学生負担のある費用については、入学希望者に対し明確にするため入学募集要項に記載する。

## 13 管理運営

本学では、教育理念を具体化しつつ、永続的な発展を遂げていくために、適切な管理運営体制の構築が必要不可欠であると考えている。法人（理事会・評議員会）としての意思決定に対し、高等教育機関である大学として、学科として、教学の観点から適切な

意思の反映を行い、一方で経営の意思との調和を適切に図っていく必要がある。具体的には、教学に関する全学的な審議機関である「教授会」及び各学科の教学事項の審議機関である「学科会」を設置する。

また、本課程を含め、通信教育の学務全般の重要事項に関して、教授会あるいは学科会の事前審議及び調整機関として、「通信学務委員会」の設置を計画する。

本学の委員会等の運営体系及び概要は（資料15）のとおりとする。

## （1）教授会

本学には重要な事項を審議するため、教授会を置くこととする。教授会は学長及び教授をもって組織する。ただし、学長が必要と認めた場合は、准教授、講師、助教、その他の職員を出席させることができる。

教授会の開催は、毎月1回定期的に開催するほか、必要に応じ、学長又は教授の2分の1以上若しくは教授及び学科長代行の職にあたる准教授の総数の3分の1以上の請求により、臨時に開催する。概ね学長及び教授での教授会は年9回、全専任教員が出席する教授会を年3回開催し、毎月1回定期的に教授会を開催している。

教授会における議決は、実際の出席者の過半数の同意を以てし、可否同数のときは、学長がこれを裁決する。なお、学長選任規程に基づく選考委員会委員選出に関する事項及び教員の資格審査、任用、昇任、その他教育研究に必要な人事に関する事項に関する議決は、実際の出席者の3分の2以上の同意を必要とする。

教授会の審議事項については次のとおりとする。

1. 学則に関する事項
2. 教育に関わる諸規則に関する事項
3. 学科課程に関する事項
4. 学生の入学に関する事項
5. 学生の単位履修に関する事項
6. 学生の退学、復学、休学及び卒業に関する事項
7. 科目等履修並びに聴講に関する事項
8. 学生の賞罰に関する事項
9. 学生団体、学生活動、その他学生の生活に関する事項
10. 学生の厚生並びに指導に関する事項
11. 教育研究に関する必要な事項
12. 学長選任規程に基づく選考委員会委員選出に関する事項
13. 教員の資格審査、任用、昇任、その他教育研究に必要な人事に関する事項

#### 14. その他、学長が必要と認めた事項

そのほか、教授会ではその目的達成のために、各種の委員会を設置することができる。教授会の審議が効果的に進められるよう、教授会の下部組織として関連する次の委員会を設置する。

1. カリキュラム委員会
2. FD委員会
3. 紀要委員会
4. 総合文化運営委員会
5. 教員養成カリキュラム委員会

### (2) 学科会

本学においては、教授会規程第9条により目的達成のため、各学科に学科会を設置することを規定している。学科会の構成は、教授会出席者を構成員と定める。ただし、学科に属する助手、副手及び事務職員を学科会に出席させることができる。

学科会の開催は、毎月1回以上の開催としているが、概ね、週1回開催し、各学科に属する専任教員、助手及び事務職員が出席をしている。

学科会における議決は、構成員の過半数の同意を必要とする。ただし、議決した事項については教授会に報告し、教授会の承認を得なければならないこととする。

学科会の審議事項については次のとおりとする。

1. 教授会からの付託事項
2. 学科における個別的な諸事項

また、学科会では上述の審議事項のほか、教授会及び各種委員会の報告もなされている。そこで提起された意見や要望は、教授会構成員をとおして教授会へ、各種委員会委員をとおして委員会へそれぞれ反映される仕組みとなっている。

### (3) 通信学務委員会

本課程を含め、通信教育課程の学務全般の重要事項に関して、教授会あるいは学科会の事前審議及び調整機関として、「通信学務委員会」の設置を計画する。

詳細は次のとおりとする。



#### ①構成員

- ・学科長（当該学科）、学長より選出された専任教員若干名

#### ②招集及び議長

- ・学長が任命した委員長
- ・委員長に事故あるときはあらかじめ指名を受けた者

#### ③開催

- ・必要に応じ随時
- ・その他委員長が認めたとき

#### ④成立

- ・出席構成員の過半数
- ・可否同数のときは委員長が決する

#### ⑤審議事項

- ・通信教育の履修登録、試験及び成績に関すること
- ・通信教育のカリキュラムに関すること
- ・通信教育の授業科目の担当及び運営に関すること
- ・通信教育の実習に関すること
- ・その他通信教育の学務全般に関すること

## 1 4 自己点検・評価

### (1) 基本方針

本学では、学則第3条において、「本学は、教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動の状況について自ら点検及び評価を行いその結果を公表するものとする。」と規定する。また、本学は、教育研究等の総合的な状況について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認定を受けた認証評価機関による評価を受け、その結果を公表するものとする。

### (2) 実施方法及び体制

本学では、「自己点検・評価に関する規程」に基づき、次のような実施方法及び体制で実施する。

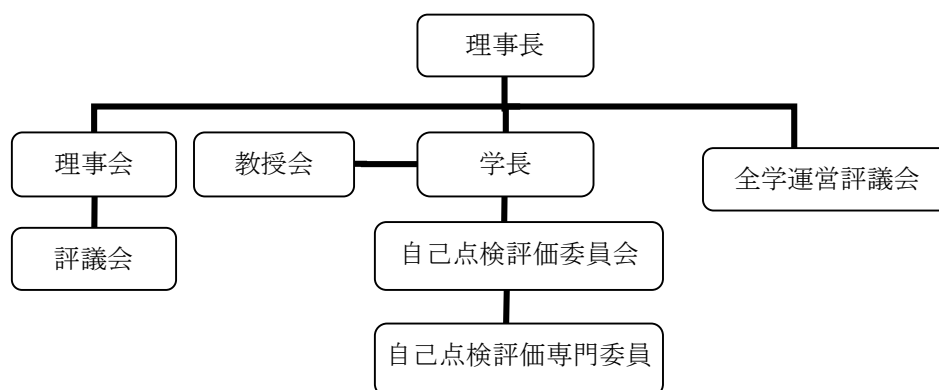
### ①実施体制

自己点検・評価を行うための組織として、自己点検・評価委員会を置き、理事長・学長の下での委員会として設置している。

委員会の委員は、常務理事または担当理事、学長、学科長、図書館長、事務部門の管理職、学生指導・支援委員長をもって構成する。ただし、委員長が必要と認められた場合は、委員以外の者に出席を求めることができる。委員会の委員長は、学長または学科長、学生指導・支援委員長の中から学長が指名した者が務める。また、委員会は、委員長が招集し、委員会は委員の過半数の出席により成立し、出席委員の過半数をもって議事を決する。委員会は、次の基本的事項を審議・策定する。

1. 自己点検・評価及び相互評価の実施方針、計画、点検・評価項目の設定及び具体的な実行計画等に関すること
2. 点検・評価結果の評価、取り扱い、活用及び公表に関すること

### ②自己点検の組織図



### ③実施方法

本学の教育研究水準の向上に資するため、自己点検・評価は教職員自らが、また、各部署、各委員会等が教育研究活動等その所管する業務について点検を行い、現状を正確に把握・認識し、これを踏まえ、改善を要する問題点、積極的に評価すべき特色、今後の方向等に関し、点検・評価を行うものとする。

自己点検・評価は、毎年度行うことを原則とする。但し、点検・評価項目内容によっては、複数年を点検・評価の期間として設定することもある。

本学が自己点検・評価を実施する上で参考にするために、学外の第三者の意見を聞くことができる。但し、この場合には事前に委員会の承認を必要とする。

### (3) 評価項目

本学の点検・評価項目は、年度初めの学長方針、あるいは、中長期にわたる学校経営に関する方針の展開の観点から、また、所定業務の範囲から設定されるものとする。従って、その方針展開等に関する達成度、あるいは改善の度合いが評価の対象となる。

また、本学の評価項目については財団法人短期大学基準協会の評価基準に準拠し、以下の項目を自己点検・評価に際しての評価項目とする。

1. 理念・目的・教育目標
2. 教育研究組織
3. 学科・専攻科の教育内容・方法等
4. 学生の受け入れ
5. 学生生活
6. 研究活動と研究環境
7. 社会貢献
8. 教員組織
9. 事務組織
10. 施設・設備等
11. 図書館および図書・電子媒体等
12. 管理運営
13. 財務
14. 自己点検・評価
15. 情報公開・説明責任
16. 特色ある取り組み

### (4) 結果の活用及び公表

自己点検・評価の結果をふまえ、積極的にその結果を活用して、教育研究活動の向上を図り、教育研究環境の整備充実を期し、大学の管理運営の改善に資するよう努める。また、当該目的を継続的に達成し、社会に対する使命及び責務を果たすために、報告書の観光及び配布等、適切な方法で公表する。さらに、自己点検及び評価の結果あるいは改善内容は、認証評価機関による認証評価の基盤として活用していく。

学内においては、学生を対象に授業内容を評価する「授業アンケート」、学生生活の満足度を評価する「学生満足度調査」の実施がある。「授業アンケートは」各教職員にフィ

ードバック授業改善につなげているとともに、教員による授業交流を実施し、当該教員や参加教員による報告会により、教員のレベルアップ及び授業改善につなげている。「学生満足度調査」は部署、教職員にフィードバックし、職員の学生対応への改善や学生支援の拡充につなげている。このような結果を踏まえ、教職員を対象とした全学的な活動を通し、大学全体の様々な環境の質的な向上を図る。教職員全体が本学の特長と問題点を理解し、改革・改善を推進するために自己点検・評価結果を活用していく。なお、自己点検・評価の結果はすべての教職員が閲覧できるものとし、これに対する意見、疑問、提案等の提出の機会を保障され、自己点検・評価の結果による成績評価あるいは賞罰等を行わない。

認証評価機関による認証評価については、平成26年度に一般財団法人短期大学基準協会を受審する予定である。

## 1.5 情報の公表

### (1) 情報の公表の方針

大学の教育研究活動をはじめとする大学全体の活動に対する社会的関心の高まりに鑑み、大学がその研究活動の中軸とする活動の全体像について、社会の理解が得られるように様々な情報を広く社会に提供することは、社会に対する使命であり、本学の重要な社会貢献活動であると認識している。このような観点から、本学は、自らの教育研究活動等に関わる情報を広く社会に公表するように努め、次に掲げる情報を公表している。

1. 大学の教育研究上の目的に関すること
2. 教育研究上の基本組織に関すること
3. 教員組織、教員数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
4. 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業または修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他の進学及び就職等の状況に関すること
5. 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
6. 学修の成果に係る評価及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
7. 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
8. 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
9. 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
10. その他（学則等（抜粋）、社会貢献・連携活動、教育力向上の取組活動 等）

## (2) 情報の公表方法

本学では、本学ホームページ (<http://www.odawara.ac.jp/> 及び <http://www.odawara.ac.jp/zaimu/index.html>) や各種刊行物等を活用して行う。大学全体はもちろん、学科等の教育上の特色、目的、育成する人材、授業科目の内容等については、大学案内、入学募集案内やシラバス等により、可能な限り詳細な情報の提供に努める。具体的に例示すると次のようなことがあげられる。

### 1. 広報誌の発行

教員紹介、入試情報、学校行事、学生活動状況、卒業生の就職・進路状況、学内トピックス等の記事、財務情報等

### 2. 紀要の発行による教育研究活動に関する情報提供

### 3. 小田原市が主催する教育活動への積極的情報提供と参画

### 4. 近隣地区の高校生に対する本学の教育活動の紹介

### 5. 自己点検・評価報告書

## 1 6 授業内容・方法の改善を図るための組織的な取組

### (1) 基本方針

本学では、大学全体の取り組みとして、本学教授会のもとに、本学における建学の精神に基づく教育・研究の質の向上を図ることを目的としてFD委員会を設置している。FD委員会では本委員会が中心となり、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究に取り組む。この結果、本学の教員の資質を維持向上し、社会が求める質の高い教育を提供していく。

### (2) 実施方法及び体制

学長及び教授会の構成員のうちから学長が任命した8名（委員長には委員の中から学長が任命した者が任にあたる）から構成されるFD委員会を中心として、次のような事項を策定し、実施する。

#### 1. 全学教員の研修に関する審議。

2. 「学生による授業評価」に係る研究に関する審議。
3. カリキュラムに係る研究に関する審議。
4. 本学におけるG P等に係る研究に関する審議。
5. 教員の研究の充実に係る審議。
6. 学長が諮問した事項に関する審議。
7. その他教授会から付託された事項。

### (3) 主な取組内容

上記をふまえ、主に次のような取り組みを継続的に実施している。

#### ① 学生意識・満足度調査及び意見箱の実施

学生が本学での学生生活をより充実できるよう改善していく目的として、卒業生に対し学生満足度調査、その他の在校生に対し学生意識調査を年1回実施している。

また、上述の調査のほかに学生が自由に意見を投稿できる意見箱を設置している。意見箱制度は学生から本学への要望・問題点等は無記名で投稿出来る形をとる。

このような取り組みにより集められた学生の意見は、毎月開催される学生指導・支援委員会で審議し、回答を掲示や意見箱前の意見箱回答集内に公開するなどし、必要に応じ速やかに対処している。

#### ② 授業評価の実施

授業内容及び方法の改善を図るために、全科目において履修終了後に学生による授業評価アンケートを実施する。本アンケートの実施及び集計を行った上で、各教員が自己分析を行う。FD委員会もこれを分析し、FD研修に役立てている。FD委員会は、学長及び学科長が当該結果を各教員にフィードバックし、授業内容及び方法の改善に役立てる。

#### ③ 教員間相互授業参観の実施

教育内容と教育技術を高めるために、教員は相互の授業参観を実施し、参観記録を公表している。

毎年半数の教員について、各教員が担当する教科目のうち1コマを公開している。全教員が、公開された授業のうちどれか1～2教科を選んで参観する。参観者全員で参観当日に授業研究会を開催する。どの研究会にもFD委員は必ず一人は参加する。研究会後に、FD委員がその内容をまとめて授業内容とともに、研究会の内容を全学に公開する。

## 1.7 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

### (1) 教育課程内の取組について

本学は専門的な知識と技術を学び、社会に適応できる能力を身に着けることを目的としている。その為、すべての授業科目において社会的・職業的自立に関する指導が行われているが、とりわけ以下の授業科目は勤労観・職業観の形成など社会・職業とのつながりや実践的な学びを意識している。

#### ①職業と社会（一般教養科目）

主に就職希望を希望する学生を対象にして、進路を施策するための選択授業として行われる。自己分析や自己理解を行い、就職計画をたてることにより進路に対する意識向上を促し、幼稚園教諭・保育士の社会における役割や、「働く」とはどういうことかを中心に、就職について実践的に学ぶ。

また、学生には「就職の手引き」を配布し、以下の手順で就職へ向けての意識向上、就職前後の心構え等、幼稚園教諭・保育士になることに特化した内容でおこなっている。本科目は、印刷教材での授業となるが、任意の参加により、通学課程と共同で教育・保育現場での仕事に従事する卒業生や園・施設長経験者からの経験談を聞く機会及び就職講座の開講の参加を予定している。

ここでは、社会で求められている役割や自己の職業感と向き合うことを意図している。

#### <1年次>

##### ・社会と仕事

働く意味を考える、社会が求める力、職業意識について学ぶ

##### ・自分を知ろう、「資格」とは

自分の経験や特性を自覚し、「資格を取得する」ことの重要性を認識する

##### ・ライフワークとライフステージ

身近な人々の生き方に学び、自分の人生のキーワードを見つける

幼児教育、保育の仕事について様々な働き方を学ぶ

##### ・魅力的な履歴書を書こう

魅力的な履歴書の書き方

##### ・就職活動の実際

## 就職経験者の体験

### < 2年次 >

- ・面接について知ろう  
就職試験の実際・面接の実際を知る
- ・コミュニケーションから始まるマナーの基本  
人として、社会人として、教育者・保育者としてのコミュニケーションから始まるマナーの基本を学ぶ
- ・就職までの道  
就職カード、履歴書の作成  
OGの就職体験  
就職計画の作成

### ②総合文化

建学の精神を基礎として、3つの教育方針(①自他ともに敬い愛する人として教育する、②豊かな知性と感性あふれる人として教育する、③健やかな家庭、社会を担う人として教育する)が達成されるよう、変化の激しい社会の中で、豊かに生きる力と教養を育むこと、人としての品格を備えることを目標として授業が編成されている。

具体的な内容としては①日本の古典芸能について理解を深める、②自己を見つめ、人としての生き方・学び方を考える、③芸術に触れて知性と感性を磨く、④社会人としての生き方・行動を学ぶ、など、鑑賞や見学などの活動を通じレポートを作成し提出することで、社会に適応できる教養の習得を意識している。

### ③専門科目

専門科目は幼稚園教諭としての実践力の育成を目指して行われるが、中でも各指導法については、幼児教育現場に出た際の人間生活をとりまく諸問題への対応など、各職の専門性に対する意識を高めるための具体的な実践が行われる。

## (2) 教育課程外の取組について

学生の進路決定については、就職委員会における就職委員を中心に多方面の教職員と連携しながらきめ細やかな情報の提供と指導を行う。就職委員が中心として行う就職指導は求人・進学情報の開拓や収集及び提供、個別面談において履歴書添削や面接指導である。また、就職資料室に就職関連図書や各種採用試験の過去問題集を揃え、学生に提供する。



この他、通学課程と同様に任意により「筆記試験対策講座」を実施する予定である。これにより、公務員や一般企業など筆記試験を行う就職試験にも対応する。

また、本課程の学生に対し、通学課程の長期休暇時を利用し「医療事務講座」及び「ホームヘルパー2級講座」を開講する予定である。既設の通学課程では既に実績があり、平成23年度は、医療事務講座においては6名、ホームヘルパー2級講座については11名の受講があり、教育課程外の取組についても積極的に実施し、幅広く幼稚園教諭の資格・学びを生かす機会を増やす環境を構築する。

### (3) 適切な体制の整備について

学生の就職・進路活動及び、キャリア形成の支援のために、両学科教員・職員からなる就職委員会を組織する。就職委員会では月に1度定例委員会を開催し、就職関連支援講座、講演会等の年間計画、策定、実施や学生の進路・就職活動状況管理等を行う。就職委員を通し、担任・チューター(実習担当教員)・学生部と相互に情報提供を行い、学生の進路希望や状況の変化等について情報を共有するとともに、各方面から学生への支援指導を行う。学生への情報の提供においては、就職資料室に掲示板を設置し、セミナー・求人情報等を掲示している他、就職委員担当教員を通し、教員とも連携し周知徹底を図る。また、上述の就職情報については通信生に対しても本学コミュニケーションシステム「コミネット」を利用し、学生への情報提供に活用する。

<別添資料>

- (資料 1) 要望書
- (資料 2) 小田原女子短期大学 保育学科（通信教育課程）設置に関するニーズ調査
- (資料 3) 平成20～24年度 通信制教育系学部 在籍者状況
- (資料 4) カリキュラムマップ及び概念図
- (資料 5) 職員定年規程
- (資料 6) 保育学科通信教育課程 平成26年度開講予定表
- (資料 7) 保育学科通信教育課程 履修モデル・学習の流れ
- (資料 8) 学術雑誌一覧
- (資料 9) 幼稚園教諭二種免許取得のための授業科目
- (資料10) 実習受入先一覧
- (資料11) 実習受入承諾書
- (資料12) 教育実習計画表、実習巡回者用指導要点、実習巡回指導計画
- (資料13) 科目修得試験開催日程
- (資料14) スクーリング開催日程
- (資料15) 委員会等管理体系
- (資料16) システム等の管理体制

平成25年5月7日

文 部 科 学 大 臣  
下 村 博 文 殿

公益社団法人 神奈川県私立幼稚園連合会

会 長 渡 邊 眞



小田原女子短期大学の保育学科通信教育課程の設置に伴う要望

貴職におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

神奈川県私立幼稚園における幼児教育に対するご理解を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本連合会は神奈川県内の12私立幼稚園協会相互の連絡提携により幼稚園の振興を図ることを目的として、様々な活動を行ってまいりました。

今般、幼児教育の充実とともに、地域での家庭支援など保育者への期待が高まり、総合的な能力を兼ね備えた人材の養成・育成に対するニーズの高まりとともに、女性の社会進出支援に向けた保育需要がさらに大きくなってきていると考えております。

昨年夏に成立した子ども子育て関連3法についても、平成27年度の施行までに準備を進めていくことが、本連合会の課題となっております。その中でも改正認定こども園法の幼保連携型認定こども園は、幼児期の学校教育・保育・地域での子育て支援を総合的に提供する施設であり、普及を進めるためには幼稚園教諭免許と保育士資格を併有した人材の確保が必要となります。

このような中で、現勤務者には両方の資格・免許を併有していない者もおり、今後、免許・資格取得の需要増が予想されます。

免許・資格を併有することで、より質の高く、社会のニーズに応じた幼児教育を提供できるようになると考え、幼児教育の人材となる免許取得の方途が増えることは、本連合会として誠に望ましいものであります。

小田原女子短期大学が設置を目指している保育学科通信教育課程は、現勤務者である保育士でも通信教育を利用することにより幼稚園教諭免許の取得を目指すことができます。加えて、他分野で働いている方々が幼稚園や認定こども園への就職希望する場合の免許・資格の取得に向けた教育機会を提供できると考えます。

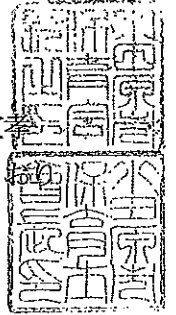
小田原女子短期大学の保育学科通信教育課程における幼稚園教諭、保育教諭の養成を通じ、本県における幼児教育の充実、人材確保、少子化対策、子育て支援などに貢献が期待できますことから、本件の実現を望むものです。

つきましては、小田原女子短期大学の保育学科通信教育課程の設置認可に当たりまして、貴職の格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

平成 25 年 5 月 15 日

文部科学大臣 殿

小田原市保育会 会長 松原 宣孝  
小田原市保育士会 会長 長谷川 さほ



### 小田原女子短期大学の保育学科通信教育課程の設置に伴う要望

貴職におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本小田原市保育会、小田原市保育士会は、保育を通じ様々な活動を行ってまいりました。さらに、今般、保育内容の充実とともに、地域での家庭支援など保育者への期待が高まり、総合的な能力を兼ね備えた人材の養成・育成が必須要素となっているとともに、女性の社会進出支援に向け保育需要が大きくなりつつあります。

昨夏成立した子ども・子育て関連三法についても、本格スタートとなる平成 27 年度までに準備を進めていくことが、本小田原市保育会、小田原市保育士会の課題であります。その中でも改正認定こども園法の幼保連携型認定こども園に対応していくためには保育士資格と幼稚園教諭免許を併有した人材の確保が必要となります。

このような中、現任者には、両方の資格・免許を併有していない者もあり、今後免許・資格取得への需要は増えていくことが予想されます。加えて、両方の資格・免許を併有することでより質の高い、社会のニーズに応じた保育を展開できるようになります。上記から、本小田原市保育会、小田原市保育士会としても免許取得の方途が増えることを渴望しております。

小田原女子短期大学が設置を目指している保育学科通信教育課程は、現勤務者である保育士であっても通信教育という学習スタイルを利用することで、幼稚園教諭免許の取得を目指することができます。加えて、働きながら保育分野への就職を希望する人たちへの教育機会を提供し、保育士不足を解消することができます。

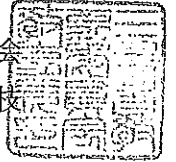
以上により、小田原市の保育事業の充実、少子化対策、子育て支援などにさらなる貢献が期待できることから、本件の実現を望むものであります。

つきましては、小田原女子短期大学による保育学科通信教育課程の設置申請にあたりまして、格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年5月1日

文部科学大臣 殿

団体名 三島市教育委員会  
教育長 西島 玉枝



### 小田原女子短期大学の保育学科通信教育課程の設置に伴う要望

貴職におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、三島市教育委員会では、今後10年間を計画期間とした「三島市学校教育振興計画」を策定し、特に、子どもたちの豊かな感性を育むため、環境教育、キャリア教育、食育、防災教育などに力を入れるなど、様々な活動を行ってまいりました。

今般、幼児教育の充実とともに、地域での家庭支援など保育者への期待が高まり、総合的な能力を兼ね備えた人材の養成・育成が必須要素となっているとともに、女性の社会進出支援に向け保育需要が大きくなりつつあります。

昨夏成立した子ども・子育て関連三法についても、本格スタートとなる平成27年度までに準備を進めていくことが、本市教育委員会の課題であります。その中でも改正認定こども園法の幼保連携型認定こども園は、幼児期の学校教育・保育・地域での子育て支援を総合的に提供する施設であり、普及を進めるためには幼稚園教諭免許と保育士資格を併有した人材の確保が必要となります。

このような中、現任者には、両方の資格・免許を併有していない者もあり、今後免許・資格取得への需要は増えていくことが予想されます。加えて、両方の資格・免許を併有することでより質の高い、社会のニーズに応じた幼児教育（保育）を推進できるようになります。上記から、本市教育委員会としても免許取得の方途が増えることを渴望しております。

小田原女子短期大学が設置を目指している保育学科通信教育課程は、現勤務者である幼稚園教諭（保育士）であっても通信教育という学習スタイルを利用することで、保育士資格（幼稚園教諭免許）の取得を目指すことができます。加えて、働きながら保育分野への就職を希望する人たちへの教育機会を提供することができます。

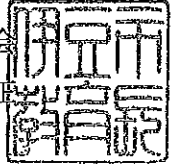
以上により、幼稚園教諭の養成、さらには保育教諭の養成を通じて静岡県三島市の幼児教育の充実、少子化対策、子育て支援などにさらなる貢献が期待できることから、本件の実現を望むものであります。

つきましては、小田原女子短期大学による保育学科通信教育課程の設置申請にあたりまして、格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年5月14日

文部科学大臣 殿

伊豆市教育委員会  
教育長 勝呂 信正



### 小田原女子短期大学の保育学科通信教育課程の設置に伴う要望

薫風の候、貴職におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本市においては急速な少子化に伴い、伊豆市学校再編成計画により「子どものよりよい環境づくり」を目指して、平成22年度から再編成事業を行い、小学校12校を7校に再編成してまいりました。

少子化に伴い、幼児期の保護者の中には、子育ての不安や母親の孤立などの課題も見受けられ、幼児教育の充実とともに、地域での母親や家庭支援など保育者への期待が高まっております。また、子育て中の女性の就業等による保育需要が大きく、本市においては、平成22年度に「幼保連携型の認定こども園」2園を立ち上げ、子育て支援に積極的に着手しております。さらに、24年度には私立の認定こども園も市内に開所し、より多くの保護者が利用できるよう支援策の推進をしております。

幼保連携型認定こども園は、幼児期の学校教育・保育・地域での子育て支援を総合的に提供する施設であり、普及を進めるためには幼稚園教諭免許と保育士資格の両方を取得した人材の確保が必要となります。このような中、現在の勤務者の中には、両方の資格・免許を併有していない者もあり、職務等に影響を及ぼすことも考えられます。

今後、免許・資格取得への需要が増えていくことが予想されるとともに、両方の資格・免許を併有することで、より質の高い幼児教育を推進できることが期待されることから、本市としても免許取得の機会や機関が増加することが望まれます。

小田原女子短期大学が設置を目指している保育学科通信教育課程は、通信教育という履修形式を利用することで、現勤務者でも保育士資格や幼稚園教諭免許の取得を目指すことができ、働きながら保育分野への就職を希望する人たちへの教育機会も提供することができるものであります。また、地理的優位にある伊豆市にとって、幼稚園教諭や保育士の養成を通じた専門性に優れた人材の育成が、本市の幼児教育の充実や少子化対策、子育て支援などへの期待ができることから、本件の実現を望むものであります。

つきましては、小田原女子短期大学による保育学科通信教育課程の設置申請にあたりまして、格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

平成 25 年 5 月 15 日

文部科学大臣 下村博文 殿

神奈川県足柄下郡

箱根町教育委員会教育長

小林 恭



神奈川県足柄下郡

真鶴町教育委員会教育長

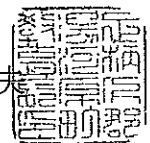
牧岡 努



神奈川県足柄下郡

湯河原町教育委員会教育長

篠原 通夫



小田原女子短期大学の保育学科通信教育課程の設置について（具申）

貴職におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、箱根町・真鶴町・湯河原町の 3 町では、少子化対策並びに就学前児童への教育及び子育て環境の充実を目的とし、様々な施策を実施しております。

今般、幼児教育の充実とともに、地域での家庭支援など保育者への期待が高まり、総合的な能力を兼ね備えた人材の養成・育成が必須要素となっているとともに、女性の社会進出支援に向け保育需要が大きくなりつつあります。

昨夏成立した子ども・子育て関連三法についても、本格スタートとなる平成 27 年度までに準備を進めていくことが、箱根町・真鶴町・湯河原町の 3 町共通の喫緊の課題であります。その中でも改正認定子ども園法の幼保連携型認定子ども園は、幼児期の学校教育・保育・地域での子育て支援を総合的に提供する施設であり、普及を進めるためには幼稚園教諭免許と保育士資格を併有した人材の確保が必要となります。

このような中、職員募集する際には両方の免許・資格保有を要件としておりますが、現任者の中には、両方の免許・資格を有していない者もあり、今後免許・資格取得への需要は増えて行くことが予想されます。加えて、両方の免許・資格を併有することでより質の高い、社会のニーズに応じた幼児教育（保育）を推進できるようになります。上記のことから、箱根町・真鶴町・湯河原町の 3 町としても免許・資格取得の方途が増えることについて期待しております。

また、小田原女子短期大学が設置を目指している保育学科通信教育課程は、現勤務者である幼稚園教諭・保育士であっても通信教育という学習スタイルを利用することで、保育士資格・幼稚園教諭免許の取得を目指すことができます。加えて、働きながら保育分野への就職を希望する人たちへの教育機会を提供することができます。

以上により、幼稚園教諭の養成、更には保育士の養成を通じて、箱根町・真鶴町・湯河原町の幼児教育（保育）の充実、少子化対策、子育て支援などに大きく貢献を得られることから、本件の実現を強く望むものであります。

つきましては、小田原女子短期大学による保育学科通信教育課程の設置申請にあたりまして、格別のご高配を賜りますよう具申いたします。よろしく願いいたします。

---

**小田原女子短期大学 保育学科(通信教育課程)  
設置に関するニーズ調査**

---

**< 抜粋 >**

2013年5月17日



# 小田原女子短期大学 保育学科(通信教育課程) 設置に関するニーズ調査

## 1. 調査概要

### (1) 調査目的

新設・改組構想に対して、貴学を取り巻くステークホルダーからの評価を確認する。  
保育学科(通信教育課程)設置に関するニーズを明らかにすることで、今後の具体的な方向性を検討する上での基礎データとする。

### (2) 調査対象者・配布数・回収数・回収率

	調査対象者	配布数	回収数	回収率	調査手法
調査①	通信制高校の生徒(新高校3年生)	973	500	51.4	留置調査
調査②	小田原女子短期大学への資料請求者(新高校3年生)	200	28	14.0	郵送調査
調査③	想定される就職先の採用担当者	1200	350	29.2	郵送調査
調査④	専門学校在校生	1889	1779	94.2	留置調査
調査⑤	本学HP来訪者	-	543	-	インターネット調査

### (3) 調査実施期間

- 調査① 2013年4月8日(月)～2013年4月25日(木)
- 調査② 2013年4月15日(月)～2013年4月26日(金)
- 調査③ 2013年4月15日(月)～2013年4月26日(金)
- 調査④ 2013年4月15日(月)～2013年4月26日(金)
- 調査⑤ 2013年4月13日(土)～2013年4月30日(火)

### (4) 調査委託先

株式会社 進研アド

## 2. 調査結果概要

※詳細集計結果は集計表参照、調査結果よりポイントのみ抽出しています。

### (1) 小田原女子短期大学 保育学科(通信教育課程)への入学意向

・下記の表は、回答者全員のうち「入学してみたいと思う」と回答した人の割合と、「入学を検討してもいいと思う」と回答した人の割合を示したものである。

	調査① 通信制高校 (n=500)		調査② 資料請求者 (n=28)		調査④ 専門学校在校生 (n=1779)		調査⑤ 社会人 (n=543)		合計(調査①②④⑤計) (n=2850)	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
入学してみたいと思う	16	3.2	3	10.7	90	5.1	68	12.5	⇒ 177	⇒ 6.2
入学してみたいと思う+ 入学を検討してもいいと思う	80	16.0	5	17.9	536	30.1	353	65.0	⇒ 974	⇒ 34.2

- ・「入学してみたいと思う」と回答した人の総数は177名、「入学を検討してもいいと思う」まで含めると974名が入学意向を示した。
- ・回答者全体の1割弱が「入学してみたいと思う」と回答。「入学を検討してもいいと思う」まで含めると、回答者全体の3割以上が入学意向を示した。

### (2) 小田原女子短期大学 保育学科(通信教育課程)卒業生の採用意向

・下記の表は、回答者全員のうち「採用したいと思う」と回答した人の割合と、「採用を検討したいと思う」と回答した人の割合を示したものである。

	調査③ 想定就職先 (n=350)	
	人数	%
採用したいと思う	41	11.7
採用したいと思う+ 採用を検討したいと思う	254	72.6

- ・「採用したいと思う」と回答した人の総数は41名であり、「採用を検討したいと思う」まで含めると、254名が採用意向を示した。
- ・回答者全体の1割以上が「採用したいと思う」と回答。「採用を検討したいと思う」まで含めると、回答者全体の7割以上が採用意向を示した。

---

**調査① 通信制高校の生徒(新高校3年生)対象  
集計結果**

---

2013年5月17日

## Q1. あなたは、高校卒業後の進路をどのようにお考えですか。【複数回答】

		1.大学に進学	2.短期大学に進学	3.専門学校・専修学校に進学	4.就職	5.その他	無回答
全体	%	29.0	7.8	44.0	25.8	12.6	6.0
500	人数	145	39	220	129	63	30

## Q2. あなたは、どのような学びに興味がありますか。【複数回答】

		1.保育学	2.幼児教育学	3.教員養成系	4.教育学	5.生活科学	6.芸術学	7.総合科学	8.社会学	9.社会福祉学	10.心理学	11.文学
全体	%	17.8	11.0	3.8	2.8	6.8	24.6	2.8	2.0	4.2	21.2	9.2
500	人数	89	55	19	14	34	123	14	10	21	106	46

		12.語学	13.法学	14.経済・経営・商学	15.看護・保健学	16.医療技術	17.医・歯・薬学	18.理学	19.工学	20.農・水産学	21.その他	無回答
全体	%	10.4	2.0	9.8	7.0	6.6	5.4	2.8	3.8	2.8	18.4	10.0
500	人数	52	10	49	35	33	27	14	19	14	92	50

## Q3. あなたは受験する学校を選ぶとき、どのようなことを重視しますか。【複数回答】

		1.通信教育課程がある	2.自宅学習が中心のカリキュラムである	3.働きながら学べるカリキュラムである	4.短期大学である	5.専門教育が充実している	6.所属学部・学科・専攻以外の科目も学べる	7.幅広い教養が身につく	8.社会で役立つ実践的な能力が身につく	9.地域社会と連携した授業がある	10.実習・演習の授業が充実している	11.学外での実習機会が豊富にある
全体	%	5.0	2.8	16.6	4.6	29.8	8.6	16.6	25.6	3.4	16.2	6.0
500	人数	25	14	83	23	149	43	83	128	17	81	30

		12.実習先が自宅から近い	13.少人数教育である	14.教員・職員の面倒見がよい	15.学生が直接質問できる時間(オフィスアワー)を設定している	16.短期間で資格免許が取得できる	17.資格免許取得のサポートが充実している	18.就職支援体制が充実している	19.施設・設備が充実している	20.情報通信技術を積極的に活用している	21.キャンパスがきれいな	22.立地や交通の便がよい
全体	%	10.6	9.2	22.8	1.2	14.2	31.0	21.8	28.2	2.4	37.2	30.6
500	人数	53	46	114	6	71	155	109	141	12	186	153

		23.自宅通学できる	24.クラブ・サークル活動が盛んである	25.学費が安い	26.奨学金制度が充実している	27.歴史・伝統がある	28.在学生の感じがよい	29.周囲の評判がよい	30.入試制度が自分に合っている	31.その他	無回答
全体	%	18.6	11.6	35.2	16.0	4.4	26.0	20.8	15.4	4.8	8.8
500	人数	93	58	176	80	22	130	104	77	24	44

## Q4. あなたは、小田原女子短期大学についてどの程度ご存知ですか。【単一回答】

		1.学べる内容を詳しく知っている	2.学べる内容をだいたい知っている	3.名前だけ知っている	4.今回初めて知った	無回答
全体	%	1.2	1.0	7.2	85.0	5.6
500	人数	6	5	36	425	28

## Q5. 小田原女子短期大学には以下のような特色があります。

これらの特色のうち、あなたが魅力的だと感じることや興味をひかれるものはどれですか。【複数回答】

		1.湘南の海と小田原の自然に囲まれたキャンパスは、学ぶにはもちろん、キャンパスライフを楽しむのにも理想的な環境です	2.少人数クラス担任制のクラス会を通じて学生・教員間の距離が近い親身な指導を行います	3.ひとりの学生をひとりの教員が2年間担当するチューター制で丁寧な実習を指導します	4.個人指導に力を注ぎ、それぞれの適性を見極めるため就職支援を入学直後の1年次4月からスタートします	5.「職業と社会」という科目の中で、外部講師の話を聞いた、履歴書の書き方や面接のノウハウなどを学んだりしながら確実な就職の準備ができます	6.外部講師を招いたり、芸術鑑賞をしたりして教養を高める「総合文化」という授業があります	7.保育学科(通学課程)では、保育所や幼稚園などでの実習や少人数制での保育演習などで保育技術を学びます	8.保育学科(通学課程)では、子育て支援センターや子育てひろばなどで地域の子どもたちと実際にふれあいます。	9.保育学科(通学課程)では、豊かな人間性と表現力を身につけた保育者を育成します	10.食物栄養学科では、生活全般にわたる広い視野と専門知識を持った栄養士、栄養教諭、健康管理士一般指導員を養成します	11.食物栄養学科では、2年間の基礎学習と豊富な実習を通して食生活・健康のスペシャリストを育成します	無回答
全体	%	42.2	31.2	22.2	21.0	17.4	13.4	15.6	15.6	9.8	8.8	12.6	17.4
500	人数	211	156	111	105	87	67	78	78	49	44	63	87

Q6. 小田原女子短期大学で設置構想中の「保育学科 通信教育課程」には以下のような特色があります。  
あなたはこれらの特色にどの程度魅力を感じますか。【複数回答】

A 保育者・幼児教育者としての子ども観や社会観、基礎的な知識・技術を段階的に身につけることができます

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	22.6	45.8	17.6	6.6	68.4	24.2	7.4
	人数	113	229	88	33	342	121	37

B 幅広い教養と確かな専門知識・技術を身につけ、自らの専門性を通して社会に貢献できる人材を育成します

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	26.8	51.4	12.2	5.0	78.2	17.2	4.6
	人数	134	257	61	25	391	86	23

C 大学で得た教養と知識・技能をさらに発展させ、自然と社会に対して問題意識を持ち、生涯にわたって学び続けようという意思を持つ人材を育成します

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	27.2	45.8	17.0	5.4	73.0	22.4	4.6
	人数	136	229	85	27	365	112	23

D 卒業後は、資格を活かして保育所や施設、幼稚園へ就職するだけでなく、託児所や老人ホーム、子ども関連の会社への就職等、幅広い進路が想定されます

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	32.6	39.4	16.4	6.8	72.0	23.2	4.8
	人数	163	197	82	34	360	116	24

E 保育学科 通信教育課程を卒業することで、幼稚園教諭二種免許を取得することができます

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	31.2	40.0	17.2	7.2	71.2	24.4	4.4
	人数	156	200	86	36	356	122	22

F 保育学科 通信教育課程卒業後、専攻科に進むことで、保育士資格も取得することができます

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	30.6	39.2	18.0	7.6	69.8	25.6	4.6
	人数	153	196	90	38	349	128	23

G 自宅でのテキスト学習を中心として、幼稚園教諭二種免許や保育士資格の取得をめざすことができます

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	25.4	40.6	21.4	7.8	66.0	29.2	4.8
	人数	127	203	107	39	330	146	24

H 「演習及び実験・実習」の授業は、年9回のスクーリング(通学授業)日程を設け、集中講義による授業の形で実施します

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	22.8	43.8	22.0	6.6	66.6	28.6	4.8
	人数	114	219	110	33	333	143	24

I 自宅学習を進めるための指導、助言等の補助手段として、Eメール等の情報通信技術を積極的に活用します

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	22.4	44.2	21.4	7.2	66.6	28.6	4.8
	人数	112	221	107	36	333	143	24

J 学生が直接担当教員へ質疑応答を行えるよう、週3時間の「オフィスアワー」を設定しています

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	22.4	46.0	20.6	6.6	68.4	27.2	4.4
	人数	112	230	103	33	342	136	22

Q7. あなたは、小田原女子短期大学で設置構想中の「保育学科 通信教育課程」について、どの程度興味をもちましたか。【単一回答】

		1.興味を もった	2.やや興 味をもった	3.あまり興 味をもたな かった	4.興味をも たなかつ た	1+2	3+4	無回答
全 体	%	6.8	30.2	29.2	28.8	37.0	58.0	5.0
500	人数	34	151	146	144	185	290	25

Q8. あなたは、小田原女子短期大学で設置構想中の「保育学科 通信教育課程」について、どの程度入学してみたいと思いますか。  
【単一回答】

		1.入学して みたい	2.入学を 検討して みたい	3.あまり入 学したいと 思わない	4.入学した いと思わ ない	1+2	3+4	無回答
全 体	%	3.2	12.8	36.8	41.6	16.0	78.4	5.6
500	人数	16	64	184	208	80	392	28

Q9. 最後にあなた自身について教えてください。【単一回答】

・性別

		男性	女性	無回答
全 体	%	34.8	61.8	3.4
500	人数	174	309	17

・飛鳥未来高校のキャンパス

		札幌キャン パス	池袋キャン パス	大阪キャン パス	奈良本校 パス	横浜キャン パス
全 体	%	21.4	33.0	9.4	13.4	22.8
500	人数	107	165	47	67	114

Q6. 小田原女子短期大学で設置構想中の「保育学科 通信教育課程」には以下のような特色があります。  
あなたはこれらの特色にどの程度魅力を感じますか。【単一回答】

E 保育学科 通信教育課程を卒業することで、幼稚園教諭二種免許を取得することができます

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体		% 31.2	40.0	17.2	7.2	71.2	24.4	4.4
500		人数 156	200	86	36	356	122	22
性別	男性	% 22.4	35.6	27.0	10.3	58.0	37.4	4.6
	174	人数 39	62	47	18	101	65	8
女性	% 36.6	44.0	12.0	5.5	80.6	17.5	1.9	
	309	人数 113	136	37	17	249	54	6
Q2	保育学	% 57.3	31.5	5.6	1.1	88.8	6.7	4.5
	89	人数 51	28	5	1	79	6	4
	幼児教育学	% 58.2	29.1	5.5	1.8	87.3	7.3	5.5
55	人数 32	16	3	1	48	4	3	
保育学+幼児教育学	% 56.7	32.0	6.2	1.0	88.7	7.2	4.1	
	97	人数 55	31	6	1	86	7	4
	認知度	学べる内容を詳しく知っている	% 33.3	33.3	0.0	33.3	66.7	33.3
6		人数 2	2	0	2	4	2	0
学べる内容をだいたい知っている		% 20.0	20.0	40.0	0.0	40.0	40.0	20.0
5		人数 1	1	2	0	2	2	1
名前だけ知っている		% 41.7	44.4	2.8	5.6	86.1	8.3	5.6
36	人数 15	16	1	2	31	3	2	
今回初めて知った	% 32.0	39.1	18.4	6.4	71.1	24.7	4.2	
425	人数 136	166	78	27	302	105	18	
入学希望度	1.入学してみたい	% 81.3	12.5	6.3	0.0	93.8	6.3	0.0
	16	人数 13	2	1	0	15	1	0
	2.入学を検討してみたい	% 50.0	43.8	6.3	0.0	93.8	6.3	0.0
	64	人数 32	28	4	0	60	4	0
	3.あまり入学したいと思わない	% 29.9	52.7	15.2	1.1	82.6	16.3	1.1
	184	人数 55	97	28	2	152	30	2
	4.入学したいと思わない	% 24.5	32.2	24.5	14.9	56.7	39.4	3.8
208	人数 51	67	51	31	118	82	8	
1+2	% 56.3	37.5	6.3	0.0	93.8	6.3	0.0	
80	人数 45	30	5	0	75	5	0	
3+4	% 27.0	41.8	20.2	8.4	68.9	28.6	2.6	
392	人数 106	164	79	33	270	112	10	
在籍地別	札幌キャンパス	% 33.6	41.1	15.9	7.5	74.8	23.4	1.9
	107	人数 36	44	17	8	80	25	2
	池袋キャンパス	% 34.5	40.6	13.9	7.9	75.2	21.8	3.0
	165	人数 57	67	23	13	124	36	5
	大阪キャンパス	% 17.0	53.2	19.1	8.5	70.2	27.7	2.1
	47	人数 8	25	9	4	33	13	1
奈良本校	% 23.9	31.3	23.9	9.0	55.2	32.8	11.9	
67	人数 16	21	16	6	37	22	8	
横浜キャンパス	% 34.2	37.7	18.4	4.4	71.9	22.8	5.3	
114	人数 39	43	21	5	82	26	6	

Q8. あなたは、小田原女子短期大学で設置構想中の「保育学科 通信教育課程」について、どの程度入学してみたいと思いますか。  
【単一回答】

			1.入学してみたい	2.入学を検討してみたい	3.あまり入学したいと思わない	4.入学したいと思わない	1+2	3+4	無回答
全体		%	3.2	12.8	36.8	41.6	16.0	78.4	5.6
500		人数	16	64	184	208	80	392	28
性別	男性	%	4.6	9.2	30.5	50.0	13.8	80.5	5.7
	174	人数	8	16	53	87	24	140	10
	女性	%	2.6	15.2	42.1	36.2	17.8	78.3	3.9
	309	人数	8	47	130	112	55	242	12
Q2	保育学	%	10.1	31.5	36.0	18.0	41.6	53.9	4.5
	89	人数	9	28	32	16	37	48	4
	幼児教育学	%	7.3	38.2	32.7	18.2	45.5	50.9	3.6
55	人数	4	21	18	10	25	28	2	
保育学+幼児教育学	%	10.3	32.0	36.1	17.5	42.3	53.6	4.1	
97	人数	10	31	35	17	41	52	4	
認知度	学べる内容を詳しく知っている	%	50.0	0.0	16.7	16.7	50.0	33.3	16.7
	6	人数	3	0	1	1	3	2	1
	学べる内容をだいたい知っている	%	20.0	40.0	20.0	20.0	60.0	40.0	0.0
	5	人数	1	2	1	1	3	2	0
名前だけ知っている	%	2.8	25.0	58.3	13.9	27.8	72.2	0.0	
36	人数	1	9	21	5	10	26	0	
今回初めて知った	%	2.4	11.8	35.3	44.9	14.1	80.2	5.6	
425	人数	10	50	150	191	60	341	24	
在籍地別	札幌キャンパス	%	0.0	10.3	36.4	49.5	10.3	86.0	3.7
	107	人数	0	11	39	53	11	92	4
	池袋キャンパス	%	3.0	13.3	41.2	37.6	16.4	78.8	4.8
	165	人数	5	22	68	62	27	130	8
	大阪キャンパス	%	2.1	8.5	44.7	40.4	10.6	85.1	4.3
	47	人数	1	4	21	19	5	40	2
奈良本校	%	4.5	11.9	25.4	44.8	16.4	70.1	13.4	
67	人数	3	8	17	30	11	47	9	
横浜キャンパス	%	6.1	16.7	34.2	38.6	22.8	72.8	4.4	
114	人数	7	19	39	44	26	83	5	

---

**調査② 小田原女子短期大学への資料請求者対象  
集計結果**

---

2013年5月17日



## Q1. あなたは、高校卒業後の進路をどのようにお考えですか。【複数回答】

		1.大学に進学	2.短期大学に進学	3.専門学校・専修学校に進学	4.就職	5.その他	無回答
全体	%	35.7	64.3	39.3	0.0	0.0	0.0
	28 人数	10	18	11	0	0	0

## Q2. あなたは、どのような学びに興味がありますか。【複数回答】

		1.保育学	2.幼児教育学	3.教員養成系	4.教育学	5.生活科学	6.芸術学	7.総合科学	8.社会学	9.社会福祉学	10.心理学	11.文学
全体	%	57.1	50.0	7.1	10.7	21.4	3.6	7.1	0.0	10.7	10.7	3.6
	28 人数	16	14	2	3	6	1	2	0	3	3	1

		12.語学	13.法学	14.経済・経営・商学	15.看護・保健学	16.医療技術	17.医・歯・薬学	18.理学	19.工学	20.農・水産学	21.その他	無回答
全体	%	0.0	3.6	0.0	0.0	3.6	0.0	3.6	0.0	3.6	17.9	0.0
	28 人数	0	1	0	0	1	0	1	0	1	5	0

## Q3. あなたは受験する学校を選ぶとき、どのようなことを重視しますか。【複数回答】

		1.通信教育課程がある	2.自宅学習が中心のカリキュラムである	3.働きながら学べるカリキュラムである	4.短期大学である	5.専門教育が充実している	6.所属学部・学科・専攻以外の科目も学べる	7.幅広い教養が身につく	8.社会で役立つ実践的な能力が身につく	9.地域社会と連携した授業がある	10.実習・演習の授業が充実している	11.学外での実習機会が豊富にある
全体	%	0.0	3.6	10.7	21.4	42.9	10.7	32.1	64.3	7.1	57.1	14.3
	28 人数	0	1	3	6	12	3	9	18	2	16	4

		12.実習先が自宅から近い	13.少人数教育である	14.教員・職員の面倒見がよい	15.学生が直接質問できる時間(オフィスアワー)を設定している	16.短期間で資格免許が取得できる	17.資格免許取得のサポートが充実している	18.就職支援体制が充実している	19.施設・設備が充実している	20.情報通信技術を積極的に活用している	21.キャンパスがきれいな	22.立地や交通の便がよい
全体	%	39.3	28.6	42.9	14.3	28.6	57.1	50.0	50.0	3.6	46.4	60.7
	28 人数	11	8	12	4	8	16	14	14	1	13	17

		23.自宅通学できる	24.クラブ・サークル活動が盛んである	25.学費が安い	26.奨学金制度が充実している	27.歴史・伝統がある	28.在学生の感じがよい	29.周囲の評判がよい	30.入試制度が自分に合っている	31.その他	無回答
全体	%	57.1	14.3	39.3	28.6	10.7	46.4	28.6	21.4	3.6	0.0
	28 人数	16	4	11	8	3	13	8	6	1	0

## Q4. あなたは、小田原女子短期大学についてどの程度ご存知ですか。【単一回答】

		1.学べる内容を詳しく知っている	2.学べる内容をだいたい知っている	3.名前だけ知っている	4.今回初めて知った	無回答
全体	%	10.7	60.7	28.6	0.0	0.0
	28 人数	3	17	8	0	0

## Q5. 小田原女子短期大学には以下のような特色があります。

これらの特色のうち、あなたが魅力的だと感じることや興味をひかれるものはどれですか。【複数回答】

		1.湘南の海と小田原の自然に囲まれたキャンパスは、学ぶにはもちろん、キャンパスライフを楽しむのにも理想的な環境です	2.少人数クラス担任制のクラス会を通じて学生・教員間の距離が近い親身な指導を行います	3.ひとりの学生をひとりの教員が2年間担当するチューター制で丁寧な実習を指導します	4.個人指導に力を注ぎ、それぞれの適性を見極めるため就職支援を入学直後の1年次4月からスタートします	5.「職業と社会」という科目の中で、外部講師の話を聞いた後、履歴書の書き方や面接のノウハウなどを学んだりしながら確実な就職の準備ができます	6.外部講師を招いたり、芸術鑑賞をしたりして教養を高める「総合文化」という授業があります	7.保育学科(通学課程)では、保育所や幼稚園などでの実習や少人数制での保育技術などを学びます	8.保育学科(通学課程)では、子育て支援センターや子育てひろばなどで地域の子どもたちと実際にふれあいます。	9.保育学科(通学課程)では、豊かな人間性と表現力を身につけた保育者を育成します	10.食物栄養学科では、生活全般にわたる広い視野と専門知識を持った栄養士、栄養教諭、健康管理士一般指導員を養成します	11.食物栄養学科では、2年間の基礎学習と豊富な実習を通して食生活・健康のスペシャリストを育成します	無回答
全体	%	28.6	71.4	53.6	46.4	28.6	14.3	57.1	35.7	39.3	21.4	17.9	0.0
	28 人数	8	20	15	13	8	4	16	10	11	6	5	0

Q6. 小田原女子短期大学で設置構想中の「保育学科 通信教育課程」には以下のような特色があります。  
あなたはこれらの特色にどの程度魅力を感じますか。【複数回答】

A 保育者・幼児教育者としての子ども観や社会観、基礎的な知識・技術を段階的に身につけることができます

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	50.0	35.7	10.7	3.6	85.7	14.3	0.0
28	人数	14	10	3	1	24	4	0

B 幅広い教養と確かな専門知識・技術を身につけ、自らの専門性を通して社会に貢献できる人材を育成します

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	46.4	42.9	7.1	3.6	89.3	10.7	0.0
28	人数	13	12	2	1	25	3	0

C 大学で得た教養と知識・技能をさらに発展させ、自然と社会に対して問題意識を持ち、生涯にわたって学び続けようという意思を持つ人材を育成します

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	46.4	42.9	10.7	0.0	89.3	10.7	0.0
28	人数	13	12	3	0	25	3	0

D 卒業後は、資格を活かして保育所や施設、幼稚園へ就職するだけでなく、託児所や老人ホーム、子ども関連の会社への就職等、幅広い進路が想定されます

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	46.4	50.0	3.6	0.0	96.4	3.6	0.0
28	人数	13	14	1	0	27	1	0

E 保育学科 通信教育課程を卒業することで、幼稚園教諭二種免許を取得することができます

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	46.4	39.3	7.1	7.1	85.7	14.3	0.0
28	人数	13	11	2	2	24	4	0

F 保育学科 通信教育課程卒業後、専攻科に進むことで、保育士資格も取得することができます

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	46.4	39.3	7.1	7.1	85.7	14.3	0.0
28	人数	13	11	2	2	24	4	0

G 自宅でのテキスト学習を中心として、幼稚園教諭二種免許や保育士資格の取得をめざすことができます

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	39.3	42.9	14.3	3.6	82.1	17.9	0.0
28	人数	11	12	4	1	23	5	0

H 「演習及び実験・実習」の授業は、年9回のスクーリング(通学授業)日程を設け、集中講義による授業の形で実施します

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	28.6	57.1	14.3	0.0	85.7	14.3	0.0
28	人数	8	16	4	0	24	4	0

I 自宅学習を進めるための指導、助言等の補助手段として、Eメール等の情報通信技術を積極的に活用します

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	32.1	53.6	14.3	0.0	85.7	14.3	0.0
28	人数	9	15	4	0	24	4	0

J 学生が直接担当教員へ質疑応答を行えるよう、週3時間の「オフィスアワー」を設定しています

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	53.6	46.4	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
28	人数	15	13	0	0	28	0	0

Q7. あなたは、小田原女子短期大学で設置構想中の「保育学科 通信教育課程」について、どの程度興味をもちましたか。【単一回答】

		1.興味をもった	2.やや興味をもった	3.あまり興味をもたなかった	4.興味をもたなかった	1+2	3+4	無回答
全 体	%	17.9	46.4	28.6	7.1	64.3	35.7	0.0
	28 人数	5	13	8	2	18	10	0

Q8. あなたは、小田原女子短期大学で設置構想中の「保育学科 通信教育課程」について、どの程度入学してみたいと思いますか。【単一回答】

		1.入学してみたい	2.入学を検討してみたい	3.あまり入学したいと思わない	4.入学したくない	1+2	3+4	無回答
全 体	%	10.7	7.1	53.6	28.6	17.9	82.1	0.0
	28 人数	3	2	15	8	5	23	0

Q9. 最後にあなた自身について教えてください。【単一回答】

・性別

		男性	女性	無回答
全 体	%	0.0	100.0	0.0
	28 人数	0	28	0

・在籍高校の所在地

		東京	神奈川	静岡
全 体	%	3.6	78.6	17.9
	28 人数	1	22	5

・高校進路区分

		C1	C2	C3	D
全 体	%	25.0	25.0	35.7	14.3
	28 人数	7	7	10	4

Q6. 小田原女子短期大学で設置構想中の「保育学科 通信教育課程」には以下のような特色があります。  
あなたはこれらの特色にどの程度魅力を感じますか。【単一回答】

E 保育学科 通信教育課程を卒業することで、幼稚園教諭二種免許を取得することができます

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体		% 46.4	39.3	7.1	7.1	85.7	14.3	0.0
28 人数		13	11	2	2	24	4	0
Q2	保育学	% 62.5	31.3	6.3	0.0	93.8	6.3	0.0
	16 人数	10	5	1	0	15	1	0
	幼児教育学	% 57.1	35.7	7.1	0.0	92.9	7.1	0.0
	14 人数	8	5	1	0	13	1	0
保育学+幼児教育学		% 62.5	31.3	6.3	0.0	93.8	6.3	0.0
16 人数		10	5	1	0	15	1	0
認知度	学べる内容を詳しく知っている	% 66.7	33.3	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	3 人数	2	1	0	0	3	0	0
	学べる内容をだいたい知っている	% 52.9	29.4	5.9	11.8	82.4	17.6	0.0
	17 人数	9	5	1	2	14	3	0
名前だけ知っている		% 25.0	62.5	12.5	0.0	87.5	12.5	0.0
8 人数		2	5	1	0	7	1	0
入学希望度	1.入学してみたい	% 100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	3 人数	3	0	0	0	3	0	0
	2.入学を検討してみたい	% 100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	2 人数	2	0	0	0	2	0	0
	3.あまり入学したいと思わない	% 46.7	46.7	6.7	0.0	93.3	6.7	0.0
	15 人数	7	7	1	0	14	1	0
	4.入学したいと思わない	% 12.5	50.0	12.5	25.0	62.5	37.5	0.0
	8 人数	1	4	1	2	5	3	0
1+2		% 100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
5 人数		5	0	0	0	5	0	0
3+4		% 34.8	47.8	8.7	8.7	82.6	17.4	0.0
23 人数		8	11	2	2	19	4	0
在籍高校別	東京	% 100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	1 人数	1	0	0	0	1	0	0
	神奈川	% 45.5	40.9	9.1	4.5	86.4	13.6	0.0
	22 人数	10	9	2	1	19	3	0
静岡		% 40.0	40.0	0.0	20.0	80.0	20.0	0.0
5 人数		2	2	0	1	4	1	0
高校進路区分別	C1	% 57.1	42.9	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	7 人数	4	3	0	0	7	0	0
	C2	% 28.6	42.9	0.0	28.6	71.4	28.6	0.0
	7 人数	2	3	0	2	5	2	0
	C3	% 50.0	30.0	20.0	0.0	80.0	20.0	0.0
	10 人数	5	3	2	0	8	2	0
D1		% 50.0	50.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
4 人数		2	2	0	0	4	0	0

Q8. あなたは、小田原女子短期大学で設置構想中の「保育学科 通信教育課程」について、どの程度入学してみたいと思いますか。  
【単一回答】

		1.入学してみたい	2.入学を検討してみたい	3.あまり入学したいと思わない	4.入学したいと思わない	1+2	3+4	無回答	
全体		%	10.7	7.1	53.6	28.6	17.9	82.1	0.0
28		人数	3	2	15	8	5	23	0
Q2	保育学	%	18.8	6.3	62.5	12.5	25.0	75.0	0.0
	16	人数	3	1	10	2	4	12	0
	幼児教育学	%	14.3	7.1	64.3	14.3	21.4	78.6	0.0
	14	人数	2	1	9	2	3	11	0
保育学+幼児教育学		%	18.8	6.3	62.5	12.5	25.0	75.0	0.0
16		人数	3	1	10	2	4	12	0
認知度	学べる内容を詳しく知っている	%	33.3	0.0	33.3	33.3	33.3	66.7	0.0
	3	人数	1	0	1	1	1	2	0
	学べる内容をだいたい知っている	%	5.9	11.8	47.1	35.3	17.6	82.4	0.0
	17	人数	1	2	8	6	3	14	0
名前だけ知っている		%	12.5	0.0	75.0	12.5	12.5	87.5	0.0
8		人数	1	0	6	1	1	7	0
在籍高校県別	東京	%	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	1	人数	0	0	1	0	0	1	0
	神奈川	%	13.6	9.1	54.5	22.7	22.7	77.3	0.0
	22	人数	3	2	12	5	5	17	0
静岡		%	0.0	0.0	40.0	60.0	0.0	100.0	0.0
5		人数	0	0	2	3	0	5	0
高校進路区分別	C1	%	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	7	人数	0	0	7	0	0	7	0
	C2	%	0.0	14.3	14.3	71.4	14.3	85.7	0.0
	7	人数	0	1	1	5	1	6	0
	C3	%	10.0	10.0	60.0	20.0	20.0	80.0	0.0
	10	人数	1	1	6	2	2	8	0
	D1	%	50.0	0.0	25.0	25.0	50.0	50.0	0.0
	4	人数	2	0	1	1	2	2	0

---

**調査③ 想定される就職先の採用担当者対象  
集計結果**

---

2013年5月17日

## Q1. あなたの勤務先における今後の新規学卒者の採用計画について教えてください。【単一回答】

		1.積極的に採用を増やす計画である	2.いくらか採用を増やす計画である	3.現状のまま	4.採用を減らす計画である	5.わからない	無回答
全体	%	12.3	24.9	43.4	0.9	16.3	2.3
350	人数	43	87	152	3	57	8

## Q2. あなたの勤務先では、どのような能力や資質のある人を新規学卒者として採用したいと考えていますか。【複数回答】

		1.主体性がある	2.リーダーシップがある	3.行動力がある	4.問題解決力がある	5.計画性がある	6.創造力がある	7.コミュニケーション能力が高い	8.柔軟性がある	9.協調性がある	10.常識がある	11.ストレスコントロール力がある
全体	%	59.7	16.6	63.1	44.0	52.3	53.1	77.7	65.7	87.7	80.6	35.7
350	人数	209	58	221	154	183	186	272	230	307	282	125

		12.外国語を読み、書き、聞き、話せる	13.専門的な知識や技術を身につけている	14.異なる分野の知識や技術を統合して使いこなせる	15.幅広い教養を身につけている	16.パソコンスキルが高い	17.マネジメント能力がある	18.その他	無回答
全体	%	3.7	38.9	14.9	29.7	14.6	7.7	11.1	0.3
350	人数	13	136	52	104	51	27	39	1

## Q3. あなたは、小田原女子短期大学についてどの程度ご存知ですか。【単一回答】

		1.学べる内容を詳しく知っている	2.学べる内容をだいたい知っている	3.名前だけ知っている	4.今回初めて知った	無回答
全体	%	2.0	37.4	44.3	14.0	2.3
350	人数	7	131	155	49	8

## Q4. 小田原女子短期大学には以下のような特色があります。

これらの特色のうち、あなたご自身やあなたの勤務先からみて魅力的だと感じることや興味をひかれるものはどれですか。【複数回答】

		1.湘南の海と小田原の自然に囲まれたキャンパスは、学ぶのにはもちろん、キャンパスライフを楽しむのにも理想的な環境です	2.少人数クラスの担任制のクラス会を通じて学生・教員間の距離が近い親身な指導を行います	3.ひとりの学生をひとりの教員が2年間担当するチューター制で丁寧な実習を指導します	4.個人指導に力を注ぎ、それぞれの適性を見極めたり就職支援を入学直後の1年次4月からスタートします	5.「職業と社会」という科目の中で、外部講師の話を聞いたり、履歴書の書き方や面接のノウハウなどを学んだりしながら確実な就職の準備ができます	6.外部講師を招いたり、芸術鑑賞をしたりして教養を高める「総合文化」という授業があります	7.保育学科(通学課程)では、保育所や幼稚園などでの実習や少人数制での保育演習などで保育技術を学びます	8.保育学科(通学課程)では、子育て支援センターや子育てひろばなどで地域の子どもたちと実際にふれあいます。	9.保育学科(通学課程)では、豊かな人間性と表現力を身につけた保育者を育成します	10.食物栄養学科では、生活全般にわたる広い視野と専門知識を持った栄養士、栄養教諭、健康管理士一般指導員を養成します	11.食物栄養学科では、2年間の基礎学習と豊富な実験・実習を通して食生活・健康のスペシャリストを育成します	無回答
全体	%	22.0	50.9	49.7	43.4	18.0	26.6	56.3	45.7	54.6	10.3	10.3	4.9
350	人数	77	178	174	152	63	93	197	160	191	36	36	17

Q5. 小田原女子短期大学で設置構想中の「保育学科 通信教育課程」には以下のような特色があります。  
あなたご自身やあなたの勤務先からみて、これらの特色にどの程度魅力を感じますか。【複数回答】

A 保育者・幼児教育者としての子ども観や社会観、基礎的な知識・技術を段階的に身につけることができます

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	36.0	55.7	3.1	0.0	91.7	3.1	5.1
	人数	126	195	11	0	321	11	18

B 幅広い教養と確かな専門知識・技術を身につけ、自らの専門性を通して社会に貢献できる人材を育成します

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	39.1	51.1	3.7	0.0	90.3	3.7	6.0
	人数	137	179	13	0	316	13	21

C 大学で得た教養と知識・技能をさらに発展させ、自然と社会に対して問題意識を持ち、生涯にわたって学び続けようという意思を持つ人材を育成します

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	39.4	47.7	7.1	0.3	87.1	7.4	5.4
	人数	138	167	25	1	305	26	19

D 卒業後は、資格を活かして保育所や施設、幼稚園へ就職するだけでなく、託児所や老人ホーム、子ども関連の会社への就職等、幅広い進路が想定されます

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	26.0	51.1	14.6	1.1	77.1	15.7	7.1
	人数	91	179	51	4	270	55	25

E 保育学科 通信教育課程を卒業することで、幼稚園教諭二種免許を取得することができます

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	31.1	48.6	13.1	2.0	79.7	15.1	5.1
	人数	109	170	46	7	279	53	18

F 保育学科 通信教育課程卒業後、専攻科に進むことで、保育士資格も取得することができます

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	32.0	52.9	8.9	2.0	84.9	10.9	4.3
	人数	112	185	31	7	297	38	15

G 自宅でのテキスト学習を中心として、幼稚園教諭二種免許や保育士資格の取得をめざすことができます

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	24.6	48.6	20.3	2.0	73.1	22.3	4.6
	人数	86	170	71	7	256	78	16

H 「演習及び実験・実習」の授業は、年9回のスクーリング(通学授業)日程を設け、集中講義による授業の形で実施します

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	22.0	55.4	15.1	1.7	77.4	16.9	5.7
	人数	77	194	53	6	271	59	20

I 自宅学習を進めるための指導、助言等の補助手段として、Eメール等の情報通信技術を積極的に活用します

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	19.4	54.6	20.9	0.6	74.0	21.4	4.6
	人数	68	191	73	2	259	75	16

J 学生が直接担当教員へ質疑応答を行えるよう、週3時間の「オフィスアワー」を設定しています

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	31.4	53.1	10.6	0.9	84.6	11.4	4.0
	人数	110	186	37	3	296	40	14



Q6. あなたご自身やあなたの勤務先からみて、小田原女子短期大学で設置構想中の「保育学科 通信教育課程」での学びは、これからの社会にとってどの程度必要であると思われますか。【単一回答】

		1.とてね必要だと思 う	2.ある程度 必要だと思 う	3.あまり必 要だと思 わない	4.まったく 必要だと思 わない	1+2	3+4	無回答
全 体 350	%	28.0	58.6	9.1	0.6	86.6	9.7	3.7
	人数	98	205	32	2	303	34	13

Q7. あなたご自身やあなたの勤務先からみて、小田原女子短期大学で設置構想中の「保育学科 通信教育課程」で学んだ学生を採用したいと思えますか。【単一回答】

		1.採用した いと思う	2.採用を 検討した いと思う	3.あまり採 用したいと思 わない	4.採用した いと思わ ない	1+2	3+4	無回答
全 体 350	%	11.7	60.9	18.0	2.3	72.6	20.3	7.1
	人数	41	213	63	8	254	71	25

Q8. あなたの勤務先の所在地を教えてください。【単一回答】

		1.神奈川 県 横浜 市	2.神奈川 県 川崎 市	3.神奈川 県 横須 賀三浦地 域	4.神奈川 県 県央 地域	5.神奈川 県 湘南 地域	6.神奈川 県 足柄 上地域	7.神奈川 県 西湖 地域	8.東京都	9.静岡県	10.山梨県	11.その他 の都道府 県	無回答
全 体 350	%	25.1	8.3	4.0	13.7	12.9	1.7	4.6	2.9	23.4	1.7	0.6	1.1
	人数	88	29	14	48	45	6	16	10	82	6	2	4

Q9. あなたの勤務先の種類を教えてください。【単一回答】

		1.幼稚園	2.保育所	3.託児所	4.児童養 護施設	5.障害者 施設	6.地域活 動支援セ ンター	7.子ども 関連会社 (玩具・教 育)	8.その他	無回答
全 体 350	%	89.1	0.9	0.0	2.9	4.0	0.0	0.0	2.3	0.9
	人数	312	3	0	10	14	0	0	8	3

## Q1. あなたの勤務先における今後の新規学卒者の採用計画について教えてください。【単一回答】

		1.積極的に採用を増やす計画である	2.いくらか採用を増やす計画である	3.現状のまま	4.採用を減らす計画である	5.わからない	無回答
全体		% 12.3	24.9	43.4	0.9	16.3	2.3
350		人数 43	87	152	3	57	8
認知度	学べる内容を詳しく知っている	% 42.9	28.6	28.6	0.0	0.0	0.0
	7	人数 3	2	2	0	0	0
	学べる内容をだいたい知っている	% 16.8	28.2	38.9	0.8	12.2	3.1
	131	人数 22	37	51	1	16	4
	名前だけ知っている	% 6.5	21.9	52.3	1.3	16.1	1.9
	155	人数 10	34	81	2	25	3
今回初めて知った	% 14.3	22.4	32.7	0.0	28.6	2.0	
49	人数 7	11	16	0	14	1	
採用推奨度	1.採用したいと思う	% 26.8	31.7	22.0	0.0	19.5	0.0
	41	人数 11	13	9	0	8	0
	2.採用を検討したいと思う	% 13.1	28.2	42.3	1.4	13.1	1.9
	213	人数 28	60	90	3	28	4
	3.あまり採用したいと思わない	% 1.6	11.1	61.9	0.0	20.6	4.8
	63	人数 1	7	39	0	13	3
	4.採用したいと思わない	% 12.5	12.5	50.0	0.0	25.0	0.0
	8	人数 1	1	4	0	2	0
1+2	% 15.4	28.7	39.0	1.2	14.2	1.6	
254	人数 39	73	99	3	36	4	
3+4	% 2.8	11.3	60.6	0.0	21.1	4.2	
71	人数 2	8	43	0	15	3	
勤務地の所在地	1.神奈川県 横浜市	% 11.4	30.7	43.2	1.1	12.5	1.1
	88	人数 10	27	38	1	11	1
	2.神奈川県 川崎市	% 24.1	20.7	41.4	3.4	10.3	0.0
	29	人数 7	6	12	1	3	0
	3.神奈川県 横須賀三浦地域	% 14.3	14.3	57.1	0.0	14.3	0.0
	14	人数 2	2	8	0	2	0
	4.神奈川県 県央地域	% 14.6	25.0	45.8	0.0	14.6	0.0
	48	人数 7	12	22	0	7	0
	5.神奈川県 湘南地域	% 17.8	17.8	53.3	2.2	6.7	2.2
	45	人数 8	8	24	1	3	1
	6.神奈川県 足柄上地域	% 16.7	16.7	0.0	0.0	66.7	0.0
	6	人数 1	1	0	0	4	0
	7.神奈川県 西湖地域	% 6.3	12.5	43.8	0.0	31.3	6.3
	16	人数 1	2	7	0	5	1
	1~7計	% 14.6	23.6	45.1	1.2	14.2	1.2
	246	人数 36	58	111	3	35	3
	8.東京都	% 0.0	30.0	70.0	0.0	0.0	0.0
	10	人数 0	3	7	0	0	0
9.静岡県	% 7.3	30.5	30.5	0.0	26.8	4.9	
82	人数 6	25	25	0	22	4	
10.山梨県	% 0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
6	人数 0	0	6	0	0	0	
勤務先の種類	幼稚園	% 12.2	25.6	42.3	1.0	17.3	1.6
	312	人数 38	80	132	3	54	5
	保育所	% 33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	人数 1	2	0	0	0	0
	児童養護施設	% 10.0	0.0	60.0	0.0	20.0	10.0
10	人数 1	0	6	0	2	1	
障害者施設	% 14.3	14.3	64.3	0.0	0.0	7.1	
14	人数 2	2	9	0	0	1	

Q7. あなたご自身やあなたの勤務先からみて、小田原女子短期大学で設置構想中の「保育学科 通信教育課程」で学んだ学生を採用したいと思いますか。【単一回答】

		1.採用したいと思う	2.採用を検討したいと思う	3.あまり採用したいと思わない	4.採用したくない	1+2	3+4	無回答	
全体		%	11.7	60.9	18.0	2.3	72.6	20.3	7.1
350		人数	41	213	63	8	254	71	25
認知度	学べる内容を詳しく知っている	%	42.9	42.9	0.0	0.0	85.7	0.0	14.3
	7	人数	3	3	0	0	6	0	1
	学べる内容をだいたい知っている	%	14.5	67.9	14.5	1.5	82.4	16.0	1.5
	131	人数	19	89	19	2	108	21	2
	名前だけ知っている	%	8.4	58.7	21.3	1.9	67.1	23.2	9.7
155	人数	13	91	33	3	104	36	15	
今回初めて知った	%	8.2	53.1	20.4	6.1	61.2	26.5	12.2	
49	人数	4	26	10	3	30	13	6	
勤務地の所在地	1.神奈川県 横浜市	%	11.4	60.2	17.0	4.5	71.6	21.6	6.8
	88	人数	10	53	15	4	63	19	6
	2.神奈川県 川崎市	%	10.3	72.4	10.3	3.4	82.8	13.8	3.4
	29	人数	3	21	3	1	24	4	1
	3.神奈川県 横須賀三浦地域	%	14.3	64.3	21.4	0.0	78.6	21.4	0.0
	14	人数	2	9	3	0	11	3	0
	4.神奈川県 県央地域	%	12.5	68.8	16.7	0.0	81.3	16.7	2.1
	48	人数	6	33	8	0	39	8	1
	5.神奈川県 湘南地域	%	8.9	71.1	8.9	2.2	80.0	11.1	8.9
	45	人数	4	32	4	1	36	5	4
	6.神奈川県 足柄上地域	%	50.0	33.3	16.7	0.0	83.3	16.7	0.0
	6	人数	3	2	1	0	5	1	0
	7.神奈川県 西湖地域	%	18.8	62.5	18.8	0.0	81.3	18.8	0.0
	16	人数	3	10	3	0	13	3	0
1~7計	%	12.6	65.0	15.0	2.4	77.6	17.5	4.9	
246	人数	31	160	37	6	191	43	12	
8.東京都	%	20.0	30.0	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	
10	人数	2	3	5	0	5	5	0	
9.静岡県	%	7.3	59.8	20.7	2.4	67.1	23.2	9.8	
82	人数	6	49	17	2	55	19	8	
10.山梨県	%	16.7	16.7	33.3	0.0	33.3	33.3	33.3	
6	人数	1	1	2	0	2	2	2	
勤務先の種類	幼稚園	%	11.9	60.6	17.9	2.6	72.4	20.5	7.1
	312	人数	37	189	56	8	226	64	22
	保育所	%	33.3	66.7	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	3	人数	1	2	0	0	3	0	0
	児童養護施設	%	0.0	60.0	40.0	0.0	60.0	40.0	0.0
10	人数	0	6	4	0	6	4	0	
障害者施設	%	21.4	64.3	14.3	0.0	85.7	14.3	0.0	
14	人数	3	9	2	0	12	2	0	

---

**調査④ 専門学校在校生対象  
集計結果**

---

2013年5月17日

## Q1. あなたは、現在通っている専門学校・専修学校卒業後の進路をどのようにお考えですか。【複数回答】

		1.大学に進学	2.短期大学に進学	3.別の専門学校・専修学校に進学	4.就職	5.その他	無回答
全体 1,779	%	1.3	0.3	3.4	94.7	2.0	0.8
	人数	23	6	60	1,684	36	15

## Q2. あなたは、どのような学びに興味がありますか。【複数回答】

		1.保育学	2.幼児教育学	3.教員養成系	4.教育学	5.生活科学	6.芸術学	7.総合科学	8.社会学	9.社会福祉学	10.心理学	11.文学
全体 1,779	%	85.6	65.7	9.9	14.1	13.4	16.5	5.6	2.2	11.2	49.2	4.4
	人数	1,523	1,169	176	250	239	294	99	40	200	876	79

		12.語学	13.法学	14.経済・経営・商学	15.看護・保健学	16.医療技術	17.医・歯・薬学	18.理学	19.工学	20.農・水産学	21.その他	無回答
全体 1,779	%	8.2	1.7	3.4	10.0	4.6	2.5	1.4	1.1	1.8	2.0	0.6
	人数	146	30	61	178	82	45	25	20	32	36	11

## Q3. あなたは受験する学校を選ぶとき、どのようなことを重視しますか。【複数回答】

		1.通信教育課程がある	2.自宅学習が中心のカリキュラムである	3.働きながら学べるカリキュラムである	4.短期大学である	5.専門教育が充実している	6.所属学部・学科・専攻以外の科目も学べる	7.幅広い教養が身につく	8.社会で役立つ実践的な能力が身につく	9.地域社会と連携した授業がある	10.実習・演習の授業が充実している	11.学外での実習機会が豊富にある
全体 1,779	%	3.1	1.6	8.2	3.3	56.4	8.9	28.9	40.6	6.6	38.2	11.1
	人数	55	28	145	58	1,003	159	514	722	118	680	197

		12.実習先が自宅から近い	13.少人数教育である	14.教員・職員の面倒見がよい	15.学生が直接質問できる時間(オフィスアワー)を設定している	16.短期間で資格免許が取得できる	17.資格免許取得のサポートが充実している	18.就職支援体制が充実している	19.施設・設備が充実している	20.情報通信技術を積極的に活用している	21.キャンパスがきれいな	22.立地や交通の便がよい
全体 1,779	%	12.6	7.3	35.4	2.8	18.9	49.3	37.8	36.3	1.6	42.8	30.6
	人数	224	130	630	49	337	877	672	646	29	761	544

		23.自宅通学できる	24.クラブ・サークル活動が盛んである	25.学費が安い	26.奨学金制度が充実している	27.歴史・伝統がある	28.在学生の感じがよい	29.周囲の評判がよい	30.入試制度が自分に合っている	31.その他	無回答
全体 1,779	%	32.9	10.8	32.2	19.2	2.9	41.9	21.9	13.5	1.1	0.8
	人数	586	193	573	341	52	746	390	241	19	14

## Q4. あなたは、小田原女子短期大学についてどの程度ご存知ですか。【単一回答】

		1.学べる内容を詳しく知っている	2.学べる内容をだいたい知っている	3.名前だけ知っている	4.今回初めて知った	無回答
全体 1,779	%	1.2	2.5	13.4	82.5	0.4
	人数	21	44	238	1,468	8

## Q5. 小田原女子短期大学には以下のような特色があります。

これらの特色のうち、あなたが魅力的だと感じることや興味をひかれるものはどれですか。【複数回答】

		1.湘南の海と小田原の自然に囲まれたキャンパスは、学ぶにはもちろん、キャンパスライフを楽しむのにも理想的な環境です	2.少人数クラス担任制のクラス会を通じて学生・教員間の距離が近い親身な指導を行います	3.ひとりの学生をひとりの教員が2年間担当するチューター制で丁寧な実習を指導します	4.個人指導に力を注ぎ、それぞれの適性を見極めるため就職支援を入学直後の1年次4月からスタートします	5.「職業と社会」という科目の中で、外部講師の話を聞いた、履歴書の書き方や面接のノウハウなどを学んだりしながら確かな就職の準備ができます	6.外部講師を招いたり、芸術鑑賞をしたりして教養を高める「総合文化」という授業があります	7.保育学科(通学課程)では、保育所や幼稚園などでの実習や少人数制での保育演習などで保育技術を学びます	8.保育学科(通学課程)では、子育て支援センターや子育てひろばなどで地域の子どもたちと実際にふれあいます。	9.保育学科(通学課程)では、豊かな人間性と表現力を身につけた保育者を育成します	10.食物栄養学科では、生活全般にわたる広い視野と専門知識を持った栄養士、栄養教諭、健康管理士一般指導員を養成します	11.食物栄養学科では、2年間の基礎学習と豊富な実習を通して食生活・健康のスペシャリストを育成します	無回答
全体 1,779	%	49.1	42.5	30.8	22.3	19.1	15.7	44.5	42.1	27.7	12.8	13.7	4.8
	人数	874	756	548	397	339	280	791	749	493	227	244	86

Q6. 小田原女子短期大学で設置構想中の「保育学科 通信教育課程」には以下のような特色があります。  
あなたはこれらの特色にどの程度魅力を感じますか。【単一回答】

A 保育者・幼児教育者としての子ども観や社会観、基礎的な知識・技術を段階的に身につけることができます

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	43.7	47.8	4.1	0.8	91.5	4.9	3.5
1,779	人数	777	851	73	15	1,628	88	63

B 幅広い教養と確かな専門知識・技術を身につけ、自らの専門性を通して社会に貢献できる人材を育成します

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	43.0	48.7	6.1	0.7	91.7	6.8	1.5
1,779	人数	765	866	109	12	1,631	121	27

C 大学で得た教養と知識・技能をさらに発展させ、自然と社会に対して問題意識を持ち、生涯にわたって学び続けようという意思を持つ人材を育成します

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	28.9	56.2	12.0	1.2	85.2	13.3	1.6
1,779	人数	515	1,000	214	22	1,515	236	28

D 卒業後は、資格を活かして保育所や施設、幼稚園へ就職するだけでなく、託児所や老人ホーム、子ども関連の会社への就職等、幅広い進路が想定されます

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	55.5	36.4	5.5	0.9	91.9	6.4	1.7
1,779	人数	988	647	97	16	1,635	113	31

E 保育学科 通信教育課程を卒業することで、幼稚園教諭二種免許を取得することができます

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	57.3	34.3	5.9	0.8	91.7	6.7	1.6
1,779	人数	1,020	611	105	15	1,631	120	28

F 保育学科 通信教育課程卒業後、専攻科に進むことで、保育士資格も取得することができます

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	49.6	39.8	7.9	1.1	89.4	9.0	1.6
1,779	人数	882	708	140	20	1,590	160	29

G 自宅でのテキスト学習を中心として、幼稚園教諭二種免許や保育士資格の取得をめざすことができます

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	27.5	45.3	22.7	2.8	72.8	25.5	1.7
1,779	人数	489	806	404	49	1,295	453	31

H 「演習及び実験・実習」の授業は、年9回のスクーリング(通学授業)日程を設け、集中講義による授業の形で実施します

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	19.1	52.2	23.9	2.8	71.2	26.7	2.1
1,779	人数	339	928	425	50	1,267	475	37

I 自宅学習を進めるための指導、助言等の補助手段として、Eメール等の情報通信技術を積極的に活用します

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	21.1	49.2	24.1	4.2	70.3	28.2	1.5
1,779	人数	376	875	428	74	1,251	502	26

J 学生が直接担当教員へ質疑応答を行えるよう、週3時間の「オフィスアワー」を設定しています

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体	%	24.6	54.7	17.1	2.1	79.3	19.2	1.5
1,779	人数	437	974	304	38	1,411	342	26

Q7. あなたは、小田原女子短期大学で設置構想中の「保育学科 通信教育課程」について、どの程度興味をもちましたか。【単一回答】

		1.興味をもった	2.やや興味をもった	3.あまり興味をもたなかった	4.興味をもたなかった	1+2	3+4	無回答
全体	%	7.1	50.2	27.3	13.0	57.3	40.3	2.4
1,779	人数	127	893	485	232	1,020	717	42

Q8. あなたは、小田原女子短期大学で設置構想中の「保育学科 通信教育課程」について、どの程度入学してみたいと思いますか。【単一回答】

		1.入学してみたい	2.入学を検討してみたい	3.あまり入学したいと思わない	4.入学したくない	1+2	3+4	無回答
全体	%	5.1	25.1	40.4	26.6	30.1	67.1	2.8
1,779	人数	90	446	719	474	536	1,193	50

Q9. 最後にあなた自身について教えてください。【単一回答】

・性別

		男性	女性	無回答
全体	%	19.7	79.1	1.2
1,779	人数	350	1,407	22

・在籍専門学校

		札幌こども専門学校	仙台こども専門学校	横浜こども専門学校	名古屋こども専門学校	東京こども専門学校
全体	%	21.4	12.7	43.8	5.6	16.5
1,779	人数	380	226	780	99	294

Q6. 小田原女子短期大学で設置構想中の「保育学科 通信教育課程」には以下のような特色があります。  
あなたはこれらの特色にどの程度魅力を感じますか。【単一回答】

E 保育学科 通信教育課程を卒業することで、幼稚園教諭二種免許を取得することができます

			1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4	無回答
全体		%	57.3	34.3	5.9	0.8	91.7	6.7	1.6
		人数	1,020	611	105	15	1,631	120	28
性別	男性	%	52.6	36.3	6.9	2.3	88.9	9.1	2.0
		人数	184	127	24	8	311	32	7
	女性	%	59.1	34.0	5.7	0.5	93.1	6.2	0.7
		人数	832	478	80	7	1,310	87	10
Q2	保育学	%	58.7	33.8	5.3	0.7	92.5	5.9	1.6
		人数	894	515	80	10	1,409	90	24
	幼児教育学	%	60.5	33.1	4.6	0.3	93.6	4.9	1.5
	人数	707	387	54	3	1,094	57	18	
	保育学+幼児教育学	%	58.7	33.7	5.4	0.6	92.4	6.0	1.6
		人数	947	543	87	10	1,490	97	26
認知度	学べる内容を詳しく知っている	%	38.1	57.1	4.8	0.0	95.2	4.8	0.0
		人数	8	12	1	0	20	1	0
	学べる内容をだいたい知っている	%	63.6	31.8	4.5	0.0	95.5	4.5	0.0
		人数	28	14	2	0	42	2	0
	名前だけ知っている	%	58.0	36.6	3.8	0.4	94.5	4.2	1.3
	人数	138	87	9	1	225	10	3	
	今回初めて知った	%	57.4	33.8	6.3	1.0	91.1	7.2	1.6
		人数	842	496	92	14	1,338	106	24
入学希望度	1.入学してみたい	%	75.6	21.1	2.2	0.0	96.7	2.2	1.1
		人数	68	19	2	0	87	2	1
	2.入学を検討してみたい	%	70.9	26.5	2.5	0.0	97.3	2.5	0.2
		人数	316	118	11	0	434	11	1
	3.あまり入学したいと思わない	%	54.8	38.8	5.6	0.3	93.6	5.8	0.6
		人数	394	279	40	2	673	42	4
	4.入学したいと思わない	%	48.3	37.3	10.8	2.5	85.7	13.3	1.1
		人数	229	177	51	12	406	63	5
	1+2	%	71.6	25.6	2.4	0.0	97.2	2.4	0.4
		人数	384	137	13	0	521	13	2
	3+4	%	52.2	38.2	7.6	1.2	90.4	8.8	0.8
		人数	623	456	91	14	1,079	105	9
在籍地別	札幌キャンパス	%	62.6	28.4	6.8	0.8	91.1	7.6	1.3
		人数	238	108	26	3	346	29	5
	池袋キャンパス	%	62.4	31.9	4.4	0.9	94.2	5.3	0.4
		人数	141	72	10	2	213	12	1
	大阪キャンパス	%	51.2	39.1	6.4	1.2	90.3	7.6	2.2
		人数	399	305	50	9	704	59	17
奈良本校	%	70.7	24.2	4.0	0.0	94.9	4.0	1.0	
	人数	70	24	4	0	94	4	1	
横浜キャンパス	%	58.5	34.7	5.1	0.3	93.2	5.4	1.4	
	人数	172	102	15	1	274	16	4	



Q8. あなたは、小田原女子短期大学で設置構想中の「保育学科 通信教育課程」について、どの程度入学してみたいと思いますか。  
【単一回答】

			1.入学してみたい	2.入学を検討してみたい	3.あまり入学したいと思わない	4.入学したくない	1+2	3+4	無回答
全体		%	5.1	25.1	40.4	26.6	30.1	67.1	2.8
1,779		人数	90	446	719	474	536	1,193	50
性別	男性	%	6.9	20.0	31.1	39.7	26.9	70.9	2.3
	350	人数	24	70	109	139	94	248	8
	女性	%	4.7	26.7	43.0	23.6	31.3	66.6	2.1
	1,407	人数	66	375	605	332	441	937	29
Q2	保育学	%	5.3	25.7	41.4	25.2	30.9	66.6	2.4
	1,523	人数	80	391	631	384	471	1,015	37
	幼児教育学	%	4.7	28.1	41.5	23.1	32.8	64.6	2.7
1,169	人数	55	328	485	270	383	755	31	
保育学+幼児教育学	%	5.2	25.9	40.9	25.5	31.1	66.3	2.6	
1,613	人数	84	417	659	411	501	1,070	42	
認知度	学べる内容を詳しく知っている	%	33.3	19.0	14.3	33.3	52.4	47.6	0.0
	21	人数	7	4	3	7	11	10	0
	学べる内容をだいたい知っている	%	9.1	22.7	34.1	34.1	31.8	68.2	0.0
	44	人数	4	10	15	15	14	30	0
	名前だけ知っている	%	5.9	31.9	40.8	18.1	37.8	58.8	3.4
238	人数	14	76	97	43	90	140	8	
今回初めて知った	%	4.4	24.2	40.9	27.7	28.6	68.5	2.9	
1,468	人数	65	355	600	406	420	1,006	42	
在籍地別	札幌キャンパス	%	4.7	27.1	44.5	22.9	31.8	67.4	0.8
	380	人数	18	103	169	87	121	256	3
	池袋キャンパス	%	8.8	23.9	40.3	26.1	32.7	66.4	0.9
	226	人数	20	54	91	59	74	150	2
	大阪キャンパス	%	5.0	21.2	39.7	29.5	26.2	69.2	4.6
	780	人数	39	165	310	230	204	540	36
奈良本校	%	7.1	29.3	34.3	27.3	36.4	61.6	2.0	
99	人数	7	29	34	27	36	61	2	
横浜キャンパス	%	2.0	32.3	39.1	24.1	34.4	63.3	2.4	
294	人数	6	95	115	71	101	186	7	

---

**調査⑤ 本学HP来訪者対象  
集計結果**

---

2013年5月17日



## Q1. あなたが、今後進学してみたいと思う学校の種類を教えてください。【複数回答】

		1.大学院	2.大学	3.短期大学	4.専門学校・専修学校	5.その他
全体 543	%	32.6	47.1	12.9	37.6	5.3
	人数	177	256	70	204	29

## Q2. あなたは、どのような学びに興味がありますか。【複数回答】

		1.保育学	2.幼児教育学	3.教員養成系	4.教育学	5.生活科学	6.芸術学	7.総合科学	8.社会学	9.社会福祉学	10.心理学	11.文学
全体 543	%	35.9	31.1	28.2	39.4	16.8	21.7	9.6	8.8	11.8	45.9	9.9
	人数	195	169	153	214	91	118	52	48	64	249	54

		12.語学	13.法学	14.経済・経営・商学	15.看護・保健学	16.医療技術	17.医・歯・薬学	18.理学	19.工学	20.農・水産学	21.その他
全体 543	%	19.2	8.7	18.8	12.3	10.5	9.6	1.7	1.1	3.7	2.8
	人数	104	47	102	67	57	52	9	6	20	15

## Q3. あなたは受験する学校を選ぶとき、どのようなことを重視しますか。【複数回答】

		1.通信教育課程がある	2.自宅学習が中心のカリキュラムである	3.働きながら学べるカリキュラムである	4.短期大学である	5.専門教育が充実している	6.所属学部・学科・専攻以外の科目も学べる	7.幅広い教養が身につく	8.社会で役立つ実践的な能力が身につく	9.地域社会と連携した授業が行っている	10.実習・演習の授業が充実している	11.学外での実習機会が豊富にある
全体 543	%	26.2	12.3	54.1	3.9	44.2	13.3	28.0	44.2	15.8	32.0	13.6
	人数	142	67	294	21	240	72	152	240	86	174	74

		12.実習先が自宅から近い	13.少人数教育である	14.教員・職員の面が見えやすい	15.学生が直接質問できる時間(オフィスアワー)を設定している	16.短期間で資格免許が取得できる	17.資格免許取得のサポートが充実している	18.就職支援体制が充実している	19.施設・設備が充実している	20.情報通信技術を積極的に活用している	21.キャンパスがきれい	22.立地や交通の便が良い
全体 543	%	11.4	15.5	37.6	6.1	23.6	39.2	29.1	33.9	5.7	39.2	45.5
	人数	62	84	204	33	128	213	158	184	31	213	247

		23.自宅通学できる	24.クラブ・サークル活動が盛んである	25.学費が安い	26.奨学金制度が充実している	27.歴史・伝統がある	28.在学生の感じがよい	29.周囲の評判がよい	30.入試制度が自分に合っている	31.その他
全体 543	%	13.6	14.5	48.6	16.4	8.5	28.5	33.5	7.4	0.9
	人数	74	79	264	89	46	155	182	40	5

## Q4. あなたは、小田原女子短期大学についてどの程度ご存知ですか。【単一回答】

		1.学べる内容を詳しく知っている	2.学べる内容をだいたい知っている	3.名前だけ知っている	4.今回初めて知った
全体 543	%	2.6	38.5	41.8	17.1
	人数	14	209	227	93

## Q5. 小田原女子短期大学には以下のような特色があります。

これらの特色のうち、あなたが魅力的だと感じることや興味をひかれるものはどれですか。【複数回答】

		1.湘南の海と小田原の自然に囲まれたキャンパスは、学ぶにはもちろん、キャンパスライフを楽しむのにも理想的な環境です	2.少人数クラス担任制のクラス会を通じて学生・教員間の距離が近い親身な指導を行います	3.ひとりの学生をひとりの教員が2年間担当するチューター制で丁寧に実習を指導します	4.個人指導に力を注ぎ、それぞれの適性を見極めるため就職支援を入学直後の1年次4月からスタートします	5.「職業と社会」という科目の中で、外部講師の話を聞いた、履歴書の書き方や面接のノウハウなどを学んだりしながら確かな就職の準備ができます	6.外部講師を招いたり、芸術鑑賞をしたりして教養を高める「総合文化」という授業があります	7.保育学科(通学課程)では、保育所や幼稚園などでの実習や少人数制での保育演習などで保育技術を学びます	8.保育学科(通学課程)では、子育て支援センターや子育てひろばなどで地域の子どもたちと実際にふれあいます。	9.保育学科(通学課程)では、豊かな人間性と表現力を身につけた保育者を育成します	10.食物栄養学科では、生活全般にわたる広い視野と専門知識を持った栄養士、栄養教諭、健康管理士一般指導員を養成します	11.食物栄養学科では、2年間の基礎学習と豊富な実習を通して食生活・健康のスペシャリストを育成します
全体 543	%	57.1	55.1	35.9	33.9	36.5	29.1	34.4	35.4	21.2	18.6	19.0
	人数	310	299	195	184	198	158	187	192	115	101	103

Q6. 小田原女子短期大学で設置構想中の「保育学科 通信教育課程」には以下のような特色があります。  
あなたはこれらの特色にどの程度魅力を感じますか。【単一回答】

A 保育者・幼児教育者としての子ども観や社会観、基礎的な知識・技術を段階的に身につけることができます

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4
全 体	%	38.5	55.2	5.5	0.7	93.7	6.3
	人数	209	300	30	4	509	34

B 幅広い教養と確かな専門知識・技術を身につけ、自らの専門性を通して社会に貢献できる人材を育成します

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4
全 体	%	47.0	45.7	7.2	0.2	92.6	7.4
	人数	255	248	39	1	503	40

C 大学で得た教養と知識・技能をさらに発展させ、自然と社会に対して問題意識を持ち、生涯にわたって学び続けようという意思を持つ人材を育成します

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4
全 体	%	41.6	48.3	9.4	0.7	89.9	10.1
	人数	226	262	51	4	488	55

D 卒業後は、資格を活かして保育所や施設、幼稚園へ就職するだけでなく、託児所や老人ホーム、子ども関連の会社への就職等、幅広い進路が想定されます

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4
全 体	%	54.5	39.4	5.5	0.6	93.9	6.1
	人数	296	214	30	3	510	33

E 保育学科 通信教育課程を卒業することで、幼稚園教諭二種免許を取得することができます

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4
全 体	%	52.5	39.6	7.0	0.9	92.1	7.9
	人数	285	215	38	5	500	43

F 保育学科 通信教育課程卒業後、専攻科に進むことで、保育士資格も取得することができます

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4
全 体	%	51.9	39.4	7.9	0.7	91.3	8.7
	人数	282	214	43	4	496	47

G 自宅でのテキスト学習を中心として、幼稚園教諭二種免許や保育士資格の取得をめざすことができます

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4
全 体	%	45.7	38.7	14.4	1.3	84.3	15.7
	人数	248	210	78	7	458	85

H 「演習及び実験・実習」の授業は、年9回のスクーリング(通学授業)日程を設け、集中講義による授業の形で実施します

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4
全 体	%	28.0	53.4	17.5	1.1	81.4	18.6
	人数	152	290	95	6	442	101

I 自宅学習を進めるための指導、助言等の補助手段として、Eメール等の情報通信技術を積極的に活用します

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4
全 体	%	33.7	49.9	15.3	1.1	83.6	16.4
	人数	183	271	83	6	454	89

J 学生が直接担当教員へ質疑応答を行えるよう、週3時間の「オフィスアワー」を設定しています

		1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.まったく魅力を感じない	1+2	3+4
全 体	%	42.0	48.8	8.3	0.9	90.8	9.2
	人数	228	265	45	5	493	50

Q7. あなたは、小田原女子短期大学で設置構想中の「保育学科 通信教育課程」について、どの程度興味をもちましたか。【単一回答】

		1.興味をもった	2.やや興味をもった	3.あまり興味をもたなかった	4.興味をもたなかった	1+2	3+4
全体	%	33.7	54.7	10.3	1.3	88.4	11.6
543	人数	183	297	56	7	480	63

Q8. あなたは、小田原女子短期大学で設置構想中の「保育学科 通信教育課程」について、どの程度入学してみたいと思いますか。【単一回答】

		1.入学してみたい	2.入学を検討してみたい	3.あまり入学したいと思わない	4.入学したいと思わない	1+2	3+4
全体	%	12.5	52.5	27.8	7.2	65.0	35.0
543	人数	68	285	151	39	353	190

Q9. 最後にあなた自身について、差し支えない範囲で教えてください。【単一回答】

・性別

		男性	女性
全体	%	36.1	63.9
543	人数	196	347

・年齢

		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
全体	%	0.7	54.1	35.9	7.7	1.3	0.2	0.0
543	人数	4	294	195	42	7	1	0

・現在の職業

		公務員	経営者	役員	会社員	自営業	自由業	専業主婦	パート・アルバイト	学生	その他
全体	%	0.2	0.0	0.0	91.5	0.4	0.0	0.2	1.7	0.9	5.2
543	人数	1	0	0	497	2	0	1	9	5	28

・最終学歴

		中学校卒業	高校卒業	専門学校卒業	短期大学卒業	大学卒業	大学院卒業	その他
全体	%	0.4	6.1	21.4	7.6	62.8	1.3	0.6
543	人数	2	33	116	41	341	7	3

## 平成20～24年度 通信制教育系学部 在籍者状況

日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センター資料(学校法人基礎調査よりデータ抽出)

		対象校数	所在地内訳					定員規模内訳						収容定員計	在籍者数計	
			北関東	南関東	近畿	中国	九州	1,000未満	1,000以上	2,000以上	3,000以上	4,000以上	5,000以上		うち学費納入者数計	
H20年度	大学	8	1	3	3	1	0	2	2	1	0	2	1	19,660	20,928	17,570
	短大	6	1	1	2	1	1	1	2	2	0	0	1	12,700	13,284	11,477
H21年度	大学	8	1	3	3	1	0	2	1	2	0	2	1	22,190	21,592	18,077
	短大	6	1	1	2	1	1	1	2	1	1	0	1	14,300	11,813	9,625
H22年度	大学	9	1	4	3	1	0	0	1	3	2	2	1	28,180	22,548	19,508
	短大	5	1	1	2	0	1	0	2	2	0	0	1	14,000	10,171	8,462
H23年度	大学	9	1	4	3	1	0	0	2	2	0	4	1	30,210	21,572	18,419
	短大	5	1	1	2	0	1	0	2	2	0	0	1	14,100	10,213	8,142
H24年度	大学	9	1	4	3	1	0	0	1	2	1	3	2	34,680	21,544	18,769
	短大	5	1	1	2	0	1	0	2	2	0	0	1	14,600	11,917	9,251

注記1 通信教育部は基礎調査区分【120】で調査してるが、この区分では収容定員、在籍者数、うち学費納入者を調査しており定員や志願者等のデータが存在しないため、今回はこの3要素を集計。

注記2 通信教育課程を設置する大学・短期大学のうち、教育学分野を設置する大学・短期大学の通信教育課程のデータを抽出を依頼。

## カリキュラムマップ

## 保育学科通信教育課程

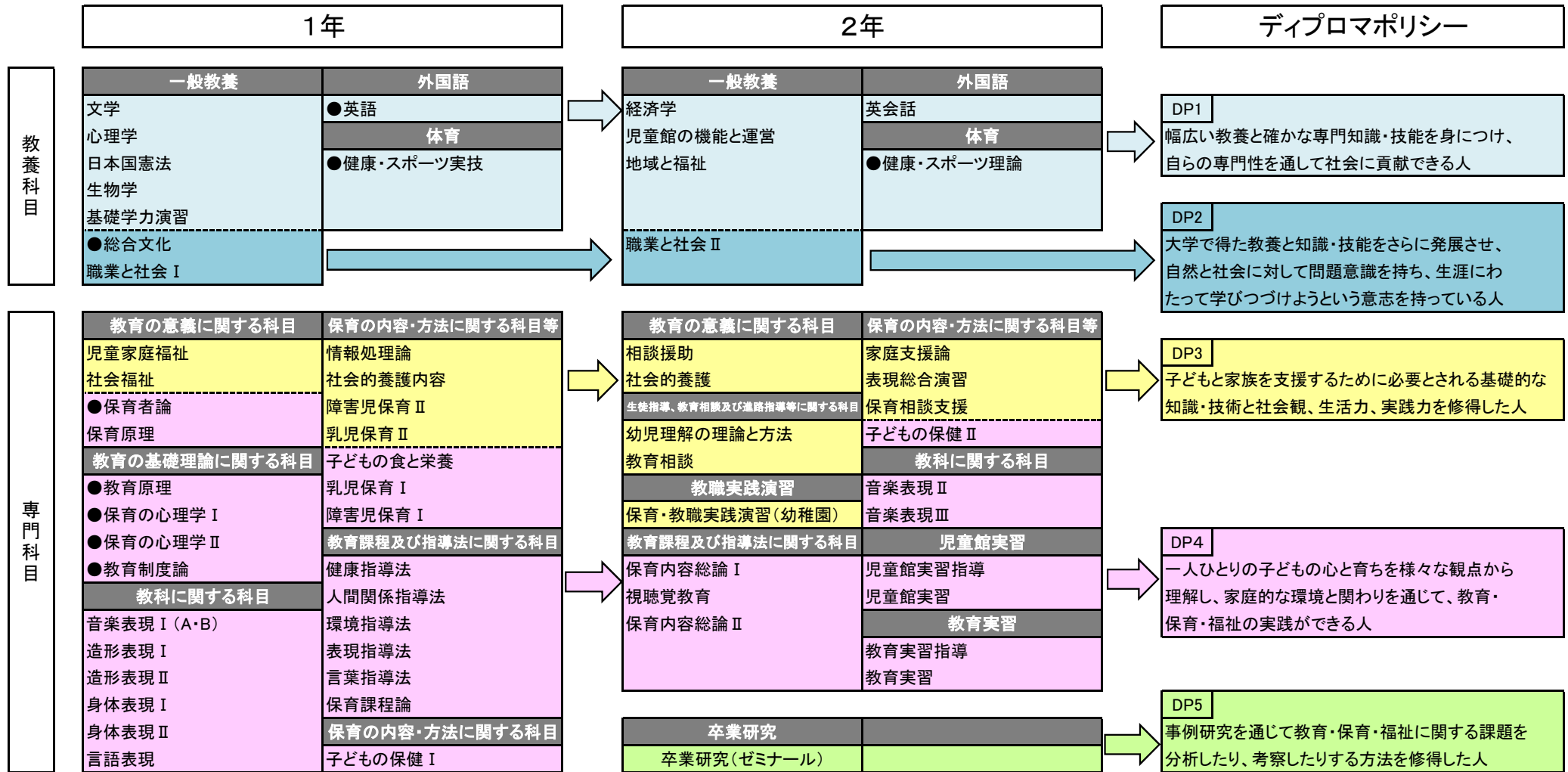
## デュプロマポリシー(DP)

- 幅広い教養と確かな専門知識・技能を身につけ、自らの専門性を通して社会に貢献できる人
- 大学で得た教養と知識・技能をさらに発展させ、自然と社会に対して問題意識を持ち、生涯にわたって学びつづけようという意志を持っている人
- 子どもと家族を支援するために必要とされる基礎的な知識・技術と社会観、生活力、実践力を修得した人
- 一人ひとりの子どもの心と育ちを様々な観点から理解し、家庭的な環境と関わりを通じて、教育・保育・福祉の実践ができる人
- 事例研究を通じて教育・保育・福祉に関する課題を分析したり、考察したりする方法を修得した人

	1年		2年	
	科目名称	DP	科目名称	DP
教育の意義に関する科目	●保育者論 児童家庭福祉 社会福祉 保育原理	4 3 3 4	相談援助 社会的養護	3 3
教育の基礎理論に関する科目	●教育原理 ●保育の心理学Ⅰ ●保育の心理学Ⅱ ●教育制度論	4 4 4 4		
教育課程及び指導法に関する科目	健康指導法 人間関係指導法 環境指導法 表現指導法 言葉指導法 保育課程論	4 4 4 4 4 4	保育内容総論Ⅰ 視聴覚教育 保育内容総論Ⅱ	4 4 4
教科に関する科目	音楽表現Ⅰ(A・B) 造形表現Ⅰ 造形表現Ⅱ 身体表現Ⅰ 身体表現Ⅱ 言語表現	4 4 4 4 4 4	音楽表現Ⅱ 音楽表現Ⅲ	4 4
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目			幼児理解の理論と方法 教育相談	3 3
教育実習			教育実習指導 教育実習	4 4
児童館実習			児童館実習指導 児童館実習	4 4
教職実践演習			保育・教職実践演習(幼稚園)	3
情報機器の操作、 保育の内容・方法に関する科目など	子どもの食と栄養 情報処理論 乳児保育Ⅰ 障害児保育Ⅰ 社会的養護内容 障害児保育Ⅱ 乳児保育Ⅱ 子どもの保健Ⅰ	4 3 4 4 3 3 3 4	家庭支援論 表現総合演習 子どもの保健Ⅱ 保育相談支援	3 3 4 3
卒業研究			卒業研究(ゼミナール)	5
教養科目	文学 心理学 日本国憲法 生物学 基礎学力演習 職業と社会Ⅰ ●英語 ●健康・スポーツ実技 ●総合文化	1 1 1 1 1 2 1 1 2	児童館の機能と運営 地域と福祉 職業と社会Ⅱ 英会話 ●健康・スポーツ理論 経済学	1 1 2 1 1 1

※「●」印は卒業必修科目

# カリキュラム（概念図）



※「●」印は卒業必修科目



## カリキュラムマップ(幼稚園教諭二種免許取得モデル)

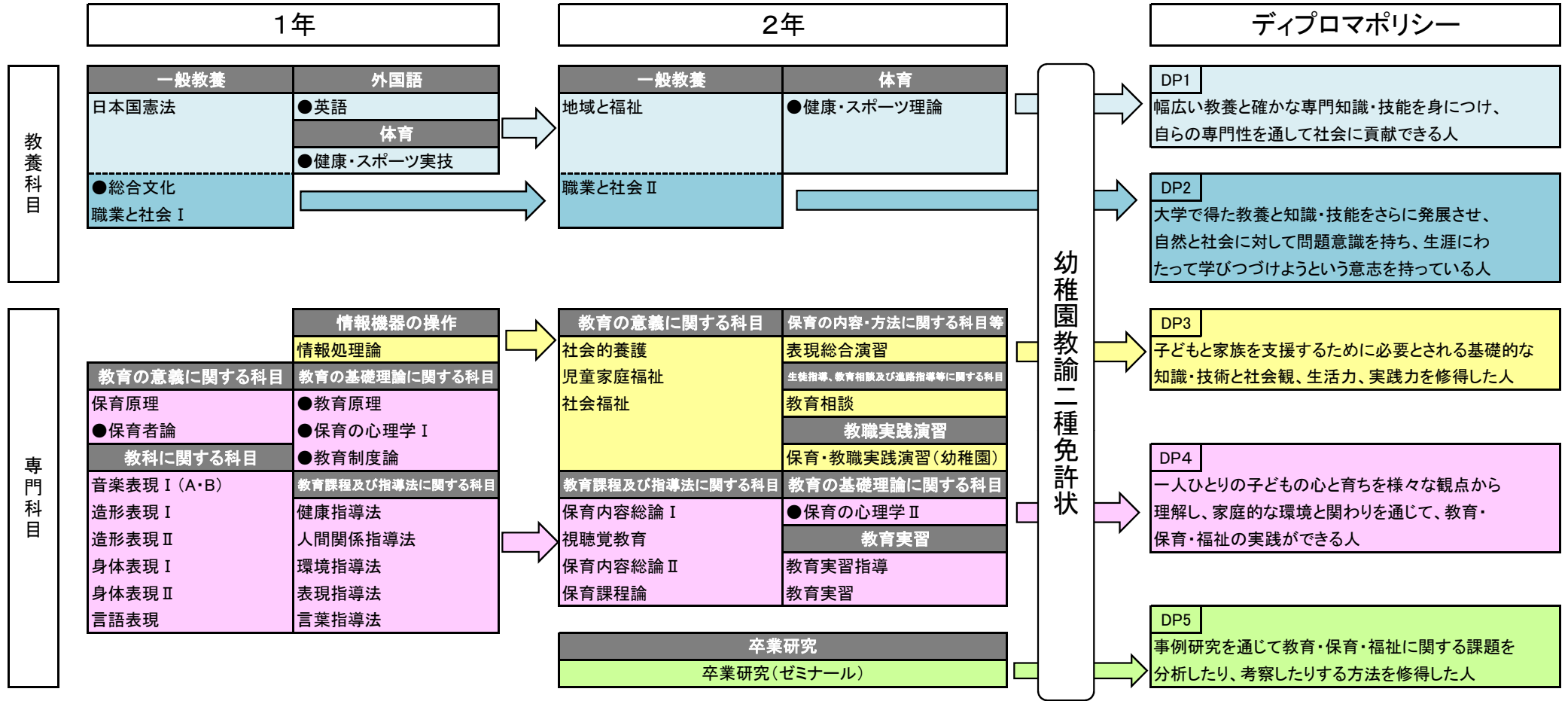
### 保育学科通信教育課程

デュプロマポリシー(DP)	
1. 幅広い教養と確かな専門知識・技能を身につけ、自らの専門性を通して社会に貢献できる人	
2. 大学で得た教養と知識・技能をさらに発展させ、自然と社会に対して問題意識を持ち、生涯にわたって学びつづけようという意志を持っている人	
3. 子どもと家族を支援するために必要とされる基礎的な知識・技術と社会観、生活力、実践力を修得した人	
4. 一人ひとりの子どもの心と育ちを様々な観点から理解し、家庭的な環境と関わりを通じて、教育・保育・福祉の実践ができる人	
5. 事例研究を通じて教育・保育・福祉に関する課題を分析したり、考察したりする方法を修得した人	

	1年		2年	
	科目名称	DP	科目名称	DP
教育の意義に関する科目	保育原理 ●保育者論	4 4	社会的養護 児童家庭福祉 社会福祉	3 3 3
教育の基礎理論に関する科目	●教育原理 ●保育の心理学Ⅰ ●教育制度論	4 4 4	●保育の心理学Ⅱ	4
教育課程及び指導法に関する科目	健康指導法 人間関係指導法 環境指導法 表現指導法 言葉指導法	4 4 4 4 4	保育内容総論Ⅰ 視聴覚教育 保育内容総論Ⅱ 保育課程論	4 4 4 4
教科に関する科目	音楽表現Ⅰ(A・B) 造形表現Ⅰ 造形表現Ⅱ 身体表現Ⅰ 身体表現Ⅱ 言語表現	4 4 4 4 4 4		
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目			幼児理解の理論と方法 教育相談	3 3
教育実習			教育実習指導 教育実習	4 4
教職実践演習			保育・教職実践演習(幼稚園)	3
情報機器の操作、保育の内容・方法に関する科目など	情報処理論	3	表現総合演習	3
卒業研究			卒業研究(ゼミナール)	5
教養科目	日本国憲法 ●総合文化 職業と社会Ⅰ ●英語 ●健康・スポーツ実技	1 2 2 1 1	地域と福祉 職業と社会Ⅱ ●健康・スポーツ理論	1 2 1

※「●」印は卒業必修科目

# カリキュラム概念図（幼稚園教諭二種免許取得モデル）



※「●」印は卒業必修科目

## 学校法人小田原女子短期大学職員定年規則

制定 昭和 56 年 6 月 24 日

改定 平成 13 年 3 月 1 日

改定 平成 16 年 12 月 21 日

改定 平成 19 年 4 月 1 日

改定 平成 20 年 4 月 1 日

### (目 的)

第 1 条 職員の定年は、勤務規程第 11 条第 2 項に基づき、この規則の定めるところによる。

### (対 象 者)

第 2 条 この規則の適用対象者は、勤務規程第 2 条第 1 項に定める職員とする。但し、学長は対象外とする。

### (定 年)

第 3 条 定年は、次のとおりとする。

- |                         |        |
|-------------------------|--------|
| (1) 教員である職員（教授、准教授及び助教） | 満 65 歳 |
| (2) その他の職員              | 満 63 歳 |

### (退職時期)

第 4 条 定年による退職期日は、定年に達した当該年度末（3 月 31 日）とする。

### (そ の 他)

第 5 条 この規則に定めのない事項については、理事会で決定する。

### (改 廃)

第 6 条 この規則の改廃は、理事会の議を経て理事長がこれを行う。

### 附 則

この規則は、昭和 56 年 7 月 1 日から施行する。

この規則の改定は、平成 13 年 3 月 1 日から施行する。

この規則の改定は、平成 16 年 12 月 21 日から施行する。

この規則の改定は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

この規則の改定は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

保育学科 通信教育課程  
開講予定表

## I. テキスト履修科目

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	
教養科目	文学	1通		2		○			
	心理学	1通		2		○			
	経済学	2通		2		○			
	日本国憲法	1通		2		○			
	生物学	1通		2		○			
	総合文化	1通	2			○			
	児童館の機能と運営	2通		2		○			
	地域と福祉	2通		2		○			
	職業と社会 I	1通		1		○			
	職業と社会 II	2通		1		○			
	外国語	英語	1通	2			○		
体育	健康・スポーツ理論	2通	1			○			
教科に関する科目	子どもの保健 I	1通		4		○			
	保育原理	1通		2		○			
	社会的養護	2通		2		○			
	社会福祉	1通		2		○			
	児童家庭福祉	1通		2		○			
	家庭支援論	2通		2		○			
	音楽表現 II	2通		2			○		
	教職に関する科目	保育者論	1通	2			○		
		教育原理	1通	1			○		
		教育制度論	1通	1			○		
		保育の心理学 I	1通	2			○		
		保育課程論	2通		2		○		
		保育内容総論 II	2通		2			○	
		健康指導法	1通		2		○		
		表現指導法	1通		2			○	
		人間関係指導法	1通		2			○	
		視聴覚教育	1通		2			○	
		幼児理解の理論と方法	2通		1		○		
		教育相談	2通		1		○		
		乳児保育 I	1通		1			○	
障害児保育 I	1通		1			○			
合計		—	11	48	0	—			

保育学科 通信教育課程  
開講予定表

II. スクーリング履修科目

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	
教養科目	外国語	英会話	2通		1			○	
	体育	健康・スポーツ実技	1通	1				○	
教科に関する科目	子どもの保健Ⅱ	2通		1				○	
	相談援助	2通		1				○	
	卒業研究（ゼミナール）	2通		1				○	
	音楽表現Ⅰ（A・B）	1通		2				○	
	音楽表現Ⅲ	2通		1				○	
	造形表現Ⅰ	1通		1				○	
	造形表現Ⅱ	1通		1				○	
	身体表現Ⅰ	1通		1				○	
	身体表現Ⅱ	1通		1				○	
	言語表現	1通		1				○	
	教職に関する科目	保育の心理学Ⅱ	1通	1					○
		保育内容総論Ⅰ	2通		1				○
		表現総合演習	2通		1				○
		環境指導法	1通		1				○
		言葉指導法	1通		1				○
	教職に関する科目	乳児保育Ⅱ	1通		1				○
		障害児保育Ⅱ	1通		1				○
		社会的養護内容	1通		1				○
		保育相談支援	2通		1				○
児童館実習指導		2通		1				○	
児童館実習		2通		2				○	
教育実習指導		2通		1				○	
教育実習	2通		4				○		
合計		—	2	28	0	—			

保育学科 通信教育課程  
開講予定表

Ⅲ. テキスト履修・スクーリング履修併用科目

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習
教養科目	基礎学力演習	1通		2			○	
専門科目	子どもの食と栄養	1通		2			○	
	情報処理論	1通		2			○	
	教職に関する科目	保育・教職実践演習（幼稚園）	2後		2		○	
合計（60科目）		—	0	8	0	—		

## 保育学科 通信教育課程

## 履修モデル

## I. 1年次入学

## a) 幼稚園教諭二種免許取得

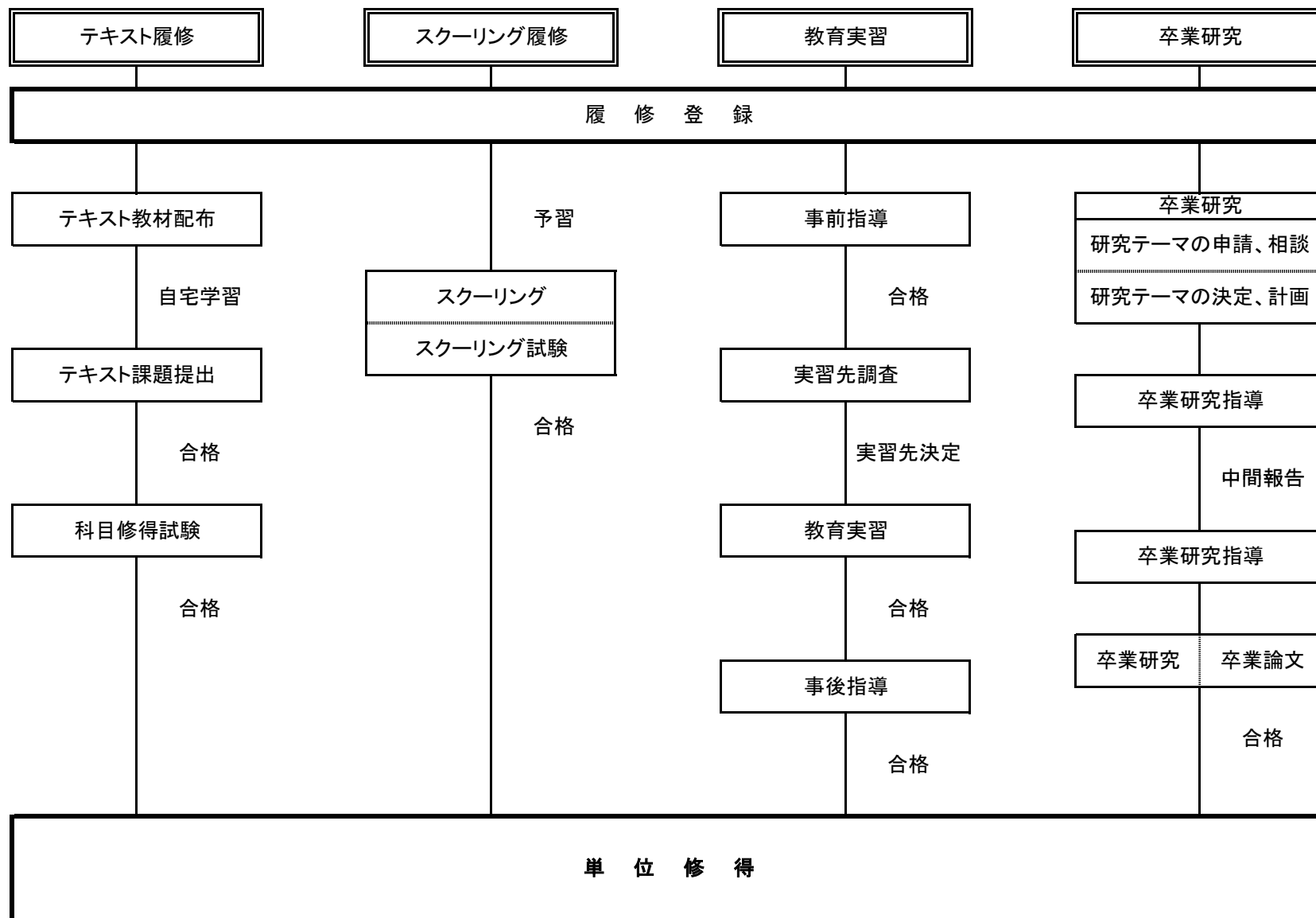
学年	テキスト 履修科目	スクーリング 履修科目	テキスト・スクーリング 併用科目
1	日本国憲法 <b>総合文化</b> 職業と社会 I <b>英語</b> 保育原理 <b>保育者論</b> <b>教育原理</b> <b>教育制度論</b> <b>保育の心理学 I</b> 健康指導法 表現指導法 人間関係指導法	<b>健康・スポーツ実技</b> 音楽表現 I A 音楽表現 I B 造形表現 I 造形表現 II 身体表現 I 身体表現 II 言語表現 環境指導法 言葉指導法	情報処理論
2	地域と福祉 職業と社会 II <b>健康・スポーツ理論</b> 社会福祉 児童家庭福祉 視聴覚教育 社会的養護 保育課程論 保育内容総論 II 幼児理解の理論と方法 教育相談	卒業研究 保育内容総論 I <b>保育の心理学 II</b> 表現総合演習 教育実習指導 教育実習	保育・教職実践演習（幼稚園）

b) 卒業資格

	テキスト履修科目	スクーリング履修科目	テキスト・スクーリング併用科目
1	文学 心理学 <b>総合文化</b> 職業と社会Ⅰ <b>英語</b> 保育原理 <b>保育者論</b> <b>教育原理</b> <b>教育制度論</b> <b>保育の心理学Ⅰ</b> 健康指導法 表現指導法 障害児保育Ⅰ	<b>健康・スポーツ実技</b> 音楽表現ⅠA 音楽表現ⅠB 造形表現Ⅰ 身体表現Ⅰ 言語表現 環境指導法	情報処理論 子どもの食と栄養
2	<b>健康・スポーツ理論</b> 音楽表現Ⅱ 地域と福祉 職業と社会Ⅱ 人間関係指導法 社会福祉 児童家庭福祉 家庭支援論 社会的養護 保育課程論 保育内容総論Ⅱ 保育課程論	英会話 保育内容総論Ⅰ 卒業研究 言葉指導法 <b>保育の心理学Ⅱ</b> 表現総合演習 障害児保育Ⅱ	



<学習の流れ>



## 小田原女子短期大学 学術雑誌一覧

No.	雑誌名	No.	雑誌名
1	日本食品科学工学会誌	51	体育の科学
2	日本調理科学会誌	52	発達障害研究
3	栄養学レビュー	53	福祉 月刊
4	栄養学雑誌	54	保育界
5	日本栄養・食糧学会誌	55	保育通信
6	臨床栄養	56	保健の科学
7	日本家庭科教育学会誌	57	母子保健情報
8	食品工業	58	里親と子ども
9	ヘルスケア・レストラン	59	短期大学図書館研究
10	栄養教諭 季刊	60	大学図書館研究
11	食生活	61	図書館雑誌
12	食生活研究	62	現代の図書館
13	食品衛生研究	63	国民生活研究
14	JJNSスペシャル		
15	日本栄養士会雑誌(旧栄養日本)		
16	Vesta ヴェスタ		
17	栄養と料理		
18	化学と生物		
19	学校給食		
20	学校の食事		
21	食と健康(旧「食品衛生」)		
22	日本家政学会誌		
23	HACCP 月刊		
24	Child development		
25	初等教育資料		
26	心理学研究		
27	教育		
28	児童青年精神医学とその近接領域		
29	子どもと福祉		
30	日本児童文学		
31	幼児の教育		
32	教育音楽		
33	厚生指標		
34	子どもの文化		
35	教育と医学		
36	児童養護 季刊		
37	教育心理学研究		
38	からだの科学		
39	児童心理		
40	小児の精神と神経		
41	精神医学		
42	発達		
43	保育の実践と研究		
44	社会福祉研究		
45	からだの科学 増刊		
46	こころの科学		
47	心理学評論		
48	世界の児童と母性		
49	ソーシャルワーク研究		
50	そだちの科学		

計 63点

## 幼稚園教諭二種免許取得のための授業科目

に定める科目	免許法施行規則に定める科目及び単位数		左記に対応する開設授業科目	単位数	
	科目	単位数		授業科目	必修
施行規則第六十六条の六に定める科目	日本国憲法	2	日本国憲法	2	
	体育	2	健康・スポーツ理論	1	
			健康・スポーツ実技	1	
	外国語コミュニケーション	2	英語	2	
			英会話		2
情報機器の操作	2	情報処理論	2		
		合計10単位	8	2	
教科に関する科目	免許法施行規則に定める科目		左記に対応する開設授業科目	単位数	
	国語、算数、生活、音楽、図画工作及び、体育の教科に関する科目等		言語表現	1	
			音楽表現ⅠA	1	
			音楽表現ⅠB	1	
			音楽表現Ⅱ		2
			音楽表現Ⅲ		1
			造形表現Ⅰ	1	
			造形表現Ⅱ	1	
			身体表現Ⅰ	1	
	身体表現Ⅱ	1			
4単位		合計7単位以上	7	3	
教職に関する科目	免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目	単位数	
	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択
	教職の意義等に関する科目	2	保育者論	2	
	教育の基礎理論に関する科目	4	教育原理	1	
			保育の心理学Ⅰ	2	
			保育の心理学Ⅱ	1	
			教育制度論	1	
	教育課程及び指導法に関する科目	12	保育課程論	2	
			保育内容総論Ⅰ	1	
			保育内容総論Ⅱ	2	
			環境指導法	1	
			健康指導法	2	
			言葉指導法	1	
			表現指導法	2	
人間関係指導法			2		
表現総合演習			1		
視聴覚教育	2				
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	2	幼児理解の理論と方法	1		
		教育相談	1		
教育実習	5	教育実習	4		
		教育実習指導	1		
教職実践演習	2	保育・教職実践演習(幼稚園)	2		
27単位		合計32単位以上	32	0	

## 実習受入先一覧

学校名	学校法人清明学園 清明幼稚園(北海道札幌市東区北10条東14丁目2番8号)	学級数:12	児童数:320
教員数	35名		
学校名	学校法人東学園 美晴幼稚園(北海道札幌市豊平区月寒西2条7丁目2-16)	学級数:3	児童数:105
教員数	7名		
学校名	学校法人札幌豊学園 札幌ゆたか幼稚園(北海道札幌市豊平区豊平1条4丁目2番19号)	学級数:8	児童数:240
教員数	20名		
学校名	学校法人六郷学園 ドリーム幼稚園(宮城県仙台市若林区飯田字築道11)	学級数:9	児童数:20
教員数	20名		
学校名	学校法人福田学園 ふくだまち幼稚園(宮城県仙台市宮城野区福田町2丁目26番1号)	学級数:10	児童数:194
教員数	13名		
学校名	塩釜ひまわり幼稚園(宮城県塩釜市宇伊保石234)	学級数:8	児童数:210
教員数	15名		
学校名	学校法人みどり幼稚園(福島県相馬市中村字大手先39)	学級数:9	児童数:280
教員数	14名		
学校名	学校法人朝霞たちばな幼稚園(埼玉県朝霞市宮戸3丁目7番1号)	学級数:12	児童数:360
教員数	20名		
学校名	認定こども園 横川幼稚園(東京都八王子市横川町209)	学級数:7	児童数:169
教員数	14名		
学校名	板橋向原幼稚園(東京都板橋区向原2丁目31番3号)	学級数:14	児童数:480
教員数	35名		
学校名	石川幼稚園(東京都北区西ヶ原1丁目48番16号)	学級数:12	児童数:382
教員数	23名		
学校名	西小岩幼稚園(東京都江戸川区西小岩3-17-9)	学級数:6	児童数:124
教員数	9名		
学校名	カナリヤ幼稚園(東京都町田市山崎町2088番地1)	学級数:11	児童数:330
教員数	33名		
学校名	学校法人ひかり学園 第一ひかり幼稚園(神奈川県川崎市川崎区貝塚1-12-12)	学級数:7	児童数:194
教員数	17名		
学校名	学校法人田園学園 宮崎台幼稚園(神奈川県川崎市宮前区宮崎2-3-3番地)	学級数:13	児童数:410
教員数	29名		
学校名	学校法人若葉会佐藤学園 若葉幼稚園(神奈川県横浜市鶴見区寺谷2-12-26)	学級数:5	児童数:143
教員数	18名		
学校名	学校法人瀬戸学園 都岡幼稚園(神奈川県横浜市旭区下川井町272)	学級数:12	児童数:312
教員数	17名		
学校名	黒滝幼稚園(神奈川県横浜市緑区鴨居町803-1)	学級数:8	児童数:220
教員数	18名		
学校名	学校法人神奈川県住宅福祉学園 汐見台中央幼稚園(神奈川県横浜市磯子区汐見台2丁目8番地)	学級数:10	児童数:292
教員数	14名		
学校名	かもめ幼稚園(神奈川県横浜市港南区港南台2-21-12)	学級数:6	児童数:124
教員数	8名		
学校名	学校法人川崎学園 つくしの幼稚園(神奈川県相模原市南区新磯野3丁目22番16号)	学級数:10	児童数:270
教員数	16名		
学校名	学校法人長友学園 太陽の子幼稚園(神奈川県相模原市緑区原宿南3-6-10)	学級数:9	児童数:201
教員数	17名		
学校名	こばやし幼稚園(神奈川県藤沢市遠藤641-13)	学級数:10	児童数:300
教員数	27名		
学校名	秋葉台幼稚園(神奈川県藤沢市遠藤2958-3)	学級数:9	児童数:269
教員数	20名		
学校名	学校法人新藤学園 美里幼稚園(神奈川県平塚市下島824番地)	学級数:6	児童数:134
教員数	13名		
学校名	学校法人平岡学園 平岡幼稚園(神奈川県平塚市岡崎3024番地)	学級数:9	児童数:243
教員数	15名		
学校名	青い鳥幼稚園(神奈川県横須賀市三春町2-6)	学級数:3	児童数:173

教員数	20名		
学校名	学校法人御幸学園 横須賀幼稚園(神奈川県横須賀市本町3-9)	学級数: 6	児童数: 173
教員数	14名		
学校名	海老名幼稚園(神奈川県海老名市さつき町5番地)	学級数: 12	児童数: 316
教員数	34名		
学校名	座間孝道幼稚園(神奈川県座間市相模が丘3-66-29)	学級数: 6	児童数: 109
教員数	14名		
学校名	やなぎ幼稚園(神奈川県大和市中央5-9-5)	学級数: 12	児童数: 316
教員数	22名		
学校名	学校法人なかい学園 森の里幼稚園(神奈川県厚木市森の里1丁目30番1号)	学級数: 3	児童数: 41
教員数	7名		
学校名	小田原市立酒匂幼稚園(神奈川県小田原市酒匂6丁目8番26号)	学級数: 4	児童数: 114
教員数	16名		
学校名	小田原市立矢作保育園(神奈川県小田原市矢作231番地)	学級数: 4	児童数: 138
教員数	13名		
学校名	小田原市立報徳幼稚園(神奈川県小田原市柳新田129-3)	学級数: 2	児童数: 54
教員数	2名		
学校名	学校法人八幡学園 名古屋西幼稚園(愛知県名古屋市西区菊井2丁目2番10号)	学級数: 5	児童数: 126
教員数	10人		
学校名	国風第一幼稚園(愛知県名古屋市西区笠取町2-89)	学級数: 9	児童数: 293
教員数	20名		
学校名	国風第三幼稚園(名古屋市西区宝池町350)	学級数: 9	児童数: 271
教員数	23名		
学校名	学校法人天王学園幼稚園(大阪府茨木市大正町3-15)	学級数: 10	児童数: 290
教員数	31名		
学校名	学校法人多幾山学園 焼山こぼと幼稚園(広島県呉市押込西平町29-84)	学級数: 12	児童数: 340
教員数	30名		
学校名	サルナート幼稚園(福岡県福岡市博多区博多駅南3丁目18-28)	学級数: 3	児童数: 90
教員数	10名		
学校名	学校法人豊田学園 淡水幼稚園(福岡県福岡市博多区諸岡1丁目18-3)	学級数: 12	児童数: 426
教員数	36名		
学校名	美和台幼稚園(福岡県福岡市東区美和台2丁目24-1)	学級数: 16	児童数: 541
教員数	58名		
学校名	学校法人大里学園 みどりがおか幼稚園(福岡県福岡市南区中尾1丁目32-32)	学級数: 9	児童数: 155
教員数	13名		

## 教育実習計画表

### ○ 教育実習の種別・期間

- ・ 4 週間行う教育実習履修を必要とします。

### ○ 幼稚園教育実習の進め方（実習の内容）

- ・ 対象児…年少・年中・年長のいずれかのクラス

#### ・ 実習の進め方

見学・観察 参加実習	観察・参加実習	参加・指導実習
1 週間	3 週間	

### → 【教育実習】

#### （1 週目）

- ① 実習園のオリエンテーション
  - ・ 教育実習に備えて、幼稚園側の説明を受けます。あるいは質問をします。
  - ・ あなたが電話を園長先生に直接して、直接日時のお約束をします。
- ② 見学・観察・参加実習
  - ・ 目的：幼稚園教諭の保育活動と子どもの様子を「積極的な態度」で観察し、かつ担当教諭の指導や指示に従って保育活動に参加します。

- ・ 一日の保育の流れを把握し理解する。
- ・ 子どもが幼稚園で生活する姿を理解する。
- ・ 幼稚園教諭の子どもへの援助、及びその他の活動を理解する。

#### （2 週目以降）

- ① 観察・参加実習
  - ・ 目的：配属されたクラスの担当教諭の指導や指示に従いながら保育を受けもちます。

- ・ 観察実習で把握した一日の保育の流れを、その活動に参加することによって、より深く体験的に認識する。
- ・ 直接子どもに働きかけることによって、観察実習で得た子どもの姿をより正しく認識する。
- ・ 幼稚園教諭と保育活動を補助的に受け持つことによって、幼稚園教諭の職務内容や役割、他の職員との連携の実態を把握する。
- ・ 登園や降園の状況を観察したり、送迎に参加したりすることによって、園と家庭との連携の大切さやその方法について理解する。

## ② 参加・指導実習（部分実習・責任実習）

- ・目的：見学、観察、参加実習を終えて、実習生自身が幼稚園教諭の立場で、幼稚園教諭としての責任を負って保育活動をおこなうことを目的とする。部分実習を経験した後で責任実習をおこなう。

- ・子ども一人ひとりの実態を把握する。  
→担当クラスの子ども一人ひとりを丁寧に記録する。
- ・子どもの実態に即した指導案を作成する。
- ・ねらいに応じた環境構成を設定、内容を決定する。
- ・実際の保育の指導技術を身につける。
- ・幼稚園教諭の保育活動を補助的に受けもつことによって、幼稚園教諭の職務内容や役割、他の職員との連携のあり方を的確に把握する。
- ・登園や降園の状況を観察したり、送迎に参加したりすることによって園と家庭との連携の重大さやその方法をより深く理解する。
- ・省察することによって、自分の保育活動に関する反省・評価をする。

## ③実習に必要なもの

- ・実習日誌（毎日記述し、次の日には提出する）
- ・実習生紹介
- ・出勤表（毎朝、出勤時にハンコを押す）
- ・名札や教材など、現時点で持っている「引き出しの中身」を全てもっていく。

## ○ 実習生の心得

「謙虚な態度→謙虚(な気持ち)になる！」をもって指導を受け、積極的に実習に参加する。かつ心身ともに健康な状態で実習に参加できるように努力する。

学籍番号		実習生		記入者	
実習園名		面会者		巡回日	

巡回担当の学生について、下記の項目を本人との面接、実習園の担当者への聞き取り、場面観察、日誌などから確認して下さい。なお、問題があるようならば巡回指導後、学科室へご連絡下さい。担当者が対応いたします。(巡回当日に電話で学科室に口頭報告し、巡回後、速やかに学科室へ本紙を提出してください)

項目	内容	✓	特記事項(あれば記入)
健康	健康である(風邪をひいていない、夜眠れているなど)。		
積極性	子どもの中に積極的に入っている。 ※できていない場合は、今どうすればよいかを自分で考えさせる。または、巡回教員がアドバイスして気付かせる。		
	自分で考えながら行動している。 ※できていない場合、どのようにすればよいかを学生と共に考えてアドバイスをする。		
日誌	日誌を毎日提出している。		
(質問された際に活用して下さい) 日誌評価の視点	全体	日課は、簡潔に要点をつかんで書いている。(文字や文章が読みやすく書けている)	この欄はチェック不要です。
	表面	「今日の課題」は1年時よりステツパツしている。「今日の保育のねらい」が記入してある。	
	エピソード記録	エピソード記録は、(教育実習I期の・・・) 「何をしていたときに」 「何歳児が」 「子どもの様子/保育者のかかわり」 「どうしてだろう」 「この観察や関わりからわかったこと」 以上の要点を外さずに自分で文書構成しながら書いている。	
	反省	「本日の反省・気づき」は、今日の課題を念頭に置き、翌日の「今日の課題」につながるように書いている。	
指導案	部分実習や責任実習の日程を担当の先生と調整している。調整していない場合は、その場で、実習生と巡回教員が園と調整をする。		
	指導案を提出している。提出していない場合、その場で、実習生にどこまでできているか現状を尋ね、提出期限を園と話し合い調整する。		

面接内容や実習園からのお話など



通信教育課程 実習巡回計画表

①実習時期

地域	授業科目	2年次												
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
小田原	教育実習指導					事前	事前				事後	事後		
	教育実習							実習	実習					
札幌	教育実習指導						事前					事後		
	教育実習							実習	実習					
東京	教育実習指導						事前					事後		
	教育実習							実習	実習					
大阪	教育実習指導						事前	事前			事後	事後		
	教育実習							実習	実習					
福岡	教育実習指導						事前				事後			
	教育実習							実習	実習					

## ②実習巡回指導計画

No.	実習依頼施設名	住所	実習依頼学生数	巡回計画			
				1週目	2週目	3週目	4週目
1	清明幼稚園	北海道札幌市東区北10条東14丁目2番8号	3	間野			
2	美晴幼稚園	北海道札幌市豊平区月寒西2条7丁目2-16	3	間野			
3	札幌ゆたか幼稚園	北海道札幌市豊平区豊平1条4丁目2番19号	3	間野			
4	ドリーム幼稚園	宮城県仙台市若林区飯田字築道11	4		間野		
5	ふくだまち幼稚園	宮城県仙台市宮城野区福田町2丁目26番1号	4		間野		
6	塩釜ひまわり幼稚園	宮城県塩釜市字伊保石234	4		間野		
7	みどり幼稚園	福島県相馬市中村字大手先39	4		間野		
8	朝霞たちばな幼稚園	埼玉県朝霞市宮戸3丁目7番1号	4		専任教員		
9	横川幼稚園	東京都八王子市横川町209	3				専任教員
10	板橋向原幼稚園	東京都板橋区向原2丁目31番3号	5		宇佐美		
11	石川幼稚園	東京都北区西ヶ原1丁目48番16号	8		宇佐美		
12	西小岩幼稚園	東京都江戸川区西小岩3-17-9	3			菊地	
13	カナリヤ幼稚園	東京都町田市山崎町2088番地1	3				野津
14	第一ひかり幼稚園	神奈川県川崎市川崎区貝塚1-12-12	2		菊地		
15	宮崎台幼稚園	神奈川県川崎市宮前区宮崎2-3-3番地	2		菊地		
16	若葉幼稚園	神奈川県横浜市鶴見区寺谷2-12-26	2				宇佐美
17	都岡幼稚園	神奈川県横浜市旭区下川井町272	2				宇佐美
18	黒滝幼稚園	神奈川県横浜市緑区鴨居町803-1	3		野津		
19	汐見台中央幼稚園	神奈川県横浜市磯子区汐見台2丁目8番地	2		野津		
20	かもめ幼稚園	神奈川県横浜市港南区港南台2-21-12	2		野津		
21	つくしの幼稚園	神奈川県相模原市南区新磯野3丁目22番16号	3				菊地
22	太陽の子幼稚園	神奈川県相模原市緑区原宿南3-6-10	2				菊地
23	こばやし幼稚園	神奈川県藤沢市遠藤641-13	2		間野		
24	秋葉台幼稚園	神奈川県藤沢市遠藤2958-3	2		間野		
25	美里幼稚園	神奈川県平塚市下島824番地	3		菊地		
26	平岡幼稚園	神奈川県平塚市岡崎3024番地	2		菊地		
27	青い鳥幼稚園	神奈川県横須賀市三春町2-6	3	宇佐美			
28	横須賀幼稚園	神奈川県横須賀市本町3-9	3	宇佐美			
29	海老名幼稚園	神奈川県海老名市さつき町5番地	3			菊地	
30	座間孝道幼稚園	神奈川県座間市相模が丘3-66-29	3			菊地	
31	やなぎ幼稚園	神奈川県大和市中央5-9-5	2			菊地	
32	森の里幼稚園	神奈川県厚木市森の里1丁目30番1号	7			菊地	
33	酒匂幼稚園	神奈川県小田原市酒匂6丁目8番26号	7				野津
34	矢作保育園	神奈川県小田原市矢作231番地	7	宇佐美			

## ②実習巡回指導計画

No.	実習依頼施設名	住所	実習依頼学生数	巡回計画			
				1週目	2週目	3週目	4週目
35	報徳幼稚園	神奈川県小田原市柳新田129-3	1	宇佐美			
36	名古屋西幼稚園	愛知県名古屋市西区菊井2丁目2番10号	6			間野	
37	国風第一幼稚園	愛知県名古屋市西区笠取町2-89	6			間野	
38	国風第三幼稚園	名古屋市西区宝池町350	5			間野	
39	天王学園幼稚園	大阪府茨木市大正町3-15	20				間野
40	多幾山学園	広島県呉市押込西平町29-84	10				間野
41	サルナート幼稚園	福岡県福岡市博多区博多駅南3丁目18-28	2		専任教員		
42	淡水幼稚園	福岡県福岡市博多区諸岡1丁目18-3	12		専任教員		
43	美和台幼稚園	福岡県福岡市東区美和台2丁目24-1	5		専任教員		
44	みどりがおか幼稚園	福岡県福岡市南区中尾1丁目32-32	5		専任教員		

## 科目修得試験開催日程表

科目修得試験 ※年4回(年次進行に従い土曜日開催を実施する)

&lt;小田原開催&gt;

平成26年度													
1	6月 29日	日曜日	文学	日本国憲法	総合文化	子どもの保健 I	社会福祉	児童家庭福祉	教育原理	保育の心理学 I	表現指導法	視聴覚教育	障害児保育 I
2	9月 7日	日曜日	心理学	生物学	職業と社会 I	英語	保育原理	保育者論	教育制度論	健康指導法	人間関係指導法	乳幼児保育 I	
3	11月 30日	日曜日	文学	日本国憲法	総合文化	子どもの保健 I	社会福祉	児童家庭福祉	教育原理	保育の心理学 I	表現指導法	視聴覚教育	障害児保育 I
4	2月 1日	日曜日	心理学	生物学	職業と社会 I	英語	保育原理	保育者論	教育制度論	健康指導法	人間関係指導法	乳幼児保育 I	
平成27年度													
1	6月 27日	土曜日	文学	総合文化	子どもの保健 I	社会福祉	児童家庭福祉	教育原理	保育の心理学 I	表現指導法	視聴覚教育		
	6月 28日	日曜日	日本国憲法	経済学	地域と福祉	健康・スポーツ理論	家庭支援論	保育課程論	教育相談	障害児保育 I			
2	9月 5日	土曜日	生物学	職業と社会 I	英語	保育原理	保育者論	教育制度論	健康指導法	人間関係指導法			
	9月 6日	日曜日	心理学	児童館の機能と運営	職業と社会 II	社会的養護	音楽表現 II	保育内容総論 II	幼児理解の理論と方法	乳幼児保育 I			
3	11月 28日	土曜日	文学	総合文化	子どもの保健 I	社会福祉	児童家庭福祉	教育原理	保育の心理学 I	表現指導法	視聴覚教育		
	11月 29日	日曜日	日本国憲法	経済学	地域と福祉	健康・スポーツ理論	家庭支援論	保育課程論	教育相談	障害児保育 I			
4	2月 6日	土曜日	生物学	職業と社会 I	英語	保育原理	保育者論	教育制度論	健康指導法	人間関係指導法			
	2月 7日	日曜日	心理学	児童館の機能と運営	職業と社会 II	社会的養護	音楽表現 II	保育内容総論 II	幼児理解の理論と方法	乳幼児保育 I			

<札幌・仙台・東京開催>

平成26年度													
1	6月 29日	日曜日	文学	日本国憲法	総合文化	子どもの保健 I	社会福祉	児童家庭福祉	教育原理	保育の心理学 I	表現指導法	視聴覚教育	障害児保育 I
2	9月 7日	日曜日	心理学	生物学	職業と社会 I	英語	保育原理	保育者論	教育制度論	健康指導法	人間関係指導法	乳幼児保育 I	
平成27年度													
1	9月 5日	土曜日	生物学	職業と社会 I	英語	保育原理	保育者論	教育制度論	健康指導法	人間関係指導法			
	9月 6日	日曜日	心理学	児童館の機能と運営	職業と社会 II	社会的養護	音楽表現 II	保育内容総論 II	幼児理解の理論と方法	乳幼児保育 I			
2	2月 6日	土曜日	生物学	職業と社会 I	英語	保育原理	保育者論	教育制度論	健康指導法	人間関係指導法			
	2月 7日	日曜日	心理学	児童館の機能と運営	職業と社会 II	社会的養護	音楽表現 II	保育内容総論 II	幼児理解の理論と方法	乳幼児保育 I			

<名古屋・大阪・広島・福岡開催>

平成26年度													
1	11月 30日	日曜日	文学	日本国憲法	総合文化	子どもの保健 I	社会福祉	児童家庭福祉	教育原理	保育の心理学 I	表現指導法	視聴覚教育	障害児保育 I
2	2月 1日	日曜日	心理学	生物学	職業と社会 I	英語	保育原理	保育者論	教育制度論	健康指導法	人間関係指導法	乳幼児保育 I	
平成27年度													
1	6月 27日	土曜日	文学	総合文化	子どもの保健 I	社会福祉	児童家庭福祉	教育原理	保育の心理学 I	表現指導法	視聴覚教育		
	6月 28日	日曜日	日本国憲法	経済学	地域と福祉	健康・スポーツ理論	家庭支援論	保育課程論	教育相談	障害児保育 I			
2	11月 28日	土曜日	文学	総合文化	子どもの保健 I	社会福祉	児童家庭福祉	教育原理	保育の心理学 I	表現指導法	視聴覚教育		
	11月 29日	日曜日	日本国憲法	経済学	地域と福祉	健康・スポーツ理論	家庭支援論	保育課程論	教育相談	障害児保育 I			

## スクーリング開催日程表

## (1) スクーリング時間割設定

	1限	2限	昼休み	3限	4限	5限	(6限)
	9:00~ 10:30	10:40~ 12:10		13:00~ 14:30	14:40~ 16:10	16:20~ 17:50	18:00~ 19:30

## (2) 短期スクーリング及び週末スクーリングの時間割設定

## ・ 1単位あたり15コマ実施する場合(演習, 実験・実習)

	1限	2限	昼休み	3限	4限	5限	(6限)
	9:00~ 10:30	10:40~ 12:10		13:00~ 14:30	14:40~ 16:10	16:20~ 17:50	18:00~ 19:30
1日目		1		2	3	4	5
2日目	6	7		8	9	10	11
3日目	12	13		14	15		

## ・ 1単位あたり8コマ実施する場合(講義)

	1限	2限	昼休み	3限	4限	5限	(6限)
	9:00~ 10:30	10:40~ 12:10		13:00~ 14:30	14:40~ 16:10	16:20~ 17:50	18:00~ 19:30
1日目		1		2	3	4	
2日目	5	6		7	8		

### (3)スクーリング日程(平成26年度～27年度)

<小田原キャンパス>

平成26年度

学期	土曜集中スクーリング								週末スクーリング								夏期スクーリング			
	A日程		B日程		C日程		D日程		A日程		B日程		C日程		D日程		A日程		B日程	
実施期間	7/12(土)・19(土)・26(土)		10/11(土)・18(土)・25(土)		11/15(土)・22(土)・29(土)		2/7(土)・14(土)・21(土)		6/14(土)・15(日)・21(土)・22(日)		9/13(土)・14(日)・15(月)		12/6(土)・7(日)・13(土)・14(日)		1/17(土)・18(日)・24(土)・25(日)		8/2(土)～9(土)		8/10(日)～8/17(日)	
1 年 次	環境指導法	野津	音楽表現 I A	芝海・東元	健康スポーツ実 技	木戸	造形表現 I	吉田収	身体表現 I	宇佐美	音楽表現 I B	芝海・東元	身体表現 II	宇佐美	基礎学力演習	金澤・大森	言語表現	大森	言語表現	大森
			情報諸理論	岩田													造形表現 II	吉田収	造形表現 II	吉田収
																	保育の心理学 II	宮川	言葉指導法	大森
																	社会的養護内容	村田	子どもの食と栄養	宮寺

平成27年度

学期	土曜集中スクーリング								週末スクーリング								夏期スクーリング			
	A日程		B日程		C日程		D日程		A日程		B日程		C日程		D日程		A日程		B日程	
実施期間	7/11(土)・18(土)・25(土)		10/10(土)・17(土)・24(土)		11/14(土)・21(土)・28(土)		2/6(土)・13(土)・20(土)		6/13(土)・14(日)・20(土)・21(日)		9/19(土)・20(日)・21(月)		12/5(土)・6(日)・12(土)・13(日)		1/16(土)・17(日)・23(土)・24(日)		8/1(土)～8(土)		8/9(日)～8/16(日)	
1 年 次	環境指導法	野津	音楽表現 I A	芝海・東元	健康スポーツ実 技	木戸	造形表現 I	吉田収	身体表現 I	宇佐美	音楽表現 I B	芝海・東元	身体表現 II	宇佐美	基礎学力演習	金澤・大森	言語表現	大森	言語表現	大森
			情報諸理論	岩田													造形表現 II	吉田収	造形表現 II	吉田収
																	社会的養護内容	村田	言葉指導法	大森
																	障害児保育	吉田美	子どもの食と栄養	宮寺
2 年 次					表現総合演習	直井	児童館実習指 導(事後)	熊澤			教育実習指導(事前)	専任教員	教育実習指導(事後)	間野	教育実習指導(事 後)	専任教員	英会話	C.M.ハースト	乳児保育 II	菊地
																	相談援助	村田	児童館実習指導(事 前)	熊澤
																	保育内容総論 I	宮川	保育内容総論 I	宮川
																	保育・教職実践演習 (幼稚園)	専任教員・宮 川	保育・教職実践演習 (幼稚園)	専任教員・宮 川
																	教育実習指導(事前)	間野	保育相談支援	吉田真
																	音楽表現 III	今泉・芝海・望 月・東元	子どもの保健 II	成
																			音楽表現 III	今泉・芝海・望 月・東元

※卒業研究は2年通年の期間で随時、担当専任教員の指示により実施

## 夏期スクーリング

### ①開講科目

		A日程			B日程		
		I	II	III	IV	V	VI
平成26年度	子どもの食と栄養				○		
	造形表現II		○			○	
	言語表現	○					○
	保育の心理学II			○			
	言葉指導法					○	
	社会的養護内容	○					
平成27年度	英会話	○					
	子どもの食と栄養				○		
	子どもの保健II					○	
	相談援助		○				
	音楽表現III			○			○
	造形表現II	○			○		
	言語表現			○			○
	言葉指導法					○	
	保育・教職実践演習(幼稚園)		※			※	
	教育実習指導(事前)		※				
	保育内容総論I		○			○	
	乳児保育II				○		
	障害児保育II						
	社会的養護内容	○					
保育相談支援						○	
児童館実習指導(事前)					※		

※実習関連科目は別紙に記載

### ②開催日程

	A日程	B日程
平成26年度	8月2日(土)～8月9日(土)	8月10日(日)～8月17日(日)
平成27年度	8月1日(土)～8月8日(土)	8月9日(土)～8月16日(土)

### ③時間割

#### 【A日程】

	1限	2限	昼休み	3限	4限	5限	(6限)
	9:00～ 10:30	10:40～ 12:10	12:10～ 13:00	13:00～ 14:30	14:40～ 16:10	16:20～ 17:50	18:00～ 19:30
1日目	1	2		1	2	3	4
2日目	3	4		5	6	II	7
3日目	5	6		9	10	11	-
4日目	7	I		12	13	14	15
5日目	9	10		1	2	3	4
6日目	11	12		5	6	III	7
7日目	13	14		9	10	11	12
8日目	15	-		13	14	15	-

#### 【B日程】

	1限	2限	昼休み	3限	4限	5限	(6限)
	9:00～ 10:30	10:40～ 12:10	12:10～ 13:00	13:00～ 14:30	14:40～ 16:10	16:20～ 17:50	18:00～ 19:30
1日目	1	2		1	2	3	4
2日目	3	4		5	6	V	7
3日目	5	6		9	10	11	-
4日目	7	IV		12	13	14	15
5日目	9	10		1	2	3	4
6日目	11	12		5	6	VI	7
7日目	13	14		9	10	11	12
8日目	15	-		13	14	15	-





<札幌会場>

平成26年度

学期	土曜集中スクーリング								週末スクーリング							
	A日程		B日程		C日程		D日程		A日程		B日程		C日程		D日程	
実施期間	7/12(土)・19(土)・26(土)		10/11(土)・18(土)・25(土)		11/15(土)・22(土)・29(土)		2/7(土)・14(土)・21(土)		6/14(土)・15(日)・21(土)・22(日)		9/13(土)・14(日)・15(月)		12/6(土)・7(日)・13(土)・14(日)		1/17(土)・18(日)・24(土)・25(日)	
1 年 次	健康スポーツ実技	木戸	環境指導法	野津	音楽表現 I A	今泉	音楽表現 I B	今泉	造形表現 I	吉田収	身体表現 I	上野			身体表現 II	上野
					情報処理論	岩田										

平成27年度

学期	土曜集中スクーリング								週末スクーリング							
	A日程		B日程		C日程		D日程		A日程		B日程		C日程		D日程	
実施期間	7/11(土)・18(土)・25(土)		10/10(土)・17(土)・24(土)		11/14(土)・21(土)・28(土)		2/6(土)・13(土)・20(土)		6/13(土)・14(日)・20(土)・21(日)		9/19(土)・20(日)・21(月)		12/5(土)・6(日)・12(土)・13(日)		1/16(土)・17(日)・23(土)・24(日)	
1 年 次	健康スポーツ実技	木戸	環境指導法	野津	音楽表現 I A	今泉	音楽表現 I B	今泉	造形表現 I	吉田収	身体表現 I	上野			身体表現 II	上野
					情報処理論	岩田										
2 年 次									表現総合演習	直井	教育実習指導(事前)	菊地			教育実習指導(事後)	菊地

<東京会場>

平成26年度

学期	土曜集中スクーリング								週末スクーリング							
	A日程		B日程		C日程		D日程		A日程		B日程		C日程		D日程	
実施期間	7/12(土)・19(土)・26(土)		10/11(土)・18(土)・25(土)		11/15(土)・22(土)・29(土)		2/7(土)・14(土)・21(土)		6/14(土)・15(日)・21(土)・22(日)		9/13(土)・14(日)・15(月)		12/6(土)・7(日)・13(土)・14(日)		1/17(土)・18(日)・24(土)・25(日)	
1 年 次	保育の心理学 II	宮川	身体表現 I	宇佐美	音楽表現 I A	芝海	音楽表現 I B	芝海	身体表現 II	上野	健康スポーツ実技	木戸	基礎学力演習	金澤・大森	環境指導法	野津
	情報処理論	岩田			造形表現 I	吉田収	言葉指導法	大森								

平成27年度

学期	土曜集中スクーリング								週末スクーリング							
	A日程		B日程		C日程		D日程		A日程		B日程		C日程		D日程	
実施期間	7/11(土)・18(土)・25(土)		10/10(土)・17(土)・24(土)		11/14(土)・21(土)・28(土)		2/6(土)・13(土)・20(土)		6/13(土)・14(日)・20(土)・21(日)		9/19(土)・20(日)・21(月)		12/5(土)・6(日)・12(土)・13(日)		1/16(土)・17(日)・23(土)・24(日)	
1 年 次	保育の心理学 II	宮川	身体表現 I	宇佐美	音楽表現 I A	芝海	音楽表現 I B	芝海	身体表現 II	上野	健康スポーツ実技	木戸	基礎学力演習	金澤・大森	環境指導法	野津
	情報処理論	岩田			造形表現 I	吉田収	言葉指導法	大森								
2 年 次			表現総合演習	直井					保育・教職実践演習(幼稚園)	専任教員・宮川	教育実習指導(事前)	宇佐美	児童館実習指導(事後)	熊澤	教育実習指導(事後)	宇佐美

※卒業研究は2年通年の期間で随時、担当専任教員の指示により実施

<大阪会場>

平成26年度

学期	土曜集中スクーリング								週末スクーリング							
	A日程		B日程		C日程		D日程		A日程		B日程		C日程		D日程	
実施期間	7/12(土)・19(土)・26(土)		10/11(土)・18(土)・25(土)		11/15(土)・22(土)・29(土)		2/7(土)・14(土)・21(土)		6/14(土)・15(日)・21(土)・22(日)		9/13(土)・14(日)・15(月)		12/6(土)・7(日)・13(土)・14(日)		1/17(土)・18(日)・24(土)・25(日)	
1 年 次	身体表現 I	上野	健康スポーツ実技	木戸	環境指導法	野津	音楽表現 I A	望月・東元	情報処理論	岩田	保育の心理学Ⅱ	宮川	身体表現Ⅱ	上野		
			造形表現 I	吉田収	音楽表現 I B	望月・東元			言葉指導法	大森						

平成27年度

学期	土曜集中スクーリング								週末スクーリング							
	A日程		B日程		C日程		D日程		A日程		B日程		C日程		D日程	
実施期間	7/11(土)・18(土)・25(土)		10/10(土)・17(土)・24(土)		11/14(土)・21(土)・28(土)		2/6(土)・13(土)・20(土)		6/13(土)・14(日)・20(土)・21(日)		9/19(土)・20(日)・21(月)		12/5(土)・6(日)・12(土)・13(日)		1/16(土)・17(日)・23(土)・24(日)	
1 年 次	身体表現 I	上野	健康スポーツ実技	木戸	環境指導法	野津	音楽表現 I A	望月・東元	情報処理論	岩田	保育の心理学Ⅱ	宮川	身体表現Ⅱ	上野		
			造形表現 I	吉田収	音楽表現 I B	望月・東元			言葉指導法	大森						
2 年 次	表現総合演習	直井	教育実習指導(事前)	間野			保育・教職実践演習(幼稚園)	専任教員・宮川			教育実習指導(事前)	間野	教育実習指導(事後)	間野	児童館実習指導(事後)	熊澤
															教育実習指導(事後)	間野

<福岡会場>

平成26年度

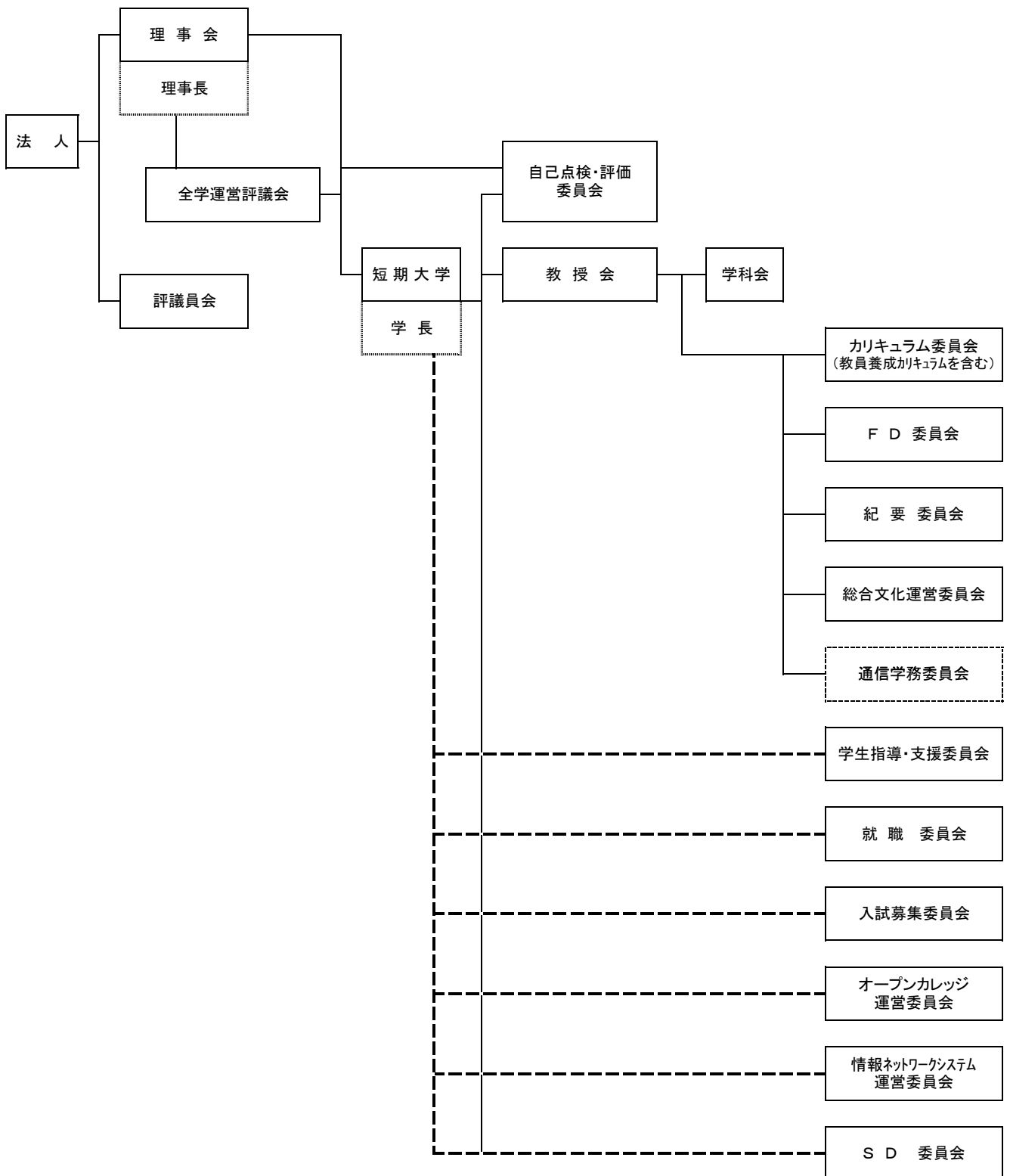
学期	土曜集中スクーリング								週末スクーリング							
	A日程		B日程		C日程		D日程		A日程		B日程		C日程		D日程	
実施期間	7/12(土)・19(土)・26(土)		10/11(土)・18(土)・25(土)		11/15(土)・22(土)・29(土)		2/7(土)・14(土)・21(土)		6/14(土)・15(日)・21(土)・22(日)		9/13(土)・14(日)・15(月)		12/6(土)・7(日)・13(土)・14(日)		1/17(土)・18(日)・24(土)・25(日)	
1 年 次	造形表現 I	吉田収	身体表現 I	上野	身体表現Ⅱ	上野	環境指導法	野津	音楽表現 I A	今泉・望月			音楽表現 I B	今泉・望月	情報処理論	岩田
							健康スポーツ実技	木戸								

平成27年度

学期	土曜集中スクーリング								週末スクーリング							
	A日程		B日程		C日程		D日程		A日程		B日程		C日程		D日程	
実施期間	7/11(土)・18(土)・25(土)		10/10(土)・17(土)・24(土)		11/14(土)・21(土)・28(土)		2/6(土)・13(土)・20(土)		6/13(土)・14(日)・20(土)・21(日)		9/19(土)・20(日)・21(月)		12/5(土)・6(日)・12(土)・13(日)		1/16(土)・17(日)・23(土)・24(日)	
1 年 次	造形表現 I	吉田収	身体表現 I	上野	身体表現Ⅱ	上野	環境指導法	野津	音楽表現 I A	今泉・望月			音楽表現 I B	今泉・望月	情報処理論	岩田
							健康スポーツ実技	木戸								
2 年 次											教育実習指導(事前)	野津	教育実習指導(後)	野津	表現総合演習	直井

※卒業研究は2年通年の期間で随時、担当専任教員の指示により実施

学校法人小田原女子短期大学 委員会等機構図



## 学校法人小田原女子短期大学 委員会等の概要

委員会等	構成員	審議事項	開催
全学運営評議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理事長、常務理事、学長、学科長、大学の事務部門管理職</li> <li>・各学科の中から1名ずつ理事長が任命した者</li> <li>・理事長が必要と認め任命した者</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.理事会から権限委譲された事項又は理事長から付託された事項についての意思決定</li> <li>2.理事会から権限委譲された事項又は理事長から付託された事項についての実行推進</li> <li>3.理事会又は理事長からの諮問事項についての検討・答申等</li> <li>4.法人と大学間の連携及び意思疎通の高揚並びに必要な協議・調整等</li> <li>5.その他前各事項に準ずる事柄</li> </ol>	月2回
自己点検・評価委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常務理事または担当理事、学長、学科長、図書館館長</li> <li>・事務部門の管理職、学生指導・支援委員長</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.自己点検・評価及び相互評価の実施方針、計画、点検・評価項目の設定及び具体的な実行計画等に関する事</li> <li>2.点検・評価結果の評価、取り扱い、活用及び公表に関する事</li> </ol>	年5回程度
教授会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学長、教授、学科長代行の職にある准教授</li> <li>・学長が必要と認めた場合、准教授、講師、助教</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.学則に関する事項</li> <li>2.教育に関わる諸規則に関する事項</li> <li>3.学科課程に関する事項</li> <li>4.学生の入学に関する事項</li> <li>5.学生の単位履修に関する事項</li> <li>6.学生の退学、復学、休学及び卒業に関する事項</li> <li>7.科目等履修並びに聴講に関する事項</li> <li>8.学生の賞罰に関する事項</li> <li>9.学生団体、学生活動、その他学生の生活に関する事項</li> <li>10.学生の厚生並びに指導に関する事項</li> <li>11.教育研究に関する必要な事項</li> <li>12.学長選任規定に基づく選考委員会委員選出に関する事項</li> <li>13.教員の資格審査、任用、昇任、その他教育研究に必要な人事に関する事項</li> <li>14.その他、学長が必要と認めた事項</li> </ol>	月1回
学科会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学長、教授、学科長代行の職にある准教授</li> <li>・学長が必要と認めた場合、准教授、講師、助教</li> <li>・学科に所属する助手、副手及び事務職員</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.教授会からの付託事項</li> <li>2.学科における個別的な諸事項</li> </ol>	月1回
カリキュラム委員会 (教員養成カリキュラムを含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学長が任命した委員(各学科4名)</li> <li>・必要に応じて関係者の同席を要請</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.カリキュラム編成に関する事項</li> <li>2.カリキュラムの充実に関する事項</li> <li>3.学長が諮問した事項</li> <li>4.その他教授会から付託された事項</li> <li>5.教職課程の運営や教職指導を全学的に審議し、またその実施のための体制の中心となる為の事項</li> <li>6.教職課程の「教職に関する事項」として新設された科目「教職実践演習」実施のための「履修カルテ」を作成し、それを踏まえた指導を行う体制の中心となるための事項</li> </ol>	年8回程度

委員会等	構成員	審議事項	開催
FD委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学長、教授会構成員の内から学長が任命した委員（各学科4名）</li> <li>・必要に応じて関係者の同席を要請</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.全学教員の研修に関する事項</li> <li>2.「学生による授業評価」に係る研究に関する事項</li> <li>3.カリキュラムに係る研究に関する事項</li> <li>4.本学におけるGP等に係る研究に関する事項</li> <li>5.教員の研究の充実に関する事項</li> <li>6.学長が諮問した事項</li> <li>7.その他教授会から付託された事項</li> </ol>	必要に応じ随時開催 (年5回程度)
紀要委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教授会構成員の内から学長が任命した委員</li> <li>・必要に応じて関係者の同席を要請</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.研究紀要の企画、予算に関する事項</li> <li>2.研究紀要の編集、発行に関する事項</li> <li>3.投稿論文の査読、審査結果に基づく措置決定及び附帯対応</li> <li>4.学長が諮問した事項</li> <li>5.その他教授会から付託された事項</li> </ol>	年5回程度
総合文化運営委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学長、学長が任命した委員（各学科長および各学科教員2名）</li> <li>・必要に応じて関係者の同席を要請</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.本学の建学の精神を具現化するための教科である「総合文化」の授業の構成に関する事項</li> <li>2.各年度における「総合文化」の企画に関する事項</li> <li>3.「総合文化」の運営に関する事項</li> <li>4.「総合文化」の企画運営に関し、必要とされる事項</li> <li>5.「総合文化」の設置目的に関する学生へのオリエンテーション</li> <li>6.学長が諮問した事項</li> <li>7.その他教授会から付託された事項</li> </ol>	年5回程度
通信学務委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科長、専任教員3名</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.通信教育の履修登録に関する事項</li> <li>2.試験及び成績に関する事項</li> <li>3.カリキュラムに関する事項</li> <li>4.授業科目の担当及び運営に関する事項</li> <li>5.実習に関する事項</li> <li>6.学長が諮問した事項</li> <li>7.その他教授会から付託された事項</li> </ol>	月1回
学生指導・支援委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学長が任命した委員長、各学科の教員から2～3名、学務部長、学務部厚生主担当者</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.本学の教育方針を念頭においた学生の生活指導・支援</li> <li>2.クラス会の運営支援</li> <li>3.大学及び学生自治会(以下、「自治会」という。)との共催による学校行事实施(企画・運営等)の支援</li> <li>4.自治会諸活動(新入生の自治会入会式、前期・後期定期総会、学生各種委員会等)の支援</li> <li>5.課外活動活性化の支援</li> <li>6.自宅外通学学生の支援(集いの開催等)</li> <li>7.学生支援機構による奨学金希望学生の審査</li> <li>8.その他、学生の安全・事故防止等の企画や実施の検討</li> </ol>	月1回

委員会等	構成員	審議事項	開催
就職委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学長が任命した各学科の教員のうちから2～3名、学生部のうちから3名(合計7～9名)</li> <li>・必要に応じて関係者の同席を要請</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.就職関連支援講座、講演会等の年間計画、策定、実施</li> <li>2.就職先企業、幼稚園、福祉施設の調査、折衝、求人申込みの受領、学生への展開</li> <li>3.学生の進路希望調査と進路指導</li> <li>4.企業説明会等の学生への展開、伝達、参加促進支援</li> <li>5.学生の就職活動状況管理と個別指導</li> <li>6.就職統計資料の作成管理</li> <li>7.所轄官公庁への報告、折衝</li> <li>8.新規就職先企業等の開拓</li> <li>9.就職関係予算と実算の管理</li> <li>10.卒業した学生への再就職支援</li> </ol>	月1回
入試募集委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学長が任命した各学科の教員のうちから3名、学生部のうちから3名(合計9名)</li> <li>・必要に応じて関係者の同席を要請</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.入学者募集にかかわる次の事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 広報に関する事項</li> <li>イ 高校訪問、会場説明に関する事項</li> <li>ウ オープンキャンパス等大学における説明会に関する事項</li> <li>エ その他募集にかかわる事項</li> </ul> </li> <li>2.入学者選抜にかかわる次の事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 入学者選抜ポリシーの策定と募集要項の策定と審議</li> <li>イ 入学者選抜規定の改廃に関する策定と審議</li> <li>ウ 入学者選抜基準の策定と審議</li> <li>エ 入学者選抜の実施に関する事項</li> <li>オ 入学者選抜の結果に関する事項</li> <li>カ その他入学者選抜にかかわる事項</li> </ul> </li> </ol>	月1回
オープンカレッジ運営委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学長が任命した各学科の教員のうちから2～3名、学生部のうちから2名(合計6～8名)</li> <li>・必要に応じて関係者の同席を要請</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.大学の講座公開、講演会等の年間計画策定、予算の策定・実施と管理</li> <li>2.小田原市との共催事業である「市民公開講座」の計画、策定、実施</li> <li>3.前2号に係る小田原市当該部局との折衝、申請、報告、等の審議・決定</li> <li>4.公開講座の講師選任、決定</li> </ol>	年7回程度
情報ネットワークシステム運営委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学長が任命した教職員(総務部3名、その他各部署1～2名、計11名)</li> <li>・必要に応じて関係者の同席を要請</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.本学の総合情報ネットワークシステムの構築に関する事項</li> <li>2.本学学生への情報教育展開・発展に関する事項</li> <li>3.前各号に則した情報ネットワーク設備の導入・敷設・メンテナンスに関する事項</li> <li>4.本学教職員の情報リテラシー高揚に関する事項</li> <li>5.情報ネットワーク設備及びシステムの活用並びに稼働運営に関する事項</li> <li>6.情報ネットワークシステム運営上のセキュリティに関する事項</li> <li>7.その他、学長諮問事項への答申等</li> </ol>	年5回程度
SD委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職以外の事務職員等のうちから全学運営評議会において選出された委員(各部署1名以上による合計6名以上8名以内)</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.事務職員等の職務遂行能力向上・開発に関する事項</li> <li>2.全学事務職員等の研修に関する事項</li> <li>3.事務職員等の自己啓発に関する事項</li> <li>4.その他全学運営評議会から付託された事項</li> </ol>	年4回程度

## 小田原女子短期大学のシステム管理体制について

### 1. 学内の管理体制

本学の総合ネットワーク設備及びシステムの整備・運営の円滑化並びに発展を図る目的で情報ネットワークシステム運営委員会を置き、当委員会が中心となりシステムの管理運営を行っている。

### 2. システム全体の管理体制

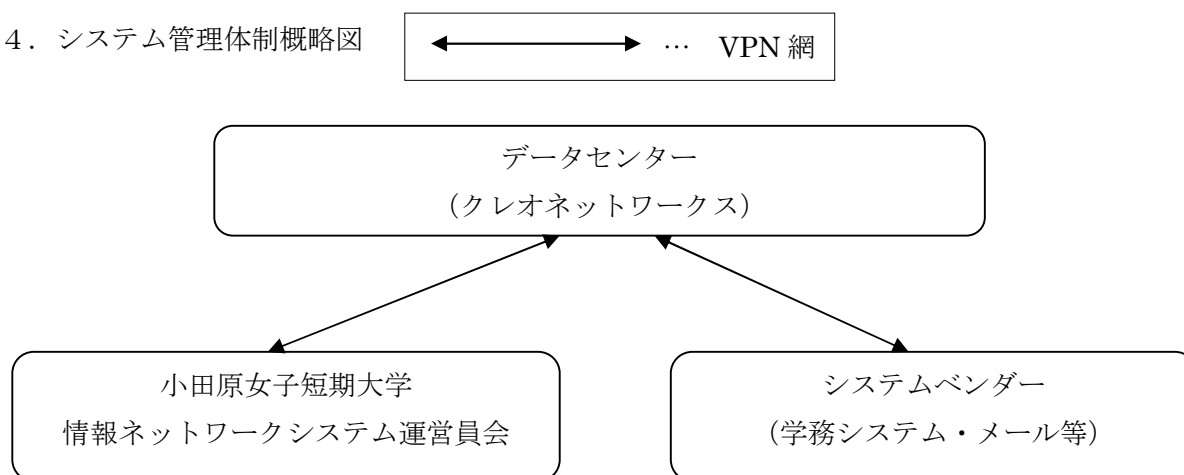
本学サーバ類等のインフラは大手通信系データセンターへ委託。加えて、データセンターと本学間の業務用通信はVPN（仮想専用線）ネットワーク網を構築し、業務情報を取扱う際のセキュリティに充分配慮する。

### 3. 緊急時の連絡体制

データセンターの管理は委託先のクレオネットワークス社が24時間365日体制で行う。トラブル発生の際は即時検知され、各担当者へアラート配信・電話連絡がされる仕組みとなっており、緊急時においてもクレオネットワークス社及び学務システムベンダー並びに本学システム担当者と連携して対応する連絡体制とする。また、バックアップ体制も二重体制を敷きデータ消失がない体制とする。

Google Apps（教育機関用メール等）についてもDNSサーバはデータセンター内に配置、メールシステムに転送異常等があった場合は、上記同様に検知・連絡する体制とする。

### 4. システム管理体制概略図



### 5. サーバトラブル発生時の対応例

- (1) 委託先のクレオネットワークスにてデータセンター内の障害を検知
- (2) 本学担当者及びシステムベンダー担当者へメール・電話で障害内容を通知
- (3) ルーチン化されたトラブル対応は予め対応を決め、クレオネットワークスが対応
- (4) ルーチン化されていない場合は、トラブル状況に応じ三者協議のうえ対応



# 小田原女子短期大学 情報ネットワークシステム運営委員会規程

制定 平成19年9月15日

## (目 的)

第 1 条 この規程は、小田原女子短期大学（以下、「本学」という。）学長直轄の下に設置する情報ネットワークシステム運営委員会（以下「委員会」という。）に関しこれを定め、以って本学の総合情報ネットワーク設備及びシステムの整備・運営の円滑化並びに発展を図ることを目的とする。

## (趣 旨)

第 2 条 この規程は、委員会の運営に関し必要な事項を定める。

## (職務分掌)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる事項の審議を担当する。

- (1) 本学の総合情報ネットワークシステムの構築に関する事項。
  - (2) 本学学生への情報教育展開・発展に関する事項。
  - (3) 前各号に則した情報ネットワーク設備の導入・敷設・メンテナンスに関する事項。
  - (4) 本学教職員の情報リテラシー高揚に関する事項。
  - (5) 情報ネットワーク設備及びシステムの活用並びに稼働運営に関する事項。
  - (6) 情報ネットワークシステム運営上のセキュリティに関する事項。
  - (7) その他、学長諮問事項への答申等。
- 2 委員会の委員は、前項各号に掲げる事項の実施推進にあつて、当該業務所管部署の総務部並びに学務部との連携・協力に努めるものとする。

## (構 成)

- 第 4 条 委員会は、本学教職員の内から学長が任命した委員（総務部3名、その他各部署1～2名、計11名以内）をもって構成し、委員長には総務部長が当たるものとする。
- 2 委員会は、必要に応じて関係者の同席を要請することができる。但し、同席者は、議決権を有しない。

## (運 営)

- 第 5 条 委員会の運営は、次のとおりとする。
- (1) 委員会は、委員長が召集し、議長をつとめる。
  - (2) 委員会は、必要に応じ随時開催する。
  - (3) 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

## (規程の改廃)

第 6 条 この規程の改廃は、全学運営評議会の議を経て学長が行うものとする。

## 付 則

この規程は、平成19年9月15日から施行する。